

国文学演習（2） a・b

久保朝孝

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

平安時代を範囲とし、おもに物語・日記文学を対象とする。中古文学研究の基本的姿勢・方法を実践的に理解・体得することを目的とする。

作品の「読み」の方法を確立し、問題発見・調査・整理・批判・考察の過程を経て、自らの見解をまとめあげる力を養成したい。

【授業計画】

毎回、以下の手順に従って藤原定家筆『更級日記』（三の丸尚蔵館蔵）を精読する。

- (1) 担当者の報告・発表
- (2) 質疑応答
- (3) 批判討論
- (4) 助言

【評価方法】

出席、上記①②③及び期末レポートを総合する。

【テキスト】

御物本 更級日記〈影印〉（橋本不美男解説・笠間書院 1,200円 税込）

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

国文学演習（3） a・b

岩下紀之

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

雨夜の記の講読。

【授業計画】

出席者に調査発表を課する。

【評価方法】

日常の研究成果による。

【テキスト】

教員が用意する。

国文学演習（４） a・b

山下宏明

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

〈文学研究と批評〉と題して作品批評のための方法を考え、あわせてその応用として、時代やジャンルを越えて研究の方法を検討する。

何よりもまず入学者の実態を把握することに努めるが、入学者は、すでに学部において各自の専攻を有し、論文をも執筆している。それぞれの成果が、現在の学界において、いかなる位置を占め、いかなる意味があるかを考えるべきである。そのためには、文学研究の方法を、たえず批評史の課題として相対化しなければならない。

自己の狭い専攻分野にとどまることなく、広く学界の動向の把握を欠いてはならない。そのための研究や批評の錬磨に努める。たえず歴史的な展望が必要である。言い古されたことながら、広い視野と鋭い問題意識を持つことが必要である。こうしたことを課題としながら、院生の一人一人の課題に即して進める。必要に応じて批評史の展望をも概説し参考を提供する予定である。

【授業計画】

前期には、まず各自の、これまでの研究経過の報告を求め、あわせて、その研究史上の位置や意味を考えさせる。必要に応じて、批評の方法を指導する。

後期には、各分野の注目すべき論文や著書を紹介し、読解を行うことを課す。時に、具体的な作品を取り上げ、その解読をも平行して行う。

【評価方法】

出席状況と、各期のレポートにより判定する。

【テキスト】

最低の必読文献として次のものがある。

文学とは何か（T・イーグルトン 岩波書店）

新文学入門（大橋洋一 岩波書店）

文学テキスト入門（前田愛 筑摩書房）

新しい文学のために（大江健三郎 岩波新書）

物語のディスコース（ジェラルド・ジュネット 風の薔薇社）

その他、各種学会誌の論文コピー

国文学演習（５） a・b

阿部一彦

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

近松門左衛門以前の浄瑠璃である説経浄瑠璃の『小栗判官』を解説・鑑賞して行く。

【授業計画】

第1回 説経浄瑠璃概説

第2回 以下 最初に絵巻『をくり』、続いて

第3回 説経浄瑠璃正本を読んで行く。

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回 説経と近代文学

【評価方法】

出席・発表とレポートによる。

【テキスト】

『説経集』（室木弥太郎編著 おうふう）

国文学演習（6） a・b

小倉 斉

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

＜現代小説の方法—作品をどう読み、どう論ずるか—＞
高度経済成長後の日本の現代小説を取り上げ、現代の日本社会が抱える問題を小説がどのように吸収し、作品化しているか、あるいはどのように現代という時代を超える試みをしているか、といった点について追究する。個々の作品の精読および方法意識の検討を通して、言語表現としての文学を研究する方法を身につける。最終的には、「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法を習得することが目標である。

【授業計画】

＜前期＞

- 1 問題の所在：現代小説の方法と課題
- 2 後藤明生『挟み撃ち』（講談社文芸文庫）
- 3 安部公房『燃えつきた地図』（新潮文庫）
- 4 古井由吉『白髪の唄』（新潮文庫）
- 5 山田太一『見えない暗闇』（朝日文芸文庫）
- 6 村上龍『五分後の世界』（幻冬舎文庫）

＜後期＞

- 1 問題の所在：江藤淳『成熟と喪失』から
- 2 安岡章太郎『海辺の光景』（新潮文庫）
- 3 小島信夫『抱擁家族』（講談社文芸文庫）
- 4 吉行淳之介『星と月は天の穴』（講談社文芸文庫）
- 5 庄野潤三『夕べの雲』（講談社文芸文庫）
- 6 阿部昭『司令の休暇』（講談社文芸文庫）

【評価方法】

発表およびレポートの内容により総合的に評価する。

【テキスト】

挟み撃ち（後藤明生 講談社文芸文庫）、燃えつきた地図（安部公房 新潮文庫）、白髪唄（古井由吉 新潮文庫）、見えない暗闇（山田太一 朝日文芸文庫）、五分後の世界（村上龍 幻冬舎文庫）、海辺の光景（安岡章太郎 新潮文庫）、抱擁家族（小島信夫 講談社文芸文庫）、星と月は天の穴（吉行淳之介 講談社文芸文庫）、夕べの雲（庄野潤三 講談社文芸文庫）、大いなる日・司令の休暇（阿部昭 講談社文芸文庫）

国文学演習（7） a・b

都築久義

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

近代作家の著名な作品を毎回とりあげて講義する。

【評価方法】

平常の学習態度

【テキスト】

毎時決める

国文学演習（8） a・b

増井典夫

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

近代日本語研究のありかたを考える。まずは小森陽一の著作を読み、考える所から始める。

【授業計画】

講義及び出席者の調査発表で進める。

【評価方法】

出席とレポートによる。

【テキスト】

日本語の近代（小森陽一 岩波書店）
その他は授業時の指示による。

国文学特講（1） b

島田修三

集中 1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

〈古代和歌とおんな歌〉

古代和歌の贈答には男女の相聞的な贈答と男同士の友愛的贈答との2系列があつて、テキストの水準では両者の区別はきわめて難しい。前者は闘争的・対立的な表現を取り、後者は親和的・友好的な表現を取る。こうした対照的な贈答の起源には、古代の祝祭とその儀礼が想定できる。本講義では、古代和歌の贈答をつぶさに講読することによって、贈答の実態を確認し、ひいてはその起源の問題まで考察して行くことを目的とする。

【授業計画】

- 第1回 古代の祝祭と神婚(1)
- 第2回 古代の祝祭と神婚(2)
- 第3回 初期万葉の贈答歌(1)
- 第4回 初期万葉の贈答歌(2)
- 第6回 初期万葉の贈答歌(3)
- 第7回 白鳳万葉の贈答歌(1)
- 第8回 白鳳万葉の贈答歌(2)
- 第9回 天平万葉の贈答歌(1)
- 第10回 天平万葉の贈答歌(2)
- 第11回 天平万葉の贈答歌(3)
- 第12回 総括

【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

『万葉集』上・下（伊藤博校注 角川文庫）

※なお、『万葉集』全歌が収録されたテキストを所有している場合は、それでも可

国文学特講（2） a・b

久保朝孝

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

平安時代を範囲とし、おもに物語・日記文学を対象とする。中古文学研究の基本的姿勢・方法を実践的に理解・体得することを目的とする。

作品の「読み」の方法を確立し、問題発見・調査・整理・批判・考察の過程を経て、自らの見解をまとめあげる力を養成したい。

【授業計画】

<前期>

毎回、以下の手順に従って『竹取物語』を精読する。

- (1) 担当者の報告・発表
- (2) 質疑応答
- (3) 批判討論
- (4) 助言

<後期>

『竹取』における「引用」と、後代作品における『竹取』「被引用」の問題を考察する。

【評価方法】

出席、上記(1)(2)(3)及び期末レポートを総合する。

【テキスト】

新版『竹取物語』（室伏信助訳注 角川ソフィア文庫 629円 税別）

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

国文学特講（3） a・b

岩下紀之

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

書陵部蔵賦物連歌の講読。

【授業計画】

出席者に調査発表を課する。

【評価方法】

日常の研究成果による。

【テキスト】

教員が用意する。

国文学特講（４） a・b

山下宏明

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

『平治物語』の読みをとおり、文学研究、特に古典研究のあり方を考える。いくさ物語、いわゆる〈軍記物語〉のとりあげ方に、1945年以後の文学批評のあり方を考えるのが最大の課題である。そのために『平治物語』のテキストを読むかたわら、学会誌に掲載される論文の評価にも及ぶ。

【授業計画】

院生の課題について報告を求め、その方向性や方法について意見交換を行う。

『平治物語』の現状について解説する。

それが古典研究に、いかなる意味を有するかを考える。その上で、古典テキストの課題について考える。

【評価方法】

平常の出席状況、報告の内容と方法を評価しつつ、期末にレポートの提出を求めて総合的に判定する。

【テキスト】

岩波、新日本古典文学大系『保六物語 平治物語 私久記』

国文学特講（５） a・b

阿部一彦

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

『近世文学史』（双文社出版）を使用して、以下の授業計画に従って、近世文学の概要を講義し、主要作品の解説・研究を行なう。

【授業計画】

第1回	近世文学の時代区分について
第2・3回	第一章 戦乱から安定へ
第4・5回	第二章 町人文化の開花
第6・7回	第三章 自由と抑圧
第8・9回	第四章 文武両道の理想
第10・11回	第五章 内憂外患の危機
第12回	近世文学の研究状況

【評価方法】

出席・発表とレポートによる。

【テキスト】

『近世文学史』（佐藤毅他編著 双文社）

国文学特講（6） a・b

小倉 斉

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

＜近代小説の方法と課題—作品をどう読むか—＞

明治・大正期を代表する小説を史的に展望しつつ、日本の近代小説が時代や社会の問題とどのように切り結んだかについて検証し、近代小説における典型的な主題やモチーフを作品に即して追究する。本年度は、近代小説が描く「家庭」「家族」に焦点を合わせ、注釈を試みつつ、精読する。なお、前期は尾崎紅葉の作品を読み、後期はその他の作家の作品から4～5編を選び、読み進める。

【授業計画】

＜前期＞

- 1 はじめに
- 2 『二人女房』（尾崎紅葉 明治24=1891年）
- 3 『三人妻』（尾崎紅葉 明治25=1892年）
- 4 『多情多恨』（尾崎紅葉 明治29=1896年）
- 5 『金色夜叉』（尾崎紅葉 明治30=1897年～）

＜後期＞

以下の作品から4～5編を選び、精読する。

『細君』（坪内逍遙 明治22=1889年）、『十三夜』（樋口一葉 明治28=1895年）、『くれの廿八日』（内田魯庵 明治31=1898年）、『不如帰』（徳富蘆花 明治31～32=1898～1899）、『乳姉妹』（菊池幽芳 明治36=1903）、『女夫波』（田口掬汀 明治37=1904）、『其面影』（二葉亭四迷 明治39=1906年）、『蒲団』（田山花袋 明治40=1907年）、『半日』（森鷗外 明治42=1909年）、『家』（島崎藤村 明治43=1910年）、『道草』（夏目漱石 大正4=1915年）、『苦の世界』（宇野浩二 大正9=1920年）

【評価方法】

授業への参加状況、発表およびレポートの内容によって総合的に評価する。

【テキスト】

金色夜叉（尾崎紅葉 新潮文庫）、大つごもり・十三夜（樋口一葉 岩波文庫）、不如帰（徳富蘆花 岩波文庫）、其面影（二葉亭四迷 岩波文庫）、蒲団・一兵卒（田山花袋 岩波文庫）、家（島崎藤村 新潮文庫）、道草（夏目漱石 岩波文庫）、苦の世界（宇野浩二 岩波文庫）

国文学特講（7） a・b

都築久義

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

近代作家の著名な作品を毎回とりあげて講義する。

【授業計画】

作家・作品ごとに発表者を決め、発表をもとに討議する。

【評価方法】

平素の学習態度を中心に評価する。

【テキスト】

特に定めず。

国文学特講（8） a・b

増井典夫

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

母語である日本語の歴史を知ることは現代日本語を知ることである。国語学界の現状を憂い、問題提起を行ってきた小松英雄氏の著作を読み、分析し、国語学研究的現状をとらえることから始める。

そこから近現代日本語の様々な問題の考察に進んでいく。

【授業計画】

初めの数回は講義形式で進める。その後は担当範囲を決め、順に報告発表する。

【評価方法】

出席状況とレポートによる。

【テキスト】

日本語の歴史（小松英雄 笠間書院）

その他は授業時の指示による。

特殊研究（1）国文学特論b

佐藤秀明

集中 1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

〈「戦後」と「戦後文学」の検討〉

グローバリゼーションとアンチ・グローバリゼーションが併存し、そこにアメリカー国主義と反米意識の対立が絡み合う様相は、日本においては占領下から発していると言つてよい。その様相を視野に入れつつ、雑誌「近代文学」のメンバーであり、「戦後文学」を「戦後派的」視点から見てきた本多秋五の『物語戦後文学史』を検討する。テキストを丹念に読み、別の視点を導入することで、本多の記述を相対化し再検討したい。「戦後文学」とは何であり、ひいては「戦後」とは何であったのか（あるいは、あるのか）を問うことを目標とする。

とりあえず『物語戦後文学史』の主要な目次を抜き出し、授業計画として挙げるが、実際の授業はこれらの項目を錯綜させ、対比させたいと考えている。

【授業計画】

- 1、雑誌「近代文学」
- 2、石川淳
- 3、「占領下の文学」という規定
- 4、野間宏・梅崎春生・椎名麟三
- 5、太宰治
- 6、大岡昇平
- 7、武田泰淳
- 8、三島由紀夫
- 9、国民文学論争・竹内好
- 10、小島信夫

【評価方法】

400字詰原稿用紙10枚程度のレポートの内容を中心に、授業での質疑応答を加味する。

【テキスト】

本多秋五『物語戦後文学史（上中下）』（岩波書店・同時代ライブラリー）

特殊研究(2) 日本古典書誌学 I a・b

藤井 隆

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

日本の古典を研究する者で、古典の原資料(近世やそれ以前の写本、刊本など)を調査し、研究や発表をしない者は少ないであろう。その場合、原資料の紙質、装訂、文字筆跡、印刷などに関する知識が必要不可欠となる。しかるに担当者の不足によってか、歴史分野の古文書学に比して、大学や院での開講が少なく、殆ど個人個人の自己努力で補っている場合が多い。勿論その深い到達は個々の努力となるものであるが、本講義においては、その基礎を会得してもらおうとするものである。

【授業計画】

- 近世史での書誌学的作業と研究
- 書籍の料紙
 - ・書籍の起源と材料の変遷
 - ・原料による紙の種類、年代
 - ・加工による紙の種類、年代
 - 染色加工紙。赤穂漉造紙。切紙加工紙。
 - 金、銀、雲母、胡粉の加工紙。その他の加工紙。
 - ・金銀加工布。
- 書籍の形状
 - ・装訂の種類。
 - ・書籍の大きさ。
 - ・書籍の形状に関する部分名称。
- 書籍の内容
 - ・書籍の内容に関する種類と用語。
 - ・写本の内容に関する種類と用語。
- 刊本
 - ・刊本の種類と名称。
 - ・刊本の歴史。

以上、テキストにより講義を進めるが、殆ど実物を手にさせて理解できるようにする。出来れば装訂の糸綴りや修理の実習もやりたい。これは少数の院ではないと不可能であるから。

【評価方法】

学生の希望も参考にして、レポート、テスト、その外決定する。

【テキスト】

日本古典書誌学総説(藤井隆著 和泉書院)

特殊研究(4) 中国文学 I a・b

寺尾 剛

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

受講生と相談の上、決定したい。漢文読解能力と資料調査能力の向上を主たる目的としたい。ちなみに平成十年度、十一年度は白居易の新楽府を読んだ。平成十二年度は毎回、受講生が自由にテーマを選び発表した。平成十三年度は「和漢朗詠集」所収の白居易の作品を読んだ。

【授業計画】

「史記」「漢書」「白氏文集」「蒙求」など、あるいは日本漢文(「菅家文草」「本朝文粹」「和漢朗詠集」など)でもよい。

【評価方法】

平常点及びレポート

【テキスト】

プリント及び授業中に指示

特殊研究（5）中国文学Ⅱ a・b

寺尾 剛

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

1. 国文学研究に必要な漢文知識を養う。
2. 日中比較の視点を養う。
3. 中国文献の取り扱い方を養う。

【授業計画】

受講者の希望に沿う。

平成十年度・十一年度は『白氏文集』「新楽府」を輪読した。平成十二年度は、各担当者が自由にテーマを見つけ出し、発表した。平成十三年度は『和漢朗詠集』所収の白居易の作品を輪読した。

【評価方法】

平常点及びレポート。

【テキスト】

未定。

下記の科目は、本年度開講しません。

国文学演習（1） a・b**国文学特講（1） a****特殊研究（1）国文学特論 a****特殊研究（3）日本古典書誌学Ⅱ a・b**

藤井 隆

英文学演習Ⅱ a・b

大野光子

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

アイルランド民衆詩と現代詩との関係を探り、文学的伝統の本質を明らかにすることを目標に、*Watching the River Flow - A Century in Irish Poetry* 収録の詩を読み、イエイツ以後の詩人たちの作品を研究する。社会・歴史的背景についても、文学テキスト同様に資料輪読を進め、詩の理解を深めることを目指す。

【授業計画】

前期は、特に上記テキストおよび資料の輪読を中心とし、後期にはさらにイエイツ、A.クラーク、P.カヴァナー、ヒーニー、ニー・ゴーノル等の作品を輪読し、ディスカッションを行う。

【評価方法】

平常点およびレポートにより評価。

【テキスト】

Duffy and Dorgan, ed., *Watching the River Flow - A Century in Irish Poetry* (Poetry Ireland)

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

英文学演習Ⅲ a・b

柳原佳枝

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

キリスト教の信仰や伝統に目を向けず、英文学の理解を深めることは不可能なことと思う。この演習では、特に英文学とキリスト教文化の関わりに視点を置いて、作品研究を進める。

【授業計画】

〈前期〉

G. Herbert, H. Vaughan, W. Blake, C. Rossetti, G. M. Hopkinsなどの信仰詩を読む。

〈後期〉

長編小説を取り上げ、その特性を考察する。

輪読、ディスカッションの形式をとり、授業担当者が場合に応じて補足説明・解説を行う。

【評価方法】

平常の授業における活動とレポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

プリント配布。及び、教室にて随時指示する。

【参考文献・資料】

関連文献は適宜紹介。又は、抜刷を配布する。

米文学演習 I a・b

池谷敏忠

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

T.S.Eliotの *To Criticize the Critic* を用い、そのうち“American Literature and the American Language”を取り上げ、アメリカ文学とアメリカ英語の特質を考察します。

【授業計画】

一年を通してEliotの英文評論を輪読しますので、受講者は前期・後期とも受講することを希望します。

【評価方法】

レポートまたはテストに各自の出席状況を加味して評価します。

【テキスト】

研究室の原書を貸与します。

米文学演習 II a・b

唐澤 恪

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

小説・物語についての理論——ナラトロジー——の知識は、英米小説の研究にも必要である。この演習では、前史的な段階から構造主義以後にかけての、ナラトロジーの展開を考察する。

【授業計画】

前期には、構造主義までの、後期には、構造主義以後のナラトロジーの諸論説を検討する。特にアメリカの小説作品を念頭におきつつ、考究していきたい。輪読形式に、大意発表、ディスカッション、課題についての発表を加える。

【評価方法】

平常の授業における活動とレポートによる。

【テキスト】

プリントを用いる予定。

英語学演習Ⅲ a・b

田中春美

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

言語学を基盤とした英語学の主要分野を復習する。それに加えて、言語学と関連科学が協力する学際的分野のいくつかについて学ぶ。

【授業計画】

前期は、(1) 言語の一般的特徴、(2) 文法の骨組み、(3) 意味論、(4) 言語の変化(歴史・比較言語学)などを、主に英語の事例を用いて復習する。

後期は、(5) 社会言語学、(6) 談話分析と語用論、(7) 神経言語学、(8) 心理言語学などを、やはり英語を中心として学ぶ。

【評価方法】

担当分野の口頭発表と、前後期末のレポートにより評価する。

【テキスト】

R.L.Trask, Language: The Basics Second Edition (Routledge)

英文学特講 (1) a・b

柳 五郎

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

C. DickensのChristmas Carolで老守銭奴と人間愛の対照的人間性の摩擦・燃焼から生じるsentimentalismと社会的背景について考察する。

【授業計画】

C. Dickensの特性、社会情況と文学的位置を講義し、解読過程に於いて、それらを実践的学習を行う。

【評価方法】

翻訳、討論、学習態度とレポートによる。

【テキスト】

C. Dickens: Christmas Carol

【参考文献・資料】

講義中に指示する他、プリント配布。

英米文学特講 a・b

太田直子

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

William Faulknerの代表作品*Light in August*を読む。人種問題等、南部のかかえる様々な問題点について解説を加えながら、いろいろな角度から作品を分析することを試みる。

【授業計画】

作品を読みながら、批評も数多く読む。

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

William Faulkner, *Light in August*

英語学特講 (1) a

橋木勇作

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

英語統語論 (English Syntax)

生成文法による英語の統語分析について基本的知識を得ることを目的とする。この授業では、Noam Chomskyのミニマリストプログラムに重点を置き、初期ミニマリストプログラムやChomsky (1995)の枠組みを中心に様々な英語の構文の分析を概観する。

【授業計画】

1. Categories
2. Structure
3. Empty Categories
4. Head Movement
5. Operator Movement

【評価方法】

レポート+平常点

【テキスト】

Syntactic Theory and the Structure of English A Minimalist Approach

Radford, Andrew (1997)

Cambridge University Press

英語学特講 (1) b

樗木勇作

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

英語統語論 (English Syntax)

生成文法による英語の統語分析について基本的知識を得ることを目的とする。この授業では、Noam Chomsky のミニマリストプログラムに重点を置く。特に Chomsky (1995) の枠組みから Phase による派生までを様々な英語の構文の分析を通じて概観する。

【授業計画】

1. Subjects
2. A-movement
3. VP Shells
4. Agreement Projections
5. Special Topics
6. Derivation by Phase

【評価方法】

レポート+平常点

【テキスト】

Syntactic Theory and the Structure of English A Minimalist Approach

Radford, Andrew (1997)

Cambridge University Press

英語学特講 (3) a・b

中野弘三

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

英語の文の意味分析をテーマとして、発話の場における文の意味分析を行うとともに、文の意味と文脈(場面)の関係を語用論的に考察する。

【授業計画】

前期は文の意味の階層的分析に関する最近の論文を講読し、文の意味構造を考察する。それと同時に文の意味と統語構造の関係を検討する。

後期は文の意味の語用論的分析に関する論文を講読し、発話の場で発話された文の意味、特に、発話行為、文脈(場面)との関連性から生じる含意など、文の意味解釈に関わる語用論上の問題を検討する。

【評価方法】

学年末にレポートを提出してもらい、それを基本としながら、平常点を加味して評価する。

【テキスト】

英語の文の意味的、語用論的分析に関する論文のコピーを使用する。

英文学研究 a・b

柳 五郎

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

研究論文作成指導

【授業計画】

研究課題の選択、文献調査、論文の構成と独創的研究の指導。

【評価方法】

総合的に評価。

【テキスト】

Jane Austen: Pride and Prejudice, World's Classics.

英文学研究 a・b

大野光子

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

修士論文作成の指導

研究資料の充実と検索法の指導およびPh.D.論文等をテキストとした演習および独創的論文作成の指導

【授業計画】

個別指導

【評価方法】

論文内容

【テキスト】

論文作成対象となるテキストおよび関連文献

米文学研究 a・b

唐澤 恪

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

研究論文作成の指導。

【授業計画】

対象作品の精密な検討、関連研究書・論文の精査を行わせつつ、テーマ設定、論旨構成、論述形式などについて指導する。

【評価方法】

論文による。

【テキスト】

必要に応じ、プリントを使用する。

下記の科目は、本年度開講しません。

英文学演習 I a・b

柳 五郎

英語学演習 I a・b

樗木勇作

英語学演習 II a・b

英文学特講 (2) a・b

大野光子

英文学特講 (3) a・b

柳原佳枝

米文学特講 (1) a・b

池谷敏忠

米文学特講 (2) a・b

唐澤 恪

英語学特講 (2) a・b

英語学研究 a・b

情報学特講 (1) a・b

野添篤毅 他

1・2年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

図書館情報学の基礎に関する講義や基礎文献の講読の他に、複数の教員による集団指導により、学術雑誌掲載論文の抄読会およびミニレビューなどを、全院生出席の下に行う。質疑応答や討論を通じて、当該分野の論文・総説等を評価し、研究の進め方および論理的な思考方法や表現方法を学び、修士論文の作成に反映させる。

【授業計画】

発表者がレジユメを作成、配布。

情報学演習 (1) a・b

野添篤毅 他

2年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

院生各自の研究計画・内容の発表、研究の進捗状況の報告と討議、および修士論文の中間発表会の開催、さらには関連学会・討論会等の発表内容の検討など、院生の研究活動を複数の教員が集団指導し、修士論文の完成を支援する。

【授業計画】

発表者がレジユメを作成配布。

情報学特講 (2) a・b

林 博司

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

生物の情報処理機構に関する基礎的知識の講義、及び関連分野の進歩などをまとめた比較的新しい総説（英文を含む）の輪読を行う。一連の学習により、遺伝情報の複製、暗号化、復元などの過程を理解する。さらに感覚情報の伝達過程、情報変換過程等遺伝情報以外の情報が、生物の体中でどのように扱われているかを理解することにより、情報に関する理解を深める一助としたい。

【授業計画】

セミナー形式で行うため、構成メンバーに最適な計画を弾力的に立案する。

【評価方法】

慣例に従う

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

その都度配布

情報学特講 (3) a・b

野添篤毅

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

自然科学分野、とくに生物医学分野での研究過程における情報、知識、メディアなどの諸問題について多面的に考察する。

【授業計画】

関連分野の最新の学術論文を読み、討論を行なう。

【テキスト】

その都度、指示する。

情報学特講 (7) a・b

西荒井学

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

情報資源の管理・運営システムを構築するのに必要なシステム分析からシステム設計に至る範囲内の問題を追究する。特に、コンピュータ処理を実現するのに最も重要であると思われるプログラム設計部分、言い換えればアルゴリズムの問題を中心に考えていく。

- 1) 要求定義（機能設計、情報設計）の問題
- 2) システム設計技法の問題
- 3) プログラム設計技法の問題
- 4) プログラミング技法の問題

【授業計画】

各種システムの構築に関わる問題を探究していくための題材として、『システム設計に関する学習プログラム』の作成を課題として与えることとする。受講者は、担当部分のモジュールの特性を考慮した上で、適切なアルゴリズムの展開を図り、最終的にコンピュータ処理段階まで移行させていくことによって、種々の問題点を互いに検討していく。

なお受講者は、ある程度のコンピュータ利用経験、特にプログラミング経験を持つことを希望する。

【評価方法】

課題の進捗状況、報告内容、ならびに最終レポートによって評価する。

【テキスト】

使用せず。

情報学特講 (8) a・b

山本 進

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

図書館サービスの内容が利用者にどう受けとめられ利用されているのかを、アンケート調査し、調査結果を分析して、各種調査と比較検討し、研究をすすめる。

【授業計画】

<前期>

県立図書館・名古屋市鶴舞中央図書館を訪問し、現場職員とアンケート内容について打ち合わせを行い、実施時期を決める。

8月、9月中にアンケートを実施する。

<後期>

前期に行ったアンケートを集計し、結果の分析を行う。

【テキスト】

図書館サービスの測定と評価（森 耕一編 日本図書館協会）

情報学特講 (9) a・b

山崎茂明

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

科学コミュニケーションの世界を対象に、研究情報とメディアに着目して考察していく。特に、研究活動、論文作成、口頭発表、投稿、編集、論文審査、出版倫理、科学研究の不正行為といった側面から検討する。

【授業計画】

「生命科学論文投稿ガイド」(1996年)を参考にして、そこで扱われたテーマをさらに深め、参加者の興味ある視点から発展させてもらいたい。最初の1・2回は概要を説明した後、参加者による発表形式で行う。発表者はA4版レポート用紙で4枚程度のレジメを提出すること。また、テーマ発表を行う上でどのように関連文献を検索したかについても述べる。

【評価方法】

発表レポート

【参考文献・資料】

山崎茂明「生命科学論文投稿ガイド」中外医学社

情報学特講 (10) a・b

菅野育子

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

情報流通におけるさまざまな現象について、その現象の背景について検討する。現象とは、情報量の増大、情報の電子化・老化・一般化・濃縮化、引用行為による情報の流れ、効果的な情報流通のための標準化などを意味する。これらの現象に関連する文献の収集と講読と、その内容に関する議論を行いながら、効果的な情報流通のあり方を検討する。

前期では、各現象に関わる法則、手法、制度に関する基本文献を講読し、後期では各現象に関する現状を把握するために関連文献の収集と講読を行う。

参考文献として、*Information Science in Theory and Practice* (Vickery, B. C. & Vickery, A.)を用いる。

【評価方法】

授業での発表内容に基づいて評価する。

【テキスト】

使用せず。

情報学特講 (12) a・b

村主朋英

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

情報史に関する講義や文献講読を行なう。

とくに、情報学／図書館情報学の歴史、情報サービスの歴史、情報技術の歴史、コミュニケーション史／メディア史、科学史などの概念、およびそれに関わる歴史観について論ずる。

なお、情報史は幅広い領域であるため、動静や受講者の意向を見ながら内容を絞り込む。

【授業計画】

前期：講義を中心に進める。

(1) 情報史研究の現状と情報学の境位

(2) 情報学における「情報」に関する観点

図書館情報学、情報科学、メディア論

社会情報学、吉田民人、北川敏男

後期：以下の内容を予定しているが、詳細は受講者と相談して決定する。

(1) 情報史の記述の試み

(2) その他、受講者の関心事項に応じて

【評価方法】

平常点とレポートに基づいて行う。

【テキスト】

使用せず。

情報学演習 (4) a・b

長澤雅男

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

近年、おびただしい量の多様な情報が生産され、これまでに人類が継承し蓄積してきた知識は、あまりにも膨大かつ多様化し、個々人の情報処理能力は相対的に弱体化しつつある。したがって、一方では書誌コントロールその他の手段を講じて情報世界の混乱を調整し、情報の円滑な流通を図るシステム化の課題に取り組み、他方では、必要とする情報を利用者自身が効率的に探索しよう情報処理能力を育成することが緊要である。前者は、情報提供機関の情報サービスの高度化の問題に、後者は、情報リテラシー育成の問題にかかわる。図書館においても、コンピュータ、通信技術の長足の進歩により、また直接的には電子メディアの急速な増加、情報通信その他のネットワーク関連の諸技術の発達によって、伝統的なサービスの在り方について、抜本的な変革が迫られている。こうした状況において、レファレンスサービスの基本的機能を検討し、先進的なサービスを展開してきたアメリカにおける各館種の図書館サービスの発展をたどることは、わが国の図書館の今後の方向性を見定める上で不可欠な作業である。

【授業計画】

レファレンスから情報サービスへの変遷、レファレンス機能の専門化と多様化、情報源の増大と多様化などについて、歴史的観点から今日的な問題との関わりを考究するため、関連するテーマの歴史を扱った文献の輪読を中心に、討論しながら、研究報告の作成を指導する。

【評価方法】

出席、クラスでの発表、討論への参加状況。

【テキスト】

使用せず、必要に応じてプリントを配付する。

【参考文献・資料】

The Development of Reference Services.

(Samuel Rothstein, ACRL) その他、一連の論考。

情報学演習 (5) a・b

太田 裕

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

数値あるいは非数値からなる資料・データがもつ潜在構造を探究し、所与の情報を抽出するための資料・データ処理技法について、実践力の涵養を目標に学習を進める。

したがって、授業形態は関連知見の理解（講義）と資料・データ処理の体得（実習）とを交互的に行うこととする。サンプリングの計画数理・1変量～2変量解析、多変量解析、数値～非数値処理・解析等々が主要学習項目である。

【授業計画】

前期

1. 基礎事項の習得
2. データ処理シミュレーション
3. 演習題の自力解決

後期

1. 小課題の提示と課題解決法の探索
2. 実（資料・データ）の構造解析
3. 数値～非数値データの統合処理

【テキスト】

随時、必要な文献・専門書を指示する。

【参考文献・資料】

同上。

情報学演習 (6) a・b

岡澤和世

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

この4分の一世紀の間に情報社会が到来し、世界の経済、文化が大きく変化し始めた。情報テクノロジーの発達是我々の生活、仕事、教育に大きな影響を及ぼしている。中でもこの電子環境社会でどうやって情報を見つけたらよいのかとまどっている。本講義の目的は大きく変化している情報環境にどう対応していくのかを考える。

【授業計画】

1. 情報と情報行動
2. 情報行動と情報環境
3. 情報行動研究とその枠組み
4. 情報行動のインフラストラクチャー
5. 情報行動モデル
6. 情報行動研究の例
7. 人中心の情報システム設計
8. 情報行動の発展－電子環境への対応
9. 将来の方向と展望

【評価方法】

レポート

【テキスト】

Exploring the contexts of information behavior.
(Wilson, T. D & D. K. A ed.) Taylor Graham, 1999.

【参考文献・資料】

From Print to Electronic (Susan Crawford, Julie M. Hurd and Ann C. Weller) ASIS. 1996
情報学講義ノート〈3〉(岡澤和世著 敬文堂) 1989.
インフォ・リッチ: インフォ・プア (Trevor Heywood, 岡澤和世訳 敬文堂) 1997.
Technology in action. (Heath, C. & P. Luff.) Cambridge U. Pr. 2000.
Social Demensions of Information Technology. (Garson, G. David) , Idea Group Pub. 2000.

情報学特講 (13) a・b

細野公男

集中 1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

情報検索にかかわる基本的な考え方、現在脚光を浴びているアプローチ、技術、サービスを取り上げて、その特徴や問題点を理解する。主として電子図書館における検索と情報利用行動・探索行動に、焦点をあてる。

【授業計画】

履修者各自が順番に、指定された論文を読み、発表する。さらに、その発表に基づいてディスカッションを行う。

【評価方法】

発表にあたっての準備の度合、発表方法とディスカッションへの貢献度で評価する。

【テキスト】

未定。

下記の科目は、本年度開講しません。

情報学特講 (4) a・b

長澤雅男

情報学特講 (5) a・b

太田 裕

情報学特講 (6) a・b

岡澤和世

情報学特講 (11) a・b**情報学特講 (14) a・b****情報学特講 (15) a・b****情報学演習 (2) a・b****情報学演習 (3) a・b**

野添篤毅

情報学演習 (7) a・b

西荒井学

情報学演習 (8) $a \cdot b$

山本 進

情報学演習 (9) $a \cdot b$

山崎 茂明

情報学演習 (10) $a \cdot b$

情報学演習 (11) $a \cdot b$

比較文学研究 a・b

池谷敏忠

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

比較文学は国際間の（国と国との間の）文学的関係の歴史を調べ研究する学問です。この授業はT. S. エリオットの詩と菊村到の小説など日英米仏文学の影響関係を具体的に考察します。さらにエリオットの詩論と芭蕉俳論などの対比研究も試みます。

【授業計画】

前期は次の事項を予定しています。

比較文学の定義と本質

日本におけるThe Waste Landの受容

T. S. エリオットと立原正秋

共同体と個性の文学

T. S. エリオットと小林秀雄

後期は次の事項を予定しています。

T. S. エリオットとベルグソン

形面上詩人のアルス・ポエティカ

芸術作品の創造と伝統の継承

Spectrum に見る西脇詩の原型

T. S. エリオットと西田幾多郎

テキストを用いて講義・解説します。

受講生は必ずテキストを持参して下さい。

【評価方法】

レポートまたはテストと各自の出席状況を加味して評価します。

【テキスト】

比較文学論集（池谷敏忠 晃学出版 値段未定）

言語学（現代言語学と自然言語） a・b

B. サン・ジャック

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

Language is central in all human and academic activities. The student of literatures – whether it is Japanese or English – is confronted with language. Information theories cannot exist without language. Computer science has close links with syntactic and semantic theories. The teacher or learner of languages is in constant contact with basic aspects of natural languages. Insights from modern linguistics can be extremely useful – in some cases essential – to serious academic research in the fields of literature, information science, computer science and language acquisition. Indeed, linguistics is the only science which has language as the main object of study. The purpose of this course is precisely to provide some insights from modern linguistics to students who have to deal with language in their own field of study, but never had the opportunity to study the nature of language as such.

〔この授業は学生の希望によって英語あるいは日本語で行う〕

【Assessment】

Presentations 又は論文。

【Textbooks】

未定。日本語と英語のプリントを配付。

参考文献は授業の時紹介する。

翻訳論（英語論文作法） a・b

ケース・イズリー

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

The course should further develop the ability to write academic papers through critical engagement with individually chosen materials.

Work includes note-taking, the use of sources, understanding and use of academic conventions and language, and the development and presentation of argument. Along with individual tuition there will be class and pair discussion of work in progress and the elements of academic writing.

【Schedule】

The Schedule will be decided according to students' needs.

【Assessment】

A written paper of an agreed length is to be submitted. Evaluation will be based on this.

【Textbooks】

None

下記の科目は、本年度開講しません。

国文学・英文学専攻共通科目

外国語としての日本語 a・b

小林素文

国文学・英文学・図書館情報学専攻共通科目

文献検索法 a・b

文献情報管理法 a・b

国文学特殊研究Ⅱ（中古）

久保朝孝

1～3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

中古文学の独創的研究。
博士論文作成指導。

【授業計画】

各自の専攻テーマに関する研究発表とその批判。

【評価方法】

論文の活字化もしくは学会等における口頭発表の有無
とその内容。

【テキスト】

なし。

国文学特殊研究Ⅲ（中世1）

岩下紀之

1～3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

受講者の希望する作品を題材とする。

国文学特殊研究Ⅳ（中世2）

山下宏明

1～3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

〈文学研究と批評 課題に向けて〉と題して進める。後期課程の学生は、すでに各自の研究課題を持ち、学位請求論文執筆に向けて研究を続けている。課程博士の学位取得を目的に、年間、少なくとも2本の論文は作成しなければならない。3年間の、その積み上げが学位請求論文になるはずである。

その研究は、たえず学界の状況を把握した上で、方向性を考慮し続けねばならない。学界の動きを知るために、国内にとどまらない、国外の論文にも目を配り、批評に耐えうる成果を生み出すよう志すべきである。一方で、オリジナリティを保つために、独自の基本的な調査も必要である。その成果を確認しつつ、論文の執筆を行わせる。必要に応じて、学内外の学会や研究会への報告を促すこともある。さしあたって物語論と文化史への目配りを注意する。

【授業計画】

はじめに修士論文の報告を行わせる。その際に、特に専攻分野の研究状況の報告を求め、その中での各自の、修士論文の位置づけ、意味を重視するよう求める。これは聴講生の輪番制とし、一巡したところで、各分野の顕著な成果を選択し、これを参加者全員で読み、それらの長所を評価しながら課題を語りあう。

時に、必要に応じ、一つの方法をめぐって、作品の輪読をも行う。聴講生は代表的な学会誌への目配りを怠らないよう努めてほしい。

【評価方法】

出席状況とレポート、もしくは論文提出による。諸種学会への報告実績も勘案する。

【テキスト】

主要な学会誌のなかから注目すべき論文を選択し、コピーをとって使用する。必読の文献は、前期課程の学生に指示したので、参照されたい。

国文学特殊研究Ⅴ（近世）

阿部一彦

1～3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

近世文学全般にわたり、受講者の専攻との関連で内容を定める。

【授業計画】

上記による。

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

未定。

国文学特殊研究Ⅵ（近代1）

小倉 斉

1～3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

＜現代小説の方法と課題—作品をどう読むか—＞

「小説を読む」とはどのような行為なのかという課題について、現代日本を代表する小説の精読および方法意識の検討を通して考察し、言語表現としての文学を研究する方法を身につける。「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法を習得することが目標である。本年度は、高度経済成長後の日本の現代小説を取り上げ、現代の日本社会が抱える困難な問題を小説がどのように作品化しているかについて追究する。

【授業計画】

＜前期＞

- 1 問題の所在：現代小説の方法と課題
- 2 後藤明生『挟み撃ち』（講談社文芸文庫）
- 3 安部公房『燃えつきた地図』（新潮文庫）
- 4 古井由吉『白髪の唄』（新潮文庫）
- 5 山田太一『見えない暗闇』（朝日文芸文庫）
- 6 村上龍『五分後の世界』（幻冬舎文庫）

＜後期＞

- 1 問題の所在：江藤淳『成熟と喪失』から
- 2 安岡章太郎『海辺の光景』（新潮文庫）
- 3 小島信夫『抱擁家族』（講談社文芸文庫）
- 4 吉行淳之介『星と月は天の穴』（講談社文芸文庫）
- 5 庄野潤三『夕べの雲』（講談社文芸文庫）
- 6 阿部昭『司令の休暇』（講談社文芸文庫）

【評価方法】

授業への参加状況、発表およびレポートの内容によって総合的に評価する。

【テキスト】

挟み撃ち（後藤明生 講談社文芸文庫）、燃えつきた地図（安部公房 新潮文庫）、白髪の唄（古井由吉 新潮文庫）、見えない暗闇（山田太一 朝日文芸文庫）、五分後の世界（村上龍 幻冬舎文庫）、海辺の光景（安岡章太郎 新潮文庫）、抱擁家族（小島信夫 講談社文芸文庫）、星と月は天の穴（吉行淳之介 講談社文芸文庫）、夕べの雲（庄野潤三 講談社文芸文庫）、大いなる日・司令の休暇（阿部昭 講談社文芸文庫）

国文学特殊研究Ⅶ（近代2）

都築久義

1～3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

学生の論文テーマに応じて指導する。

【授業計画】

随時、必要に応じて指導する。

【評価方法】

平素の学習態度。

【テキスト】

なし。

国文学特殊研究Ⅷ (国語学)

増井典夫

1～3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

受講者の論文テーマ、あるいは希望する作品に応じて、国語学の観点から指導する。

【授業計画】

随時、必要に応じて指導する。

【評価方法】

平素の学習態度。

【テキスト】

授業時に指示する。

中国文学特講

寺尾 剛

1～3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

後期の院生の漢文読解力の向上を目指す。

【授業計画】

受講生の需要に合わせて決定する。

【評価方法】

平常点及びレポート

【テキスト】

未定。

下記の科目は、本年度開講しません。

国文学特殊研究Ⅰ（上代）

英文学特殊研究 I

柳 五郎

1～3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

学生の論文テーマに応じて指導する。

【授業計画】

随時、必要に応じて指導する。

【評価方法】

平素の学習態度。

【テキスト】

なし。

英文学特殊研究 II

大野光子

1～3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

“Landscape in Irish Poetry”をテーマとして、アイルランドの文学的伝統の一つである「ディンシャナハス」（土地と伝説の結びつき）を、具体的テキストに沿って検証していく。地理的・歴史的資料および民俗学的論考等も視野に入れながら、現代社会における文学の可能性を探りつつあるアイルランド詩人たちの声の多重性を、受講者とともに明らかにしていきたい。

【授業計画】

方法論的には、ダブリンから発してアイルランドを巡る地理的な旅を、過去から現在へ時間的な旅と重ねながら、詩のテキストを読みこんでいく。必然的に、輪読やディスカッションを通して、テキストの選択および読みの視点を定める作業を進めることになるので、前期では特に、講義と並行して演習を行う予定。

【評価方法】

平常点および学期末レポートにより評価。

【テキスト】

講義中に指示する他、プリント配布。

【参考文献・資料】

講義中に指示する他、プリント配布。

米文学特殊研究 I

池谷敏忠

1～3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

Contemporary American Literary Theory (1997)および *Introducing Literary Theories* (2001)を用いて、最新の文学理論を研究します。

【授業計画】

一年を通して上記の本を輪読しますので、受講者は前期・後期とも受講することを希望します。

【評価方法】

レポートまたはテストに各自の出席状況を加味して評価します。

【テキスト】

研究室の原書を貸与します。

米文学特殊研究 II

唐澤 恪

1～3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

この特殊研究では、最近のアメリカン・ルネサンス論について検討する。

F. O. Matthiessenの *American Renaissance* (1941)以後おびただしい数のアメリカン・ルネサンス論が書かれてきたが、この特殊研究では、特に1980年代以後のものを検討していく。その過程で、それ以前の主要な論考についても、レビューする。後期には最近のPoe論やトランセンデンタリズム論についての考察を織りこむ予定。

【授業計画】

授業は、割り当て部分についての、学生の内容発表および問題点の指摘、教師による解説・情報提供、ディスカッション、という順序で進めるが、適時に学生に課題を与え、報告を求める予定である。

【評価方法】

平常の発表とレポートによる。

【テキスト】

プリント配布。

英語学特殊研究Ⅱ (言語修得論)

B. サン・ジャック

1～3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

第二言語習得

世界では、bilingualやmultilingual—普通の生活において国語以外一つまたは幾つかの言語を使用している—である国と人間は珍しくない。日本も国際化するにつれ、外国語のできる日本人の数が増えてきている。第二言語の習得というのは、経済的にも、文化的にも、国家と個人にたいして重大な事である。

このコースで学ぶこと：

- (1) バイリンガリズムとは何か
- (2) 国語と第二言語の習得の比較
- (3) 第二言語の習得法の歴史
- (4) 最近の習得法
- (5) 言語習得心理作用
- (6) 言語習得に及ぼす性格と年齢の影響
- (7) 日本における第二言語習得法

【評価方法】

Presentations 又は論文。

【テキスト】

Second Language Acquisition W. Klein
Cambridge : Cambridge University Press
外国語の教え方 (D. L. フリーマン 玉川大学)

英語学特殊研究Ⅳ (英語教育学)

松本青也

1～3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

応用言語学 (英語教育)

第二言語習得理論と日英対照言語学を中心に、最近の主な研究について考察すると共に、日本の外国語教育への研究成果の応用を検討する。

【授業計画】

いくつかのトピックについて、内外の研究成果に批判的考察を加えながら、独自の理論を構築する。

【評価方法】

発表内容と論文の評価。

【テキスト】

未定。

下記の科目は、本年度開講しません。

英文学特殊研究Ⅲ

米文学特殊研究Ⅲ

英語学特殊研究Ⅰ（統語論）

英語学特殊研究Ⅲ（社会言語学）

小林素文

情報学特殊研究 (2) (知識情報処理)

野添篤毅

1～3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

自然科学分野における研究・開発過程での種々の知的情報処理について考察する。

【授業計画】

知的情報処理分野の最新の学術文献（雑誌論文、モノグラフ）を中心に発表と討論を行う。

【テキスト】

その都度、指示する。

情報学特殊研究 (3) (二次情報メディア)

長澤雅男

1～3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

二次情報メディアの問題を中心に据えて、図書館の情報サービス、レファレンス機能、レファレンスプロセス、文献利用教育、二次資料の種類と特性等に関わるテーマについて研究する。

【授業計画】

参加者の研究関心に応じて、最近の研究論文を選んで順次講読するとともに、関連するテーマを選定して討議する。個別指導を中心に進める。

【評価方法】

平常点。

情報学特殊研究 (4)

林 博司

1～3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

学位論文の作成

生命情報・遺伝情報の現状分析と可能性

組織器官の分化研究の現状と21世紀に於ける発展（国際的観点より）

生殖生物学の発展とそれが及ぼす社会的影響（国際的観点より）

遺伝情報の破壊と修復と変化の予測

文献検索、調査

統計処理

予測の設定と確実性

論文の形式

文章の設定

図書館情報学に於いて占める位置

【授業計画】

多くの関係教官と連絡を保ちながら、自分のペースで進める。必要な場合には他大学で研究する。常時、論文の内容、進行状況について発表を行う。

【評価方法】

論文評価と学術論文出版による。

【テキスト】

特に定めない。

情報学特殊研究 (5) (情報システム設計-人的要因)

岡澤和世

1～3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

情報システムは人の役に立つためにある。設計されたシステムは人が組み立てたものであり、人が利用するためにある。人々の現実の情報要求をうまく満たすことができればできるほどそのシステムは成功したといえる。その意味で、人間の要求を満たすことができないシステム設計はナンセンスである。本講義ではこの様な人間の情報行動と情報システムの関係に注目する。人はなぜ情報を必要とするのか？人は情報システムから何を得られると期待しているのか？情報システム設計者はこれらの情報行動にどうやって対処するのか？

【授業計画】

1. ヒューマン・オーガニゼーション (Human organization)
2. 人間中心の情報システム
3. システムの評価：単純さ/感性/キャッシュ・フロー分析/利用度/評価法
4. 管理とコントロール
5. 人的要因 (Human factors)
6. 人間-機械の相互作用 (HCI) の問題：概説/HCIの特性/HCIとシステム設計の関係/要約
7. 利用者の参画：利用者とは何か/従来の情報システム/なぜ利用者を中心に据えるべきか/コミュニケーションの難しさ/利用者参画型アプローチ
8. 実行：プランニング/利用者参画と訓練/マニュアル作成/システム・テスト手順の変更/実行後評価/メンテナンス

【評価方法】

レポート

【テキスト】

インフォ・リッチ：インフォ・プア (Trevor Heywood, 岡澤和世訳 敬文堂 1997)

Human centered methods in information systems: current research and practice. (Clarke, S & B. Lehaney Indea Group Pub. 2000)

情報学特殊研究 (6) (科学情報メディア)

山崎茂明

1～3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

科学コミュニケーションの世界を対象に、研究情報とメディアに着目して考察する。海外の研究論文や文献レビューなどから、近年の研究動向や課題を整理していく。特に、科学政策、研究動向、業績評価などのための分析能力の開発を目標に、調査データの収集と考察を試みる。また、AuthorshipやResearch Integrityをめぐる研究倫理について展開をはかる。

アメリカ、イギリス、ヨーロッパ、日本における主要な科学研究・政策についての主要な調査を分析し、日本の科学研究や科学コミュニケーションの課題や問題を検討する。発表をめぐる出版倫理については、デジタル情報資源も活用し、最近の動向を整理していく。参加者の興味ある視点から発展させてもらいたい。

【授業計画】

最初の1～2回は概要を説明した後、参加者による発表形式で行う。発表者はA4版レポート用紙で4枚程度のレジメを提出すること。また、文献レビュー紹介や調査発表を行う上でどのように関連文献を検索したかについても述べる。講義に関係する資料は随時配付する。

【評価方法】

発表レポート

【テキスト】

Science and Engineering Indicators (NSF)、他

情報学特殊研究 (7) (図書館情報システム)

山本 進

1～3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

図書館の利用状況を調査・分析し、従来から用いられてきた評価基準値を、現実の利用状況の分析結果と比較検討して、新しい評価基準を作成し、検討を重ねる。

【テキスト】

『図書館サービスの評価』ランカスター (中村・三輪共訳・丸善)

下記の科目は、本年度開講しません。

情報学特殊研究（8）（異資料情報処理）

太田 裕

1～3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

受講予定者は既に修士論文を終え、博士論文作成に挑戦中の諸君であることに鑑み、情報処理学の観点から多様かつ異質な資料から所与の情報を抽出する（＝研究支援技法）の習得と実際活用能力の涵養に努めることとする。

したがって、授業形態は必然セミナー形式となるが、博士論文の枠組み・内容に関わって受講者毎に個別のカリキュラムを組むこととなる。

【授業計画】

前期

1. 基礎知見学習
2. 受講者別カリキュラムの組立
3. 関連演習課題の実施

後期

1. 課題解決のための個別プログラムの作成
2. 関連実資料の解析支援
3. 課題適合高度解析法の探索

【テキスト】

特になし。随時、読解すべき論文・専門書を指示する。

【参考文献・資料】

同上。

情報学特殊研究（1）

情報学特殊研究（9）

生体情報心理学特講1・2 (脳と記号情報処理)

杉本助男

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

老化と脳との関連についての英文文献を講読すると同時に、以下の研究課題について講義形式の授業を行う。

前期は、「The Neuropsychology of Aging. D.S. Woodruff-Park」の第4章「Normal Aging in the Peripheral Nervous System」を輪読しながら、脳の基礎について学習し、同時に英語読解のウォーミング・アップをする。また、その中の1文献を読み、後期に発表する。

後期は、以下のテーマについて講義形式の授業を行う。また、各自1回の発表をする。

1. 刺激希求の個人差と脳誘発電位
2. 刺激欠乏環境
3. 短期感覚遮断のポジティブ効果
4. 香りの心理効果 (脳波研究)
5. サーカディアンリズム
6. ウルトラディアンリズム

【授業計画】

前期は英文論文を輪読しながら、情動と脳との関連について講義し、討論する。

後期は、上記課題について講義形式の授業を行うと同時に、それぞれのテーマについて討論を行う。

また、前期の論文の中から1文献を選び、発表、討論を行う。

【評価方法】

文献読解理解力、討論内容等から評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

生体情報心理学演習1・2

杉本助男

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

下記の研究領域について文献を講読し、発表し、討論する。また、その過程で修士論文の研究テーマを決定し、実験計画を立てる。

1. 個体のさまざまな状態変数または特性変数に関する脳波研究、またはポリグラフ研究
2. 感情の顔面表出における脳波および筋電図研究
3. 脳障害者または痴呆性老人を対象とした臨床神経心理学研究
4. 感覚刺激の適正範囲と個人差に関する生理心理学的研究
5. 生体リズムと行動との関連に関する生理心理学的研究

【授業計画】

各自が選んだ研究テーマについての文献の発表を行い、討論する。また実験計画を立て、研究を遂行する。

【評価方法】

1年間の研究活動を総合的に評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

生体情報心理学特講3・4 (感情の精神生理学)

清水 遵

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

生体が感覚刺激として受容する外界情報やそれら进行处理する過程で派生する内部情報は様々な生理・心理的反応を惹起する。これら生体内外の情報のコミュニケーション過程で生じる情動のプロセスを精神生理学的観点から検討していく。

【授業計画】

前期は神経系の機能や生理指標に関する欧文書を講読、解説を加え、精神生理学の基礎的知識の習熟をめざす。後期は、これまでになされてきた情動プロセスの精神生理学的研究に関する欧文書を輪読することで神経活動、内分泌系活動および免疫系活動との関連性についての知見を深める。

【評価方法】

授業への積極的参加度、文献内容理解力により評価する。

【テキスト】

使用しない。適宜テーマに関連する文献を紹介する。

生体情報心理学演習3・4

清水 遵

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

環境の快適性や情動ストレスとその精神生理学的及び神経化学的測定法に関する内外の文献を講読し、発表討論を行う中で各人のテーマ決定の方向づけを行う。

【授業計画】

1. 環境の快適性に関する研究
2. 高齢者感情コントロールに関する研究
3. パーソナリティとストレスの関連性に関する研究

【評価方法】

発表討議内容、研究活動の報告レポートなどにより評価する。

【テキスト】

使用しない。

生体情報心理学特講5・6 (認知情報処理)

吉崎一人

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

認知心理学、認知神経心理学に関連する研究論文の精読を通じて、実験パラダイム並びにその理論的背景について学習する。

【授業計画】

前期

レポーター形式で行う。

『心理学研究』、『教育心理学研究』、『認知科学』、『神経心理学』、『基礎心理学研究』等の和文誌から、論文を選び、紹介する。特に、研究で用いられているパラダイムやその理論的背景を重点的に調べ紹介する。

後期

Psychological Science, Trends in Cognitive Sciences等の欧文誌を輪読する。

【評価方法】

レポーターの内容、授業へ取り組む姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

未定

障害児発達心理学特講1・2

二宮 昭

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

人の「からだ」の動きを本人の主體的な身体運動制御という心理学的な活動として捉え、そのような制御能力を高めることを目的として行われる「動作法」の理論と方法を中心に、「障害児」と呼ばれる子どもたちの発達援助のあり方について検討する。

とくに、動作法を実施していく上で大きな問題となる援助者と被援助者との間でみられる「やりとり」に関して、その分析方法について検討するとともに、そうした「やりとり」を成立させる基盤としての「からだ」の持つ意義について探っていく。

【授業計画】

前期は動作法に関する文献を担当者がその内容を報告し、それに基づいて討論するという形式と、講義形式の併用で授業を進める。

後期は下記の参考書籍を中心に、主として討論形式で授業を行う。

【評価方法】

報告の内容、および討論への参加の仕方によって評価する。

【参考文献・資料】

講座・臨床動作学1 臨床動作学基礎 (成瀬悟策著 学苑社)

両義性の発達心理学 (鯨岡峻著 ミネルヴァ書房)

記号コミュニケーション演習1・2

二宮 昭

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

内外の「障害児」と呼ばれる子どもたちの発達援助に関する著書・論文の講読を行い、彼らにみられる「障害」とは何か、また、その「障害の改善」とはどういうことかについて理解を深めるとともに、「障害児」を対象とした実践的研究のまとめ方を学ぶ。その中で修士論文の研究テーマを決定し、具体的な研究計画の検討を行う。

【授業計画】

受講者が読んだ文献の発表と討論を行いながら、研究テーマの検討、および具体的な研究方法の特定というかたちで展開される。

【評価方法】

発表内容、討論への参加の仕方、および研究計画やその方法論の内容などによって評価する。

【テキスト】

使用しない。

記号コミュニケーション特講3・4 (認知発達心理学)

竹内謙彰

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

本授業では、認知発達心理学における主要な理論の基本的なアイデア及び研究方法の理解をめざすとともに、研究論文を批判的に読む能力の向上を図ることを目標とする。

なお、応用的研究領域として空間認知発達のトピックをとりあげる。

特講の3、4ともに、授業期間の前半部分では主として講述によって授業を進めるが、後半部分においては、書籍及び学術論文を講読・討議することにあてたい。論文講読は、単に内容理解にとどまらず、査読のロール・テイクングをするなど批判的に読む練習を取り入れたい。

【授業計画】

前期、後期とも、十数回の授業時間の前半においては講述を中心とした授業を行い、後半部分においては、テーマに沿った書籍及び雑誌論文を選択し、講読・討議を中心とした授業を行う。

【評価方法】

講述部分の授業に関しては、知識を問う形式の小テストにより評価を行う。書籍及び雑誌論文の講読・討議においては、担当回数及び発表内容に基づく。その他、小レポート、出席回数も評価に加味する。

【テキスト】

テキストは特に定めない。講読する論文は、参加者の興味・関心も考慮し、適宜選択する。

【参考文献・資料】

子どもの思考 (R.シーグラー著、無藤隆他訳 誠信書房)

認知発達と進化 (乾敏郎他編 岩波書店)

空間に生きる (空間認知の発達研究会編 北大路書房)

空間認知研究ハンドブック (N.フォアマン他編、竹内謙彰他訳 二瓶社)

記号コミュニケーション特講5・6 (空間認知)

加藤義信

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

人間が環境をどのように認知しているかという問題を発生的視点から検討する。具体的には、方向感覚の個人差がなぜ生まれるかといった問題や、子どもが空間をとらえる認識の枠組みをどのように発達させていくかといった問題にはじまり、絵画的な表現の発達や鏡などの虚空間の理解、およびそれと関連する自己イメージの成立まで、空間にかかわる人間の認識の原理的問題をあらゆる角度から論ずることにしたい。また、必要に応じて、「心の理論」など、現代心理学の最先端の発達論にもふれることにする。

【授業計画】

授業は、講義部分と重要文献(英語が主)の講読の二つからなる。資料はその都度配布する。

【評価方法】

授業にどれだけアクティブに参加したか、および授業中のレポートの質を評価の対象とする。

社会心理学特講1・2 (普及過程学)

宇野善康

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

人びとの行動様式、人の作った新製品、あるいは思想や思考方法などがさまざまな文化をもつ社会の中で、どのように普及し定着していった、社会がどのように変容していったか。普及過程にみられる諸問題を取り上げて検討していきます。

使用する2冊のテキストを各自徹底的に読んできていただき、ディスカッション形式で理解が深まるように講義を進めます。テキスト以外の話題としては、筆者の提唱する異文化間屈折理論(これはコミュニケーション科学に基づいて発展した普及学の中の先端的理論の1つですが)を取り上げ検討していただく予定です。

【授業計画】

ほとんどがディスカッション形式で進めるので、受講者はテキストを予めよく読んでおくことが必要。

【評価方法】

期末試験もしくはレポート提出により評価。

【テキスト】

普及学講義—イノベーション時代の最新科学—(宇野善康著 有斐閣 2,000円)

社会心理学演習 1・2

宇野善康

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

人びとの行動様式、人の作った新製品、あるいは思想や思考方法などがさまざまな文化をもつ社会の中で、どのように普及し定着していったか、社会がどのように変容していったか。普及過程にみられる諸問題を取り上げて検討していきます。

使用する2冊のテキストを各自徹底的に読んでいただき、ディスカッション形式で理解が深まるように講義を進めます。テキスト以外の話題としては、筆者の提唱する異文化間屈折理論（これはコミュニケーション科学に基づいて発展した普及学の中の先端的理論の1つですが）を取り上げ検討していただく予定です。

【授業計画】

ほとんどがディスカッション形式で進めるので、受講者はテキストを予めよく読んでおくことが必要。

【評価方法】

期末試験もしくはレポート提出により評価。

【テキスト】

普及学講義－イノベーション時代の最新科学－（宇野善康著 有斐閣 2,000円）

コミュニティ心理学特講 1・2

植村勝彦

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

コミュニティに内在する諸問題を、臨床社会心理学ともいえる視点から扱うコミュニティ心理学は、一つには従来の個人臨床心理学の限界を補完ないし打開するものとして、また個人を取り巻く各種組織や小社会のシステムの実践的変革を目指す心理学として期待されている。ただ、我が国においてはまだなじみが薄く、研究実績的にも乏しいという現状に鑑みて、当面は、この新しい心理科学の実際を紹介することを課題と目標とする。

上記の理由から、啓蒙の意味を込めて、コミュニティ心理学の全体的概要を紹介することから始める。コミュニティ心理学の成立に至る背景・歴史、研究理念・目標、独特の研究手法、過去を中心テーマであった精神保健問題、今日の解決課題・テーマなど、主にアメリカのデータに基づきながら進めるが、これはまた日本の現在および近未来の姿でもあろう。

【授業計画】

ダッフィ／ウォン著・植村勝彦監訳『コミュニティ心理学』（ナカニシヤ出版）をテキストに、受講者に分担してもらいながら、また引用文献の紹介も分担してもらいながら討論を含めて進める。前後期とも継続で進行する。また、山本和郎著『コミュニティ心理学』（東京大学出版会）、オーフォード著・山本和郎監訳『コミュニティ心理学』（ミネルヴァ書房）、山本和郎他編『臨床・コミュニティ心理学』（ミネルヴァ書房）、安藤延男監訳『生態学的心理学入門』（九州大学出版会）などの参考書を随時資料としながら補足する。

【評価方法】

前期、後期にそれぞれ課すレポートと、分担発表の成績により評価する。

【テキスト】

コミュニティ心理学（ダッフィ／ウォン著・植村勝彦監訳 ナカニシヤ出版）

社会心理学演習3・4

植村勝彦

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

コミュニティ心理学が扱う領域のトピックスについて、深い学識と緻密な論理構成のもとに、各自が関心を持つテーマを設定し追究することによって、最終的には修士論文を作成することを課題と目標とする。

コミュニティ心理学のトピックスを扱っている専門誌である『*American Journal of Community Psychology*』、『*Journal of Community Psychology*』、『*Journal of Community and Applied Social Psychology*』、『コミュニティ心理学研究』掲載の論文を中心に、内外の著書、論文の輪読を通じてコミュニティ心理学の理解を深めること、また各自の修士論文につながる研究の展開を目指す演習とする。

加えて、実証的研究に不可欠な、データの統計的処理方法や、多変量解析の理論とその実際についても解説する。

【授業計画】

毎回個人発表を行い、取り上げられた論文やテーマについて徹底した討論によって、その内容や方法、論旨の展開を批判的に読みとり、論理的・実証的に再構築できる力を養う。とくに2年次学生については、修士論文作成に向けての助言・指導に当てる。

【評価方法】

毎回の個人発表、およびレポートによって評価する。

【テキスト】

使用せず。

社会心理学特講5・6 (対人コミュニケーション論)

斎藤和志

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

他者に対する関心や反応性、社会的事象に対する態度の研究を中心に検討する。他者に対する関心の程度はある種の認知スタイルとして位置づけることもでき、対人の態度や社会的態度を形成する際に影響を与えていると考えられる。最近では、社会に対する志向性までを含める必要があると考えている。授業では、まず、広い意味での対人行動を研究していくための研究法と社会心理学における基本的な理論を取り上げる。そして、私たちが対人行動を理解する際の思考や態度の問題、人間や社会を考えようとする姿勢の重要性、社会心理学的な知見や考え方を現実社会の中に取り入れていくことの可能性などについてさまざまな視点から検討していきたい。

【授業計画】

テキストを受講者で分担し、発表者はその内容の紹介と引用文献や関連領域からの示唆などを含めて発表し、全員で討論していく。現時点では後述のテキストを使用し、それを読み進める中で、社会心理学の研究方法や諸理論の理解を補足していこうと考えている。その際に、別のテキストが必要と認められたら追加することがある。

【評価方法】

発表と討論への参加によって評価する。

【テキスト】

不思議現象なぜ信じるのか：こころの科学入門
(菊池・谷口・宮元著 北大路書房)

社会心理学特講7・8 (組織コミュニケーション論)

渡邊直登

集中 1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

経営組織の中で働く人間の心理と行動について、個人レベル、集団レベル、組織レベルの観点から論ずる。授業は、ケース・メソッドを中心に行ない、講義は補足的に行なう。受講者は、企業の現場で実際に生じたコミュニケーション上の出来事を、グループ討議と全体討議を通じて学ぶことになる。

【授業計画】

授業は事前に配布するケースを読み、それについてグループで討論した後、クラス全員で討論する形式を取る。グループがひとつしかない場合は、はじめは学生だけで討論し、後に教員が討論をリードする。この形式は、多くのビジネス・スクールで用いられているケースメソッドと呼ばれる教授法である。はじめは慣れないかもしれないが、1～2ケースをこなすうちに慣れてくると信ずる。

ケースでは取り扱えなかった理論的な問題点については、教員がレクチャーを行なって補う。

【評価方法】

授業で取り上げなかったケースについての分析を課す。ケース分析の深さと広さで評価する。

【テキスト】

組織行動のマネジメント (高木晴夫監訳 ダイアモンド社 1997) (参考図書)

神経症組織 (渡辺直登他訳 亀田ブックサービス 1995) (参考図書)

組織心理測定論 (渡辺直登・野口裕之 白桃書房 1999) (参考図書)

【使用ケース】

- ・東西工業株式会社
- ・浜松テクノロジー株式会社
- ・S建設株式会社—井上倫子—
- ・セントポール株式会社

など、慶応大学ビジネス・スクール所収のケース

臨床心理学特講1 (力動的心理療法)

古井景

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

力動論の見地に立って臨床心理面接を考えていきたい。力動的な心理療法を行っていくための心構え、知識、見立てや治療契約・治療構造、面接経過中に生じる様々な問題点などを考えていく。特に自我機能についての理解を深め、具体的な症例を示しながら解説していく。

【授業計画】

資料配付により講義をすすめる。

- 1 精神力動
 - 自我の構造モデルと自我機能
(現実機能、適応機能、防衛機能、対象関係機能、思考過程、総合機能、自立的機能)
 - 人格構造
 - 情緒発達理論
- 2 心理面接
 - アセスメント
(初回面接と見立て)
 - 治療契約と治療構造
 - 治療過程の諸問題
 - 治療終結
- 3 事例検討・治療の実際
 - 児童の遊戯療法と親面接
 - 思春期・青年期の適応障害
- 4 その他

【評価方法】

授業内容の理解度により、成績を評価判定する。

【テキスト】

使用せず。参考図書はその都度提示する。

臨床心理学特講2（臨床動作法）

二宮 昭

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

近年、新しい心理治療の方法として注目されている臨床動作法について、その理論、方法、適用について検討・考察を行う。

【授業計画】

理論・方法については、主として講義方式で行い、適用に関しては、参考書籍などにあげられている適用例を担当者がその内容を報告し、それに基づいて討論するという形式で行う。

【評価方法】

報告の内容、および討論への参加の仕方によって評価する。

【参考文献・資料】

臨床動作法の基礎と展開（日本臨床動作学会編著 コレール社）

精神医学特講

加藤雄一

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

基本的な精神医学上の、知識・疾患の病態・それへの治療的アプローチおよび今日的な精神病理的な病態や問題の一部について述べる。

【授業計画】

序論（対象、方法、原因論など）、精神分裂病、気分障害、非定型精神病、症状性精神病、器質性精神病、てんかん、物質依存（アルコール、薬物）、人格障害、神経症、フロイトの精神分析理論の構築に寄与した症例、多重人格（解離性同一性障害、ヒステリー）、心的外傷後ストレス障害（PTSD）、アダルトチルドレン（共依存）、HIV感染とAIDS病者の不安とカウンセリング、精神科検査法（医学的検査、心理学的検査）、精神科治療法（各種医学的治療法、精神科薬物の副作用、心理学的治療法）

できるだけ講義者の経験した事例をあげて説明する。

【評価方法】

出席状況と後期の講義の最終日にだす「私の逆転移」というテーマに関するレポートとの両者により評価する。

【テキスト】

毎回渡す刷り物がテキストである。最後には一冊のテキストとなる。

心身医学特講

加藤雄一

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

後期では、1. 病状と経過に心理社会的因子が密接に関係し、身体の器官や機能に障害の認められる病態を心身症と言ひ、そのような対象を扱う医学を心身医学というが、ストレスに満ちている今日の社会と極めて関連が深く、またしばしば見られる病態であるので、それについて述べる。2. 精神病理学上あるいは心理的な上で極めて今日的な問題や病態を前期に引き続いて述べ、また方法論や心理療法などについて述べる。

【授業計画】

できるだけ講義者の経験した事例をあげて説明する。毎回講義に関する刷り物を渡す。

心身症（心身医学の視点、心身症者の心理的特徴、疾患例、治療など）、海外不適応、再入学学生、性に関する問題（男性性、女性性、両性具有性、性同一性障害など）、老年期の不安（痴呆老人も含めて）への精神病理学的の接近、末期ケアとグリーフワーク、安楽死・尊厳死・自殺・自殺補助・緩和医学的処遇、境界型人格障害（歴史、診断基準、力動、事例提示）、クレッチマーの敏感関係妄想に見る了解関連とそれに関する幾つかの事例、青年期に見られる精神心理的障害（不登校、引きこもり、スチューデントアパシー、対人恐怖症など）、ライフサイクルから見た女性の精神障害（摂食障害、反応性妄想性精神障害、産後精神障害など）、児童にみられる障害（学習障害、注意欠陥多動症候群、ジルドラトレット症候群、発達障害など）、精神分裂病への力動的接近、心理療法についてと逆転移、その他。

【評価方法】

出席状況と講義の最終日にだす「私の逆転移」というテーマに関するレポートとの両者により評価する。

【テキスト】

毎回渡す刷り物がテキストである。最後には一冊のテキストとなる。

臨床心理学演習 1・2

加藤雄一

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

精神病理学上あるいは臨床心理学上の基礎的な問題、および心理療法ないしカウンセリングに関する文献の抄読と検討
修士論文の指導と検討

【授業計画】

各自が勉強してきた論文を紹介し、検討しあう。また作成中の修士論文に関して討論する。

【評価方法】

研究レポートの提出その他により評価する

【テキスト】

検討するために選択されたその都度の文献を用いる。

臨床心理学演習 3・4

江口昇勇

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

指導院生の修士論文執筆に関するグループ・ディスカッションを中心に授業を行っている。修士論文執筆に限定しているので受講は指導院生に限定されている。研究計画に基づいて発表する院生に対して、指導教員や他の院生から様々な視点からの批判を受けることになる。方法論の検討から、対象選定、その現実性や最終的な手続きまで厳しい討論が続くので、そのつもりで受講すること。特に、修士論文の執筆に専念しなければいけない時期には当該院生の発表の機会が多くなる。また、臨床的素材を扱う研究の場合、研究者の個人的で主観的な歪みを補正する上で、ゼミにおける臨床素材へのグループ検討や、グループ・スーパービジョンが行われる。こうした臨床的色彩の濃いセッションが幾度か持たれることが、演習の特徴である。このような相互主観性による客観性の保持という臨床研究特有の方法論を授業の中で体験することが大切と考えている。

【授業計画】

研究計画の大枠を特定し、次に方法論の特定、調査法か実験か、臨床的アプローチか、あるいはその組み合わせかが検討される。その後、測定ツールの検討や実験条件の特定が行われ、対象の特定と臨床面接法ではその対象の選定基準の明確化が行われる。最後に結果とその考察といった順に演習での中間発表が進行する。修士論文を2年間で完成させることは実際は困難なことである。できるだけ計画を前倒しするつもりで研究を進行させること。

【評価方法】

授業における発言の姿勢と、その内容の質を評価の対象とする。また発表者には発表の方法や表現力も評価の対象とする。

【テキスト】

各自、研究対象が異なるので共通のテキストは使用しない。各自の文献研究がテキストの役割を果たす。

【参考文献・資料】

なし

人格心理学特講

富安玲子

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

人格の変容・発達と関わるカウンセリング及び人格理解の方法のひとつとしての面接について理解を深めていきたい。面接の過程における諸問題について考察するとともに、マイクロカウンセリングによる面接の技法、主に基本的かかわり技法について学習し、ロール・プレイや事例を通して実践性も高めていくことを目的としたい。

【授業計画】

人格心理学とカウンセリングとの関係を概観した上で、マイクロカウンセリングの基本的かかわり技法の紹介を通して面接過程の理解を目指す。

テキストを中心に講義を行うが、ビデオによるロール・プレイの検討なども含めて、「学び—使う—教える」の過程を習得する。

1. 人格心理学とカウンセリング
2. マイクロカウンセリングとは
 - ・かかわり行動
 - ・会話への誘い
 - ・明確化～はげましといいかえ～
 - ・感情の反映
 - ・要約技法
 - ・技法の統合
3. マイクロ技法の意味と基本的かかわり技法

初回と最終回にロール・プレイを実施し、技法に意味を考える。

【評価方法】

ロール・プレイの逐語録検討のレポートと授業への参加関与度によって評価する。

【テキスト】

マイクロカウンセリング・基本的かかわり技法 (Ivey, A. E. et al. 著 福原真知子訳 丸善)

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学特講

富安玲子

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

教育という価値を伴う働きかけの効果は、働きかけるひとと働きかけられるひととの人間関係のあり方が関わっている。人間関係のひとつとしてカウンセリングにおける人間関係を取り上げ、特に、働きかける側の影響を考えるために、マイクロカウンセリングの積極技法を中心に学習し、ロール・プレイや事例を通して実践性も高めていくことを目的としたい。

【授業計画】

教育心理学とカウンセリングとの関係を概観した上で、マイクロカウンセリングの積極技法の紹介を通して面接過程の理解を目指す。

テキストを中心に講義を行うが、ビデオによるロール・プレイの検討なども含めて、「学ぶー使うー教える」の過程を習得する。

1. 教育心理学とカウンセリング
2. マイクロ技法の意味と積極技法
 - ・基本的傾聴技法の連鎖
 - ・話に焦点をあてる
 - ・対決
 - ・指示
 - ・フィードバックと自己開示
 - ・解釈/再構成
 - ・技法の統合

最終回到ロール・プレイを実施し、技法に意味を考える。

【評価方法】

ロール・プレイの逐語録検討のレポートと授業への参加関与度によって評価する。

【テキスト】

マイクロカウンセリング・積極技法 (Ivey, A. E. et al. 著 福原真知子訳 丸善)

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

学校臨床心理学特講

江口昇勇

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

スクールカウンセラーとして学校現場に入って活動する学校臨床心理士が身につけておかねばならない最低限の知識と技術を修得することを目標としている。

【授業計画】

- 第1講 スクールカウンセラーの導入にいたる経過
スクールカウンセラー黎明期の苦難；学校側の困惑
- 第2講 「スクール・カウンセラー」になる準備
スクールカウンセラー体験から学んだこと
- 第3講 現代中学生の健康度
バウムテストの結果から見た現代中学生の心模様
思春期危機をもたらすもの
- 第4講 教師とのかかわりにおけるポイント
現場教師といかに渡り合うか
- 第5講 スクールカウンセラーの活動実践
「影の仕事人」としてのスクールカウンセラー
- 第6講 スクールカウンセラーの新しい地平
コミュニティ・アプローチの試み
不登校の子どもをもつ保護者の自助グループ
- 第7講 不登校へのグループアプローチ
不登校とキャンプ、キャンプにおける子どもたち
- 第8、9講 教師への現職教育；講義の場合
教師対象の現職教育と研修プログラム
- 第10、11講 教師への現職教育；訓練プログラムの工夫
対象理解と自己理解
 - a. 転移と逆転移、共依存関係の構造
 - b. ロールプレイ
 - c. 傾聴の6パターン
- 第12、13講 スクールカウンセラーの現在と未来
学校側が期待するSCとは？
SCの研修プログラムとSVの必要性

【評価方法】

講義終了後にレポート課題を与え、それを評価対象とする。授業での質疑等、積極的受講態度も重要な評価対象とする。

【テキスト】

テキストは使用しない。必要な資料を授業中、配布する。

臨床心理学演習 5・6

古井 景

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

自我機能・精神力動に関する知識を深めていく。自我機能の健全な発達と障害について学び、臨床心理面接技法へと繋げていく。様々な論文・著書を活用し、積極的な討議を行っていく。

また、修士論文の作成に関しても、参加者自らの積極的な取り組みを前提として、互いに検討・議論を積み重ねていく。

【授業計画】

以下の項目を中心として、参加者の発表と討論を通して、知識を深めていく。

- ・自我心理学の歴史
- ・対象関係論への発展
- ・自我構造モデルと自我機能
- ・対象喪失と取り入れ
- ・分裂の機制
- ・抑鬱の態勢、躁の防衛
- ・乳幼児期の自我-対象-分裂
- ・移行対象と移行現象
- ・分離個体化理論

【評価方法】

知識の深さ、理論の構築能力、言語的表現力など総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。参考図書はその都度提示する。

臨床心理面接特講 1・2

江口昇勇

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

臨床心理面接を行っていくための心構え、知識、技法、面接過程に生じる様々な問題点など、精神分析学あるいは分析心理学的視点に立って考えていく。

サブ・テキストとして、『仕事としての心理療法』渡辺雄三編（人文書院）を用いる。若手臨床家の事例研究論文が集められ、初心者が遭遇しがちな臨床上の素朴な疑問や問題点がちりばめられているため、これから臨床をめざす受講生にとって身近な臨床心理面接の素材として活用できると考えている。後半では、『共感と解釈—続・臨床の現場から—』成田善弘・氏原寛編（人文書院）をテキストにする予定である。

受講生は毎年、心理療法、カウンセリング、プレーセラピーを実践している院生や、心の教室や適応教室で日常的に不登校児とかかわっている者、あるいは将来、臨床を目指す者が多い。

【授業計画】

最初の数回は臨床心理面接を実践する際の基本的な態度、進め方（理論的枠組みの意味、理論と実践の関係、サイコセラピーとカウンセリング、コンサルテーションの違い、臨床アセスメント＝初回面接と見立て、治療契約と治療構造、治療過程の諸問題等々）を講義する。

その後は毎回、指定した論文を精読し、不明な語句や意味の解説を行った後は、受講者の体験に基づいて日常の臨床面接における疑問点あるいは論文へのコメントを出し、それに基づいた議論を深めるというスタイルをとっている。

【評価方法】

授業への参加態度、討論への積極的関与の姿勢、発言の内容を成績評価の重要な視点とする。特にレポートは課さないが、その代わりに平常点を厳しく査定する。自分なりの意見のまとめ方、表現方法、内容の深さ、他の人の意見への対応など、細かく評価するつもりである。

【テキスト】

『仕事としての心理療法』渡辺雄三編（人文書院）

『共感と解釈—続・臨床の現場から—』成田善弘・氏原寛編（人文書院）予定

臨床心理査定演習1・2 (臨床心理アセスメント)

古井 景

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

臨床心理士として様々な事例に関わって行く中で、事例の抱える問題点を的確に把握することは極めて重要な作業である。この演習では、神経生理学的異常、情緒的異常、その他の異常に目を向け、様々な検査法を理解し可能な限り実習体験を行っていく。

【授業計画】

資料配付に基づいて講義を行い、演習として実際の査定方法を体験していく。

- 1 心理査定・身体機能評価について
- 2 知能のアセスメント
ウェクスラー知能検査 (成人・小児)
乳幼児精神発達診断検査
老人の知能の評価
など
- 3 パーソナリティーのアセスメント
自己記入式質問紙法
投影法 (自我の構造モデルと自我機能の理解)
精神作業検査
など
- 4 その他
神経生理学的医学検査の紹介

【評価方法】

授業内容の理解度により、成績を評価判定する。

【テキスト】

使用せず。参考図書はその都度提示する。

投影法特講

池田豊應

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

ロールシャッハ法を中心に、TAT、SCT、バウムテスト、風景構成法、コラージュ等を横糸に編み込みながら、いきいきとした人間理解をめざすアプローチについて学んでいくことにしたい。

半期ではあるが、難しいとされるロールシャッハ法を使えるようになることが目標である。

このクラスでは、将来、臨床家になることを望んでいる受講者のみに限定し、倫理の問題、実施法、分析と解釈等について、特講ではあるが演習的要素も取り入れることで、受講生が真剣にインボルブして、体験的に高度専門職的な態度と技能を身に付けられるよう進めていきたいと考えている。

【授業計画】

- 第1回：心理臨床にかかわることの前提、倫理。
- 第2回：投映法一般についての概論。
- 第3回：ロールシャッハ法そのほか個々の接近法についての概説。
- 第4回から第6回：実施法およびスコアリングについて解説。
- 第7回と第8回：小グループでの分析、解釈に関する演習。
- 第9回から第12回：各グループによる発表
- 第13回：まとめ

【評価方法】

授業への参加姿勢、発表の内容、レポートの内容により総合的に評価する。

【テキスト】

池田 豊應 編『臨床投映法入門』 ナカニシヤ出版

【参考文献・資料】

適宜、授業の中で、参考文献は紹介し、資料は配布する。

グループアプローチ特講

池田豊應

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

1) まず、エンカウンター・グループ、集団心理療法、セルフヘルプ・グループ等々、「グループ・アプローチ」の概念について検討、整理する。

2) 担当者が10年来、取り組んできた「不登校生徒のためのグループ・アプローチ<ヨコ体験グループ>」を取りあげ、数人の生徒の歩みに即して、グループの動きを紹介する。

3) その詳細な検討を通して、この活動の心理療法としての意味、治療要因、治療条件、構造論、個人心理療法との関係、個人心理療法論の集大成としての面と独自の治療的グループ・ダイナミクス等々の主題について考察したい。

【授業計画】

第1回から第3回：上記の1) について講義

第4回から第8回：上記の2) について講義

第9回から第13回：上記の3) について講義

【評価方法】

授業への参加態度およびレポートの内容から評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

適宜、授業の中で、参考文献は紹介し、資料は配布する。

臨床心理基礎実習

加藤雄一 江口昇勇 古井 景

二宮 昭 富安玲子 西出隆紀

オムニバス 1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

臨床心理学の実践に必要な基礎知識・技能・態度を身につけるための実習である。

【授業計画】

1. 心理臨床入門講習

1-1 受理面接1 (乳幼児期・児童期等)

1-2 受理面接2 (思春期・青年期)

1-3 受理面接3 (成人期・老年期)

1-4 受付・契約・危機介入・限界設定

1-5 カルテ管理・守秘義務・面接時の留意点

1-6 心理検査・クリニカルレポート・リファー

1-7 見立て・治療方針・共同治療 (含家族療法)

2. ロールプレイ実習 (8月末に合宿形式で実施)

2-1 ロールプレイイングについて

2-2 実習

2-3 まとめ

入門講習は、講義・演習方式に加えて実習形式も適宜取り入れていく。ロールプレイ実習は学外で2泊3日の合宿を行い、相互にカウンセラー・クライアント役を演じ、参加者の講評を受ける。

なお、全ての内容について守秘義務が課せられているので、その点を留意されたい。

【評価方法】

成績は受講態度と提出物から評価する。特殊な実習なので、やむを得ない事情がない限り、1回でも遅刻・欠席があれば単位は認めない。

【テキスト】

その都度プリントとして配布。

臨床心理実習

加藤雄一 江口昇勇 古井景
二宮昭 米倉五郎

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

心理臨床実践を行い、それに対するスーパービジョン、ケース・コンサルテーションなどを受けることにより、心理臨床家（臨床心理士）になっていくための基礎的な能力の修得を目指す。

【授業計画】

1. 心理臨床実践

本学併設の心理臨床相談室における外来相談実習。

2. ケース・カンファレンス

本学心理臨床相談室で行われるケース・カンファレンスに参加し、ケース・プレゼンテーションを行って、討議を通して指導を受ける。また、他者の提示したケース資料について討議する。

3. スーパービジョン体験

スーパーバイザーとしてスーパービジョンを受ける。原則としてセッション1回につき、1回のスーパービジョンを受けることになる。また、必要に応じて、スーパーバイザー以外にケース・コンサルテーションを受けることにもなる。

上記のように、完全に実習中心で進める。当然のことながら、割り当てられた授業時間以外に、相当の時間をとられることを覚悟して欲しい。

なお、全ての内容について守秘義務が課せられているので、その点を留意されたい。

【評価方法】

実習態度から評価する。なお、特別な理由もなくケース・カンファレンスに欠席した場合は、その場で失格となる上、今後いかなる場合も受講を認めない。

【テキスト】

使用しない。しかし、参考文献としてかなりの文献を読むことをスーパーバイザーなどから指示されることになろう。

心理学研究法特講

杉本助男 清水 遵 江口昇勇
二宮昭 古井景 宇野善康

オムニバス 1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

心理学研究法の授業は、1) 実験法、2) 観察法、3) 調査法、4) 面接法、5) 心理検査法に区分し、各領域をそれぞれの教員が分担して講義する。

具体的には、実験法に関しては、杉本助男先生、清水遵先生が担当し、実験に伴う実験計画法や統計法を清水先生の講義に含める。観察法については二宮昭先生、調査法については宇野善康先生、面接法については江口昇勇先生が担当する。古井景先生は質問紙検査法と投影法を担当する。

【評価方法】

各研究法ごとにレポートを提出させ、評価する。

【テキスト】

プリントの配布による。

心理統計特講

植村勝彦 齋藤和志 吉崎一人

オムニバス 1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

心理統計に関わるいくつかの問題を大きく3つの側面から扱う。心理統計の基礎的な部分については齋藤が、実験計画法を中心とした領域については吉崎が、多変量解析を中心とした領域については植村が担当する。基本的な事項の講義に加えて、統計ソフトSPSSを使用した具体的な事例の検討も行う。

【授業計画】

1. データの種類と特徴
2. 代表値と散布度
3. 変数の分布と変換
4. 変数間の関係
5. 実験計画法の基礎
6. 平均値の差の検定
7. 分散分析
8. カテゴリカル・データの検定
9. 多変量解析の考え方
10. 予測と説明
11. 変数の分類
12. 尺度構成と信頼性・妥当性
13. まとめ

【評価方法】

受講態度とレポートによって評価する。

【テキスト】

指定しない。

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

【Course Content】

1) コミュニケーション

コミュニケーションには元来二つの研究分野がある。一つは、ラジオ・テレビ・新聞・雑誌等のマス・メディアを対象とする研究：マクロ・コミュニケーションであり、もう一つは、コミュニケーションを構成する要素、つまり人と人との間のパーソナルなコミュニケーションに焦点を合わせる研究：マイクロ・コミュニケーションである。この特講では、マイクロ側面が研究の中心になる。

2) 異文化

Intracultural communication (文化内コミュニケーション) と intercultural communication (異文化コミュニケーション) は非常に似た過程と活動を持つ。ところが異文化コミュニケーションの場合では、文化の違いが意味を持つという概念が中心である。言い換えれば、文化とコミュニケーションの間には密接な関係が存在する。

3) カウンセリング

カウンセリングには二つのカウンセリング分野がある：第一は精神的正常な人に対して行う発育的、発達の (developmental) カウンセリングまたは予防的 (preventive) カウンセリングであり、第二は精神的な問題のある人に対して行う治療上 (psychotherapeutic) カウンセリングである。勿論、この特講では第一のカウンセリングについて研究をする。

【Assessment】

Presentations 又は論文。

【Textbooks】

- 1) 古田暁、(監修者)、異文化コミュニケーション、有斐閣選書、1996
- 2) Saint-Jacques, B. (ed.) Studies in Language and Culture, Institute of Language and Culture, Aichi Shukutoku University, 1995

【授業の概要】

第二次大戦史の研究

前期 太平洋戦争開戦史

1. ハルノートに見られる日米対立の問題点
2. 日本の主張
3. アメリカの論理

後期 太平洋戦争終戦史

サイパン島没落以後 戦争終結への道の解明

1. 世界情勢の変動
2. 東条内閣退陣と終戦工作
3. 本土決戦方式か聖断方式か

【評価方法】

前・後期計二回の試験を受けることのほか、出席状況を重視して評価を下す。

【参考文献・資料】

- 昭和外交史 (義井博 南窓社 1990年刊)
 ハル・ノートを書いた男 (須藤真志 文春新書、平成11年)
 日米開戦の真実 (新井喜美夫、講談社+α新書、平成13年)
 聖断 (半藤一利、文芸春秋社 昭和60年)

異文化コミュニケーション特講4 (異文化接触 (亜))

明石陽至

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

東南アジアの政治・国際環境を明かにし、経済・社会・宗教の多様な特質を探って東南アジアの現状と展望を総合的に考察する。

前期では以下のトピックについて講義を行う。後期では履修生の研究発表を交えて論評・討論を行う。

1. 東南アジアをめぐる国際関係
2. 東南アジアの政治情勢
3. 東南アジアの経済と農業
4. 東南アジアの経済開発
5. 東南アジアの社会
6. 東南アジアの宗教

【授業計画】

講義を主体とするが随時討論を行う。履修生は期末に研究論文を提出。

【評価方法】

クラスでの討論参加と学期末の研究論文を評価

【テキスト】

新版 東南アジアの展望 (松本三郎・福永安祥編著 勁草書房)

ASEANの20年 その持続と発展 (岡部達味編著 日本国際問題研究所)

新・東南アジアハンドブック (滝川 勉編 講談社)

異文化コミュニケーション特講5・6 (異文化教育)

霜田一敏

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

今日の世界の紛争は、人種差別や民族差別、宗教の違いに根を置くものが多い。同じ国のなかでも民族間の差別や対立、人種や宗教の違いが国を割ることへも発展する。少数と多数の民族、先住民と移住してきた民族、かつて征服されて連れてこられた民族、難民や働き場を求めて移住した民族など、さまざまな形で違った言語文化を持った人達が同じ国のなかで共存していることが、どの国でも見られるようになってきた。そこでは歴史的宗教的背景からくる紛争もあろうし、経済的な利害からくる紛争もある。いずれも早急に解決しなければならない21世紀の課題である。この問題を教育学の観点から解決の方途を考究する。

前年度の講義の反省に基づくオリエンテーションを講義の導入にし、学生からの関心と問題意識を重視した、次のような問題について研究する。

1. 日本のなかでの多様化・多文化の問題
2. アメリカの人種差別の歴史と文化的同化の問題
3. 英国の植民地からの移住民と文化的同化の問題
4. フランスの人種差別の歴史と文化的同化の問題
5. ドイツへの移民の実態と同化政策と排他運動
6. オーストラリアへの移民の歴史と先住民政策の問題
7. イランの宗教による文化的同化 (イスラム化) と多文化教育
8. 中国の多民族共存の政策
9. その他学生の取り上げたい国の民族問題や多文化教育を検討する。

【授業計画】

受講生の関心や専門に応じて、世界のなかから一国を選択してテーマ設定を図り、その個人研究と発表に基づき集団討議を行う。受講者のレポートとテキストの講読によって授業を進める。

【評価方法】

授業のなかで行う講義への参加度や積極度、個人研究のレポートとその発表、更に最終段階での総括によって評価を行う。

異文化コミュニケーション特講7・8 (比較教育)

渡辺かよ子

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

「文化」および「コミュニケーション」としての教育に関する基礎理論を講読・講義し、異文化コミュニケーションの視点から各国の教育状況と教養論、その背景を比較検討する。とりわけ同化主義、分離主義、多元主義、多文化主義に基づく日本と諸外国の教育や教養の在り方を検討しながら、国際化社会における「日本的」教育や教養思想の問題点と課題を論究する。

【授業計画】

前期：教育とコミュニケーションに関する基礎理論の検討

1. 比較教育と学校文化：多元価値時代の教育
2. コミュニケーションとしての教育と人間形成
3. ヒューマニズムと教養教育論
4. モダンとポストモダンの教育思想

後期：高等教育論と教養論

1. 高等教育に関する基礎理論
2. 大学制度の発展：西洋・非西洋の大学と教養
世界システムと文化的従属としての大学と教養
3. 日本の高等教育における多文化教育と教養：
異文化コミュニケーション能力としての教養

【評価方法】

平常レポートと討議。

【テキスト】

使用せず（資料配布）。

【参考文献・資料】

誰でも何でも学べる大学(アシュビー 玉川大学出版部)
世界の教育改革(岩波講座「現代の教育」第12巻)
多文化社会と教育改革(河内徳子編 未来社)
対話—教育をこえて(イリイチ、フレイレ 野草社)
思想としてのコミュニケーション(尾関周二編 大月書店)
教師と学生のコミュニケーション(ブルデュー 藤原書店)
コミュニケーションと人間形成(岡田敬司ミネルヴァ書房)
比較高等教育論(アルトバック 玉川大学出版部)
普遍主義対共同体主義(ラスマッセン編 日本経済評論社)
知識人とは何か(サイド 平凡社)

異文化コミュニケーション特講9・10 (ジェンダー)

國信潤子

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

ジェンダー：社会文化的性別についての諸説を紹介しこのような社会的性別という概念が生まれてきた背景を考える。資料として、ジェンダー研究、フェミニズム、セクシュアリティ論、男女共同参画社会などに関連する最近の著作を和英とり混ぜて、講読し、討議する。

【授業計画】

基礎資料の提示、解説、講義とともに各自が関心ある研究論文をジェンダー論、開発論等の領域から選び、解説し報告する。また共同調査などを実施し、事例研究、小規模調査を実施する。自由討議を重視する。

【評価方法】

出席状況、履修態度、感想カード、期末レポート内容などの総合的評価

【テキスト】

「女性学、男性学入門～ジェンダー論入門」伊藤・國信、有斐閣

【参考文献・資料】

随時資料配付、文献紹介をする。
日本のフェミニズム 全7巻、別冊8巻
(上野、井上 他編著 岩波書店)

異文化コミュニケーション特講11 (国際交流)

榎田勝利

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

国際交流の意義、目的は時代とともに変化してきている。戦後の日本の国際交流の歴史的諸相から日本の社会の対応、変化を検証する。特に、日本の地域の国際化、国際交流における民間の役割、行政の役割について具体的事例を踏まえ考察する。

【授業計画】

講義と各課題による個人の発表に基づいて討論を行う。

- 1 戦後の国際交流の意義の変遷
 - 1) 1950年代 (国型国際交流の展開)
 - 2) 1960～70年代 (国際交流の転換期)
 - 3) 1980年代 (国際化シンドローム)
 - 4) 1990年代 (共生への道を探る国際交流)
- 2 「地方の時代」と「地域の国際化」
 - 1) 地域の国際化の背景・意義・目的
 - 2) 地域の国際化の施策
- 3 地域の国際交流の現状と課題
 - 1) 多様化・複雑化する国際交流
 - 2) 行政主導による地域の国際化の推進と国際貢献
 - 3) 民間国際交流の活発化と組織・財政基盤の弱さ
 - 4) 内なる国際化の進展
 - a) 変革を迫られる地域社会と住民意識
 - b) 多文化共生のための環境づくり
 - 5) 「官」と「民」との連帯
- 4 国際交流プログラムの評価
 - 1) 評価の目的・方法
 - 2) 評価の専門家育成

【評価方法】

クラスでの発表・討議への参加度と課題研究レポート

【テキスト】

国際交流入門 (榎田勝利監修 アルク)
地域国際化協会のあり方に関する研究会報告書 クレア

【参考文献・資料】

実践国際交流 (大阪国際交流センター発行)
国際文化論 (平野健一郎編 勁草書房)
自治体の国際政策 (松下圭一編著 学陽書房)

異文化コミュニケーション演習1・2 (異文化コミュニケーションカウンセリング)

B. サン・ジャック

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

修士論文演習

【テキスト】

使用せず。

異文化コミュニケーション演習3・4 (異文化接触〈欧〉)

義井 博

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

太平洋戦争に至るまでの明治・大正・昭和の外交史上重要問題を取り上げ検討する。

受講者は近代日本外交史上の重要テーマを選んでその研究成果の報告を中心とする。

参加者全員の活発な討論の展開されることを期待している。

【評価方法】

報告したテーマをレポートとしてまとめるほか、討論状況などが評価の対象となる。

【参考文献・資料】

19世紀のヨーロッパ (西洋史 (9)) (野田宣雄編 有斐閣新書 1980年刊)

ドイツ教養市民層の歴史 (野田宣雄 講談社学術文庫 1997年刊)

マックス・ウェーバー入門 (山之内靖 岩波新書 1997年刊)

異文化コミュニケーション演習7・8 (異文化教育)

霜田一敏

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

内なる国際化の問題について、私たちの周囲にある具体的な事例を取り上げ、検討する。

国際理解や異文化理解、民族間の世代間格差の重要性が強調されている今、私たち自身の意識改革が問われている。この演習では、わが国に現存する若者文化やマスコミ文化、マンガやアニメ文化なども視野に入れ、現在社会のなかで起こっているさまざまな事件や問題状況を取り上げ、その背景にある考え方や価値意識を分析検討を行う。同じ日本社会に住んでいながら、異なった文化を持ち、異なる心理世界に住んでいる人々の行動や考え方を理解し、円滑なコミュニケーションを図るための手だてを明らかにする。

学生の関心と問題意識を重視し、私たちを取り巻く次のような社会的な問題を取り上げる。

1. 学校のなかの異文化としての子どもの問題
2. 今日の若者文化の特徴と問題
3. マスコミ文化がもたらすさまざまな問題
4. わが国のジェンダーに関する問題
5. 障害者の世界の理解と差別の状況
6. 部落差別の歴史と現在
7. アイヌ文化の理解とわが国の民族政策
8. わが国の人々の外国人に対する排他意識と問題
9. 在日外国人の実態と共存の問題
10. 地域文化の特色と交流、文化保存の問題

【授業計画】

受講生の関心や専門に応じて問題と選択テーマを設定し、その個人研究と発表に基づき集団討議を行う。

受講者のレポートを中心に演習を進める。

【評価方法】

演習への参加度や積極度、個人研究のレポートとその発表、更に最終段階での総括論文によって評価を行う。

【テキスト】

内なる国際化 (増補改訂版 初瀬龍平 三嶺書房 1,800円)

異文化コミュニケーション演習9・10 (比較教育)

渡辺かよ子

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

異文化コミュニケーションにおける教育学研究の方法論的特徴、教育研究における諸アプローチの意義とそれぞれの限界を理解した上で、共通課題と個別課題の二つから構成する。共通課題としては異文化コミュニケーション、とりわけ比較思想や比較教育の分野の論文批判の手法を学び、個別課題については参加者との協議に基づき各自のテーマを決定して、修士論文の完成に向けて論文執筆指導を行なう。その際、論文執筆の方法、研究方法、論文の章節ごとの検討等、適宜、修士論文の完成に必要な指導を行なう。

前期：1. 教育学方法論
2. 論文批判
3. 個別論文指導

後期：1. 論文批判
2. 個別論文指導

【授業計画】

事前に提出されたテキストに関するレポート、論文に関する討論、ならびに個別指導。

【評価方法】

個別課題に関するレビューと修士論文に向けた各自の課題の進展度。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

知的複眼思考法 (苅谷剛彦 講談社)

異文化コミュニケーション演習11・12 (ジェンダー)

國信潤子

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

ジェンダー概念の形成、推移を各種資料から追求する。フェミニズム思想との関係、多様化するジェンダーのあり様は文化、社会にどのような影響をあたえるかについて考える。主に、和英の文献講読、報告、討議である。

【授業計画】

文献として下記のものを取りあげる

Natarie Socorof, Between Money and Love

Suzanne J.Kessler et al

GENDER:An Ethnomethodological Approach

【評価方法】

期末のレポート及び履修態度、報告内容の総合評価

【テキスト】

上記の文献の他に、各種随時提示する

【参考文献・資料】

上記の文献の他に、各種随時提示する

言語コミュニケーション特講1・2 (応用言語学：英語教育)

松本青也

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

応用言語学 (英語教育)

第二言語習得に関する内外の研究成果をもとに、異文化コミュニケーション能力の養成を主眼にした次代の学校英語教育の可能性と課題を、様々な角度から考察する。

【授業計画】

1. 英語教育の歴史
2. 日本における学校英語教育の問題点
3. 応用言語学と英語教育
 - ・日英対照言語学
 - ・第二言語習得理論 (SLA)
 - ・社会言語学
4. マルチメディアと英語教育
5. 英語教授法

【評価方法】

研究発表及び論文。

【テキスト】

未定。

言語コミュニケーション特講3・4 (応用言語学：日本語教育)

山内啓介

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

日本語教育の現在と将来の課題を考察する。

日本語教育は、1980年代を画期にその目的と内容を大きく変えた。コミュニケーションのために、日本語を新たな手段とする地域が広がってきている。第2言語教育の研究がすすんでいる一方で、国語と日本語の境界が教育現場でも取り払われつつあるようである。

日本語教育方法とその背景にある諸問題を概観し、テーマに応じて議論を深め問題の解決を探究する。

【授業計画】

次についてテーマを定めて講義をおこなう。

- 日本語教育の歴史
- 日本語教育の方法
- 日本語教師の使命
- 日本語ボランティア
- 日本語と文化
- 日本語教育文法理論
- 日本語とコミュニケーション
- 日本語と地域
- コンピュータ利用の日本語教育

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

プリント資料を用いる。

言語コミュニケーション特講5 (応用言語学:社会言語学)

B. サン・ジャック

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

社会言語学は、言語の構造およびその伝達機能に対する我々の理解を高めることを目指している。言いかえれば、社会言語学においては、言語に対する理解を深めるためにその社会を研究するのである。第二言語習得を目指すならば、native speakersの社会的言語運用に際しての知識の態度を見習うべきである。それぞれが、伝達能力 (communicative competence) であり、現代社会言語学の目的である。

このコースで学ぶこと：

- ・言語の科学的研究
- ・言語と社会の関係
- ・地域方言、社会方言
- ・コードの選択、二言語使用と多言語使用 (bilingualism)
- ・言語変化
- ・言語-文化-思想
- ・連帯と丁寧表現
- ・行為と会話-会話のいくつかの特徴
- ・言語と性

ゼミの使用言語は、参加院生の希望により英語又は日本語

【評価方法】

Presentations

【テキスト】

Bernard Spolsky Sociolinguistics Oxford University Press, 1998

言語コミュニケーション特講6・7 (英語コミュニケーション)

ジョリー幸子

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

英語を意思疎通の媒体として使用する時、必要な知識 (linguistic competence) とその運用技術 (linguistic performance) について学習することが当クラスのテーマである。

Introduction : English Promotes International Communication

- 1) The Gift of Language
- 2) English as an International Language
- 3) The International Vocabulary of English
- 4) The Difficulties of Speaking English
- 5) Writing English Is Important
- 6) Learning English Can Help You
- 7) Techniques for Learning English
- 8) How to Communicate in English

Conclusion : English and International Communication

【授業計画】

下記のメインテキストを機軸として、上記の内容に沿って受講者の経験や意見を交えながら行うディスカッション形式で進行する。

【評価方法】

授業中のディスカッションにおける発表能力、参考文献の読解力、そして期末に提出するレポート/プロジェクトを合わせ、総合的に評価する。

【テキスト】

- 1) *English and International Communication* (国際化とコミュニケーション) (Joan McConnell, 宮町誠一注解)
- 2) 日本の学識はどこまで通じるか：異文化交流で失敗しないために。ジョリー幸子 風媒社, 1999.

【参考文献・資料】

Intercultural Communication in Contexts. (Judith N. Martin. Thomas K. Nakayama. Mayfield Publishing Company, London. Toronto. 2000.)

言語コミュニケーション特講8・9 (中国語コミュニケーション)

馮 富榮

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

言語を構造面（文法）といった側面から捉えるだけでなく、文化や社会といった側面からも多角的に捉えることをテーマとする。この授業では、中国語を柱とし、主として日本語との比較をしながら、両言語の違い、また両言語を支えている両国の文化・習慣及び思考様式の違いを探ってみる。いわば、語用論という視点からも言語現象を分析してみる。

さらには、論文の構成や考察のしかたなどについても議論する。つまり論文を構成するにあたって、どういったところに注意したほうがよいか、どういった構成をなしている論文はよい論文であるか、またある問題についてどのような視点から論じたほうがよいか、そしていくつの視点から論じることが可能であるかなどについてディスカッションする。

【授業計画】

毎回、一名のレポーターを決め、テキストの内容に沿ってレポートをするか、もしくは関心のある研究論文についてレポートをする。その後、レポートの内容について全員でディスカッションを行う。

【評価方法】

レポートの成績に授業参加の積極性、研究姿勢及びその情熱を加味して総合的に判断する。

【テキスト】

未定。

言語コミュニケーション特講10・11 (日本語コミュニケーション)

窪田守弘

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

身のまわりで話されている何げない言葉に心をとどめ、その意味や背景を調べていくと、意外にも奥行きが深くておもしろい発見をすることが多い。特に、現代日本語の変化は激しくてその実態はなかなか把握しにくいのが、映画やテレビの画像の様々な場面では、多くの表現形式が台詞として発せられていることによっても分かる。そこで本講義では、日本語をコミュニケーションという視点から、テレビや映画というマスメディアを通して考えていく。

1) 日本語コミュニケーション a

本講義では、日本と外国の言語や文化の基礎的な知識を有名な映画やテレビのドラマを教材として学ぶ。そして、映像の中で言語表現がどのようになされているかを分析し、理解を深めるようにする。

2) 日本語コミュニケーション b

後期には、日本語コミュニケーションの新しい講義の方法として映像を中心に進める。そのために、種々の言語と文化の在り方を、映画やテレビというマス・メディアを通して比較し、その背後ではたらくメカニズムや日本語の変化を観察することにしている。そして、この日本語コミュニケーションは、対照言語学という立場から日常生活のコミュニケーションの在り方を、コンピュータを使って科学的に分析し、検討する考えである。

【授業計画】

毎回テーマを提示し、それに従って発表を行なう。そこから論文を作成するための基礎技術を身につける。

【評価方法】

講義における授業態度、レポートの内容、出席状況によって評価する。

【参考文献・資料】

ムービー DE イングリッシュ (窪田守弘編著 スクリーンプレイ出版 1,200円)

言語コミュニケーション特講12・13 (翻訳技術)

トマー・トドロヴィック

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

翻訳技術

翻訳技術のそれぞれの特徴の研究。

【授業計画】

翻訳の特徴の理解力を高めるために、日本語、フランス語、英語の文献を利用し、特に翻訳の理論と技術に関するさまざまな問題点を論じる。

【評価方法】

レポートによって評価。

【テキスト】

Translation and Translating-Theory and Practice
(Roger T. Bell, Longman, London, 1991) その他。

言語コミュニケーション演習1・2 (英語教育)

松本青也

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

応用言語学の分野の中でも、特に日英対照言語学、第二言語習得理論、および言語政策に焦点を絞り、最新の研究成果にあたりながら、研究仮題の選択、文献調査、研究題目の設定から研究方法と論文の構成・形式まで、独創的な研究のための指導を行う。

【授業計画】

研究題目に関連した内外の研究成果に批判的考察を加えながら、項目ごとに研究発表と議論を積み重ねる。

【評価方法】

研究発表、論文の総合評価。

【テキスト】

未定。

言語コミュニケーション演習3・4 (日本語教育)

山内啓介

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

日本語教育の課題を調査研究し、問題の解決をする。
日本語教育の実情とデータの収集を行い分析する。
日本語とその歴史や教育、日本語研究理論を内容とする日本語学、言語と社会、文化論、言語教育理論と実践、とりわけCALLなどにも視点を持つこと。研究の立場を持つことが重要。
演習授業であるので、参加者がプレゼンテーションを行い、発表について議論をする。

【授業計画】

個別にテーマを設定する。
次の手順で調査発表を行う。

- 1 テーマ届け
- 2 テーマについての予備研究
- 3 先行文献探索
- 4 調査実行
- 5 調査発表と議論

なお、分析と理論は方法論について、たてるとよい。
この演習授業は論文作成を目的に発表と議論を行うので、すでにテーマについての文献を渉猟し研究史に着手しておくことが求められる。研究科専攻に入学時のおりテーマをいくつかたてて実行することを進める。

【評価方法】

プレゼンテーションの内容による。

【テキスト】

特にない。

言語コミュニケーション演習5・6 (英語コミュニケーション)

ジョリー幸子

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

異文化コミュニケーションに関連する各々の履修生の選んだテーマに沿って適切な修士論文指導を実施する。

【授業計画】

修士論文作制のために設定された中間発表と、口頭試問に合わせて、各々のスケジュールを組み、テーマを決定、文献録作成、研究方法、論文記述等について指導する。

【評価方法】

論文作成の過程と、論文そのものについて総合的に判定する。

【テキスト】

各自のテーマに沿って、その都度適宜に選択、指示する。

【参考文献・資料】

Larry A. Samovar, et al. (1997) .

Intercultural Communication. Wadsworth Publishing Co. New York.

本名信行, et al. 異文化理解とコミュニケーション (1999)、三修社

言語コミュニケーション演習7・8 (翻訳技術)

トマー・トドロヴィック

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

翻訳技術

翻訳技術に関するさまざまな文献の研究。

【授業計画】

さまざまなテキスト（文学作品、学術論文、科学文献など）を利用し、特に英語、フランス語と日本語の翻訳をし、学生の翻訳技術力を高める。

【評価方法】

レポートによって評価。

【テキスト】

Professional Issues for Translators and Interpreters
(Deanna L.Hammond, ed., John Benjamins, 1994.)

ビジネスコミュニケーション特講1 (金融システム論)

藤井正志

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

わが国においても、平成9年12月の金融システム改革により、米国にならい純粋持株会社の設立が解禁された。金融業の持株会社については、子会社と実質子会社が定義され、銀行持株会社と子会社グループとの支配・被支配の関係が明確化した。本講義では、金融制度改革の日米比較を通して銀行持株会社および銀行の規制・監督体制と金融システムのあり方について論ずる。

【授業計画】

第1～12講 日米における業際規制とその法律的なバックグラウンド、業務の内容別にみた規制緩和の流れ、金融検査および監督体制を検討し、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方について解説する。

【評価方法】

授業への積極的貢献および期末レポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

金融業の情報開示と検査・監督（藤井正志著 東洋経済新報社）

ビジネスコミュニケーション特講2 (銀行ディスクロージャー論)

藤井正志

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

金融市場の国際化を迎えて、わが国においても市場の監視により銀行ディスクロージャーの適正性が峻別され、銀行の健全性を確保するために機能していくことが必要である。こうした観点から日本・米国等の各種金融機関および監督官庁等のディスクロージャー制度を比較検討することにより、銀行ディスクロージャーのあり方について論ずる。

【授業計画】

第1～12講 日米の、銀行の不良債権、金融検査結果等に関するディスクロージャーおよび情報公開法などディスクロージャーの適正性を確保するための行政上の措置を比較検討し、銀行ディスクロージャーのあり方について解説する。

【評価方法】

授業への積極的貢献および期末レポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

金融業の情報開示と検査・監督 (藤井正志著 東洋経済新報社)

ビジネスコミュニケーション特講3 (ビジネスと情報倫理)

梅田敏文

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

インターネットをはじめとする情報技術がビジネス分野に浸透するにつれ、コンピュータ倫理や情報倫理の役割がクローズアップされている。eビジネスにおいては、こうした倫理を考察することは喫緊のテーマである。本講では、コンピュータ倫理、情報倫理に関する各種論文を講読し、その内容を分析する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 企業倫理の概要
- 第3講 情報倫理の概要
- 第4講 テキスト講読 (1)
- 第5講 テキスト講読 (2)
- 第6講 テキスト講読 (3)
- 第7講 テキスト講読 (4)
- 第8講 テキスト講読 (5)
- 第9講 テキスト講読 (6)
- 第10講 テキスト講読 (7)
- 第11講 テキスト講読 (8)
- 第12講 まとめ

【評価方法】

レポートで評価する。

【テキスト】

最初に全体のプリントを配布する。
授業の途中に、適宜、資料を配布する。

ビジネスコミュニケーション特講4 (ビジネスと情報倫理)

梅田敏文

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

インターネットをはじめとする情報技術がビジネス分野に浸透するにつれ、コンピュータ倫理や情報倫理の役割がクローズアップされている。eビジネスにおいては、こうした倫理を考察することは喫緊のテーマである。本講では、コンピュータ倫理、情報倫理に関する各種論文を講読し、その内容を分析する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 企業倫理の概要
- 第3講 情報倫理の概要
- 第4講 テキスト講読 (1)
- 第5講 テキスト講読 (2)
- 第6講 テキスト講読 (3)
- 第7講 テキスト講読 (4)
- 第8講 テキスト講読 (5)
- 第9講 テキスト講読 (6)
- 第10講 テキスト講読 (7)
- 第11講 テキスト講読 (8)
- 第12講 まとめ

【評価方法】

レポートで評価する。

【テキスト】

最初に全体のプリントを配布する。
授業の途中に、適宜、資料を配布する。

ビジネスコミュニケーション特講5 (通貨危機後のアジア)

森下允之

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

アセアンは、1980年代後半より97年7月の通貨危機前まで目覚ましい経済成長を達成し、「東アジアの奇跡」と称賛されていた。

そのアセアン経済崩壊の原因として、各国の構造問題に加え、肥大化する国際短資が指摘されている。

今回の危機の引き金となった通貨下落、各国金融システム、企業債務問題に焦点をあてて論じる。

【授業計画】

- アセアン経済の発展
- 通貨危機の発生
- 危機後の経済情勢
- 金融システムの崩壊と再生策
- 企業債務問題と各国政府の対応策
- アセアン再生と日本の役割
- 以上を12回にわけて講義する。

【評価方法】

各授業での質疑応答とレポートによる。

【テキスト】

授業の進行にあわせ、関連記事を紹介する。

ビジネスコミュニケーション特講6 (欧州統一通貨ユーロ)

森下允之

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

1999年から欧州統一通貨ユーロが導入され、2002年からは、最終ステップである現金も従来の各国通貨が消滅し、ユーロに一本化された。

世界の主要国が国家主権の重要な要素である通貨主権を放棄したのは歴史上初めてのことであり、画期的である。ここに至るまでに、20世紀前半の二度にわたる悲惨な戦争およびその再発を防止するため20世紀後半の統合、共存共栄への地道な努力があった。

これらを論じる。

【授業計画】

世界大戦の原因と反省

実体経済の統合

ローマ条約、欧州経済共同体の発足

欧州単一市場の成立

通貨統合への道のり

共同フロート、スネーク

欧州通貨システム

東西ドイツ統一のインパクト

マストリヒト条約

ユーロ発足

以上を12回にわたり講義する

【評価方法】

各授業での質疑応答とレポートによる。

【テキスト】

村瀬哲司「ユーロへの道のり」

国際金融1031号～34号

ビジネスコミュニケーション特講7 (会計記号論)

杉本典之

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

企業会計は、元来、中世イタリアの商人たちが開発した記録計算法であるが、少なくとも6～7世紀の間に経済の国際化に伴って各国に伝播し、今日ではビジネス社会における国際的に共通の情報システムになっている。このような歴史的事実とその根底に貫徹する複式簿記の論理とに注目しつつ、企業会計の情報システムとしての基本的構造と社会的機能とを記号論的に多角的に考察する。

【授業計画】

下記の事項をそれぞれ複数回に分けて考察し、かつ討論する。

1. 株式会社社会を典型とする企業会計
2. 情報システムとしての企業会計
3. 企業会計の認識・測定・伝達のプロセス

【評価方法】

平常の報告、討論、レポート等を総合して成績を評価する。

【テキスト】

特定しない。個々の学生に必要な文献や資料、あるいは下記の拙著のコピーを作成してテキストとして使用する場合もある。

『引当経理と繰延経理—その構造と機能—』、同文館、1981年

『会計理論の探究—会計情報システムへの記号論的接近—』、同文館、1991年

『キャッシュフロー計算書—その国際的調和化の現状と課題—』(共著)、東京経済情報出版、1995年

【参考文献・資料】

企業会計に関する単行本や雑誌だけに限ることなく、経済問題を扱う週刊誌や新聞(日刊紙)の経済面も、さらにはインターネットも活用して、各自積極的に情報収集してほしい。必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

ビジネスコミュニケーション特講8 (会計制度の国際化)

杉本典之

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

企業会計がビジネス社会における国際的に共通の情報システムになったということは、企業会計制度の国際化が進展したということにほかならない。この事実を、各国の会計基準設定主体や国際会計基準委員会等が公表する会計基準や概念的枠組みを比較分析することによって確認し、企業会計の現状と課題を具体的に理解する。

【授業計画】

下記の事項をそれぞれ複数回に分けて考察し、かつ討論する。

1. 決算財務諸表をめぐる会計基準
2. 会計基準の国際的調和化
3. 各国の会計基準と国際会計基準

【評価方法】

平常の報告、討論、レポート等を総合して成績を評価する。

【テキスト】

特定しない。個々の学生に必要な文献や資料、あるいは下記の拙著のコピーを作成してテキストとして使用する場合もある。

- 『引当経理と繰延経理—その構造と機能—』、同文館、1981年
- 『会計理論の探究—会計情報システムへの記号論的接近—』、同文館、1991年
- 『キャッシュフロー計算書—その国際的調和化の現状と課題—』(共著)、東京経済情報出版、1995年

【参考文献・資料】

企業会計に関する単行本や雑誌だけに限ることなく、経済問題を扱う週刊誌や新聞(日刊紙)の経済面も、さらにはインターネットも活用して、各自積極的に情報収集してほしい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・指示する。

ビジネスコミュニケーション演習1 (金融システム論)

藤井正志

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

米国・日本の金融制度、法律や規制等の歴史的な変革の事例の比較分析を通して、金融システムのあるべき姿を探求する分析能力を高める。

【授業計画】

第1～12回 日米における業際規制とその法的なバックグラウンド、業務の内容別にもみた規制緩和の流れ、金融検査および監督体制を検討し、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方について演習する。

【評価方法】

授業への積極的貢献および期末レポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

金融業の情報開示と検査・監督(藤井正志著 東洋経済新報社)

ビジネスコミュニケーション演習2 (銀行ディスクロージャー論)

藤井正志

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

米国・日本の各種金融機関、監督官庁等のディスクロージャー制度の比較分析を通して、銀行ディスクロージャーの国際スタンダードを探求する能力を高める。

【授業計画】

第1～12回 日本の、銀行の不良債権、金融検査結果に関するディスクロージャーおよび情報公開法など、ディスクロージャーの適正性を確保するための行政上の措置を比較検討し、銀行ディスクロージャーのあり方について演習する。

【評価方法】

授業への積極的貢献および期末レポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

金融業の情報開示と検査・監督 (藤井正志著 東洋経済新報社)

ビジネスコミュニケーション演習3 (ビジネスと情報倫理)

梅田敏文

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

コンピュータ倫理、情報倫理に関する各種ケーススタディの論文を講読し、その内容を分析する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 企業倫理の概要
- 第3講 情報倫理の概要
- 第4講 テキスト講読内容の発表と討議 (1)
- 第5講 テキスト講読内容の発表と討議 (2)
- 第6講 テキスト講読内容の発表と討議 (3)
- 第7講 テキスト講読内容の発表と討議 (4)
- 第8講 テキスト講読内容の発表と討議 (5)
- 第9講 テキスト講読内容の発表と討議 (6)
- 第10講 テキスト講読内容の発表と討議 (7)
- 第11講 テキスト講読内容の発表と討議 (8)
- 第12講 まとめ

【評価方法】

レポートで評価する。

【テキスト】

最初に全体のプリントを配布する。
授業の途中で、適宜、資料を配布する。

ビジネスコミュニケーション演習4 (ビジネスと情報倫理)

梅田敏文

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

コンピュータ倫理、情報倫理に関する各種ケーススタディの論文を講読し、その内容を分析する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 企業倫理の概要
- 第3講 情報倫理の概要
- 第4講 テキスト講読内容の発表と討議 (1)
- 第5講 テキスト講読内容の発表と討議 (2)
- 第6講 テキスト講読内容の発表と討議 (3)
- 第7講 テキスト講読内容の発表と討議 (4)
- 第8講 テキスト講読内容の発表と討議 (5)
- 第9講 テキスト講読内容の発表と討議 (6)
- 第10講 テキスト講読内容の発表と討議 (7)
- 第11講 テキスト講読内容の発表と討議 (8)
- 第12講 まとめ

【評価方法】

レポートで評価する。

【テキスト】

最初に全体のプリントを配布する。
授業の途中に、適宜、資料を配布する。

ビジネスコミュニケーション演習5 (通貨危機後のアジア)

森下允之

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

特講5「通貨危機後のアジア」受講で全体像を把握したのち、各国経済状況、金融システム改革、為替動向、日系企業の活動状況を国際機関統計、現地資料、日系企業アンケート結果などを基にまとめる。通貨危機後5年間に制度の改善、経済回復状況を調査・検証する。

特講5を受講し、かつ英語の読解力を有することが必須。

【授業計画】

- 各国の経済回復状況
- 日欧米銀行からの資金流入動向調査
- 金融セクター再生の現状
- 日系企業の動向
- アジアの産業構造の変化
- 円の国際化とアジア諸国の為替相場動向
- 以上を12回の演習で調査・検証する。

【評価方法】

演習内容と最終レポートによる。

【テキスト】

随時授業で書籍、内外新聞記事、現地資料、専門誌記事および各国統計集などを紹介する。
活字のみならずインターネットを活用する予定。

ビジネスコミュニケーション演習6 (欧州統一通貨ユーロ)

森下允之

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

特講6でユーロ誕生までの系譜、背景を学んだ後、新欧州統一通貨が国際通貨制度、金融資本市場、銀行、企業、直接投資に与える影響を調査・検証する。
特講6の受講および英語の読解力が必須。

【授業計画】

国際通貨の要件

準備通貨、決済通貨、表示通貨としての可能性

ドル、ユーロ、円の3極体制

ユーロの問題点

欧州金融機関へのインパクト

欧州金融資本市場へのインパクト

日系企業の欧州戦略へのインパクト

以上を12回の演習で調査・検証する。

【評価方法】

各授業での質疑応答とレポートによる。

【テキスト】

国際通貨研究所「ユーロ後のEU金融証券取引」
この他随時、専門誌の記事、論文を紹介する。

ビジネスコミュニケーション演習7 (会計記号論)

杉本典之

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

この演習はビジネスコミュニケーション特講7と相互補完関係にあり、学生自らが主体的・能動的に取り組む授業である。すなわち、複式簿記の論理が貫徹する情報システムとしての企業会計を多角的に考察するために必要な情報を収集し、分析し、そして修士論文のテーマを模索しかつ明確化する、ということを経験者に実践していただく。

【授業計画】

各学生に各自の問題意識にもとづいた学習・研究の成果を発表してもらい、全員で討論する。このような授業をつうじて、問題発見能力、思考力、および表現力を向上させ、修士論文の基礎を固める。

【評価方法】

平常の報告、討論、レポート等を総合して成績を評価する。

【テキスト】

特定しない。個々の学生に必要な文献や資料、あるいは下記の拙著のコピーを作成してテキストとして使用する場合もある。

『引当経理と繰延経理—その構造と機能—』、同文館、1981年

『会計理論の探究—会計情報システムへの記号論的接近—』、同文館、1991年

『キャッシュフロー計算書—その国際的調和化の現状と課題—』(共著)、東京経済情報出版、1995年

【参考文献・資料】

企業会計に関する単行本や雑誌だけに限ることなく、経済問題を扱う週刊誌や新聞(日刊紙)の経済面も、さらにはインターネットも活用して、各自積極的に情報収集してほしい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

ビジネスコミュニケーション演習8 (会計制度の国際化)

杉本典之

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

この演習はビジネスコミュニケーション特講8と相互補完関係にあり、学生自らが主体的・能動的に取り組む授業である。すなわち、企業会計制度の国際化が進展したという事実を具体的に理解するために必要な情報を収集し、分析し、その成果を修士論文としてまとめる、ということを実践していただく。

【授業計画】

修士論文のテーマを明確化させ、論文作成のための具体的な作業を進展させる。各学生は順番に中間報告を何回かに分けて行い、討論を積み重ねて論文を完成させていく。

【評価方法】

平常の報告、討論、レポート、修士論文等を総合して成績を評価する。

【テキスト】

特定しない。個々の学生に必要な文献や資料、あるいは下記の拙著のコピーを作成してテキストとして使用する場合もある。

『引当経理と繰延経理—その構造と機能—』、同文館、1981年

『会計理論の探究—会計情報システムへの記号論的接近—』、同文館、1991年

『キャッシュフロー計算書—その国際的調和化の現状と課題—』(共著)、東京経済情報出版、1995年

【参考文献・資料】

企業会計に関する単行本や雑誌だけに限ることなく、経済問題を扱う週刊誌や新聞(日刊紙)の経済面も、さらにはインターネットも活用して、各自積極的に情報収集してほしい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

比較文化論 (日米)

ジョリー幸子

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

アメリカの文化的背景を学習することにより、自身の国の文化をより深く理解する(自分を知る)ことが当クラスのテーマである。

- 1) Basics of Culture
- 2) Communication Styles
- 3) Raising Children
- 4) Quality of Life
- 5) Student Lifestyles
- 6) Marriage and the Family
- 7) Hamburgers and Sushi
- 8) University Education
- 9) Women
- 10) Money
- 11) Working Life
- 12) Law
- 13) Space and Silence
- 14) Television Commercials
- 15) Going to the Doctor
- 16) Epilogue : Canada

【授業計画】

上記の内容に沿って、予習してきた教材をディスカッション形式で進めていく。

自己の経験や意見、感想等を積極的に発信していただきたい。

【評価方法】

授業中でのディスカッション能力、関連する文献の読解力、及び期末に提出するレポート/プロジェクト等を総合的に評価する。

【テキスト】

1) *Beneath the Surface*. 日米文化比較論. (Paul Stapleton. 伊藤章編注. SEIBIDO, 1997, ¥1,500.)

2) *Common Sense : America and Japan* 日米文化のちがい. (Wayne I. Phillips and Fujio Nakano. Seibido, 1999, ¥1600)

比較文化論（日欧）

トマー・トドロヴィック

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

比較文化論（日欧）

ヨーロッパ文化と日本文化の比較

【授業計画】

ヨーロッパ連合の主な諸国（フランス、英国、ドイツ、イタリア、スペイン、等）と日本におけるさまざまな文化活動の状況と問題点に関する最近のデータを利用して比較を行う。

【評価方法】

レポートによって評価。

【テキスト】

使用せず。

比較文化論（日亜）

倉沢愛子

集中 1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

日本＝インドネシア関係史を再考する中で異文化接触の問題点を考える。

日本と東南アジアの関係の歴史を、海を渡った日本人の軌跡を追いながら考察する。日本と東南アジアの繋がりは、遠く16世紀の大航海時代にまで逆上ることができる。各地につくられた南洋日本町はその当時のものである。その後鎖国で途絶えた関係は明治期になって「唐ゆきさん」の渡航という形で再開される。引き続き小商人たちの進出をへて、20世紀になってからは大企業の駐在員の渡航も始まる。やがて国策としての南進が始まり、最後は「大東亜」戦争における侵略と占領の時代が続く。戦後は日本の経済復興に伴って、1960年代後半から大規模な経済進出が始まり、今日経済協力、資本投資、貿易など様々な分野で多くの日本人が東南アジアを舞台として活躍している。また、東南アジアの諸国からも、留学生として、あるいは労働者として多くの人々が日本へ来るようになった。この演習では、そういった人々の移動を中心に、日本と東南アジアの歴史的な関係を総合的にとらえ、その異文化接触の一端を覗いてみたい。

【授業計画】

ビデオ等の映像を使いながら基本的には講義形式をとる。しかし全員参加のディスカッションも交えながら進める。

【評価方法】

ディスカッションへの参加の度合いによって評価する。

【テキスト】

参考書※

二十年目のインドネシア（草思社 1992）

ふたつの紅白旗（木犀社 1995）

南方特別留學生が見た戦時下の日本人（草思社 1997）

女が学者になるとき（草思社 1998）

「インドネシア—揺らぐ群島国家」（後藤乾一編

早稲田大学出版部2000年）

『ジャカルタ路地裏フィールドノート』（中央公論新社 2001年）

※希望者には、授業の最初の日に直接販売します。

コミュニケーション研究法（統計）1・2

石橋善弘

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

統計学は社会科学・自然科学・工業・商業・農業・医学などで主要な研究方法として応用されている。本授業では、基礎的なデータ処理から始めて、データの背後にある母集団の特性を定量的に議論するための数学的手法について学ぶ。

【授業計画】

統計学で使用する数学に関する講義、統計処理ソフト「Excel」の使用法に関する講義および統計学に関する英文輪読を交互に行う。

【評価方法】

レポート

【テキスト】

Excelによる統計入門（亀田和満著 朝倉書店）

下記の科目は、本年度開講しません。

異文化コミュニケーション演習5（異文化接触〈亜〉）

異文化コミュニケーション演習6（異文化接触〈亜〉）

生体情報心理学特殊研究 1

杉本助男

1～3年 通年 選択 4単位

【授業の概要】

環境刺激が生体の行動に及ぼす効果について、その個人差と脳内情報処理過程との関連について考究する。また、脳損傷者にみられるディスコミュニケーションについて神経心理学的に考究する。

【授業計画】

1年次は、各自の研究テーマについて、文献発表と研究計画を個別に指導する。

2年次は、各自の研究テーマについて、具体的な研究計画書を提出させ、これについて綿密な検討を行った後に、予備実験を行い、その結果を報告させ、本実験への指導を行う。

3年次は、2年次の本実験を引き続き行い、その結果について中間発表を行い、学位論文に結実するよう指導する。

【評価方法】

1年間の研究活動を総合的に評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

生体情報心理学特殊研究 2

清水 遵

1～3年 通年 選択 4単位

【授業の概要】

情動喚起刺激によって賦活される生体システム（神経系、内分泌系、免疫系）の反応メカニズムを電気生理学、精神内分泌学、精神神経免疫学的指標からとらえる方法論について検討する。また、情動体験とこれら生体システムの活性指標との関連性について条件発生的検索を行なうことで、情動が心身の健康に及ぼす影響についても考察する。

【授業計画】

1年次は、各自の研究テーマについて、研究方法及び文献資料等について指導を行なう。

2年次は、各自の研究テーマについて、具体的な研究計画書に基づき予備実験を行ない、学年末には中間発表が出来るよう研究指導を行なう。

3年次には、中間発表を踏まえ、更に研究方法の問題点について、より研究を深化するよう指導し、学位論文に結実するよう指導する。

【評価方法】

1年間の研究活動を総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。

社会心理学特殊研究 1

宇野善康

1～3年 通年 選択 4単位

【授業の概要】

イノベーション普及過程の解明。

第1年次においては人々の行動様式、人の作った物、あるいは人の思想や思考方法等がさまざまな社会の中でどのようにして普及、変容していくのかを新しい社会科学である普及学の諸法則を参照し乍ら考究する。

第2年次においては、各自の選んだ個別のテーマについて、研究方法および文献資料等について指導を行い、学年末には中間発表が出来るよう、研究指導を行う。

第3年次においては、中間発表を踏まえ、更に研究方法の問題点及び改善すべき点について、より研究を深化するよう指導し、後期には学位論文予備審査が行えるようにする。予備審査の結果に基づき、学位審査に値する学位論文に結実するように更に指導を行う。

【授業計画】

上記の通り。

【評価方法】

期末試験もしくはレポート提出により評価。

【テキスト】

適宜指定します。

社会心理学特殊研究 2

植村勝彦

1～3年 通年 選択 4単位

【授業の概要】

コミュニティ心理学が扱う領域のトピックスについて、修士論文で扱った問題を中心に各自が関心をもつテーマを設定し、深い学識と綿密な論理構成のもとに、その最先端を拓き追究することを可能にするよう、支援・助言すること。そして、最終的には学位審査に値する博士学位論文に結実するようにすることを目標とする。

第1年次においては、修士論文およびその後の展開を含めて、学会誌に投稿する論文の作成指導を中心とする。

第2年次においては、各自が選んだ個別のテーマについて、研究方法および文献レビューなどについて指導を行い、加えて、新たな研究を調査として実施させ、学年末には中間発表ができるよう、研究指導を行う。

第3年次においては、第2年次に実施した調査をまとめ、学会誌に投稿するための支援を行うとともに、これらの論文を含めて、博士学位審査論文として提出するに必要な事柄の指導を行う。

また、他者を指導するという経験が、自己の研究を高めるうえで有効であることを確認させる目的で、博士課程学生には研究指導として、学部学生の卒論指導にも参加する。

【授業計画】

特には定めない。

【評価方法】

1年間の研究活動を総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。

臨床心理学特殊研究 1

加藤雄一

1～3年 通年 選択 4単位

【授業の概要】

第1年次では、精神症状を聴取あるいは観察によって正確に把握し分類し、それらを精神疾患の中に位置づける方法と、その精神疾患に至る道筋を理解し、心理療法の場面で利用する方法を分析し論ずる。また心理療法の場面における治療者と患者の心理的交渉の意義と問題点を分析し考察する。

第2年次では、各自の選んだ個別のテーマについて、研究方法および文献資料等について指導を行い、学年末には中間発表ができるよう、研究指導を行う。

第3年次では、中間発表を踏まえて、さらに研究方法の問題点および改善すべき点について、より研究を深化するよう指導し、後期には学位論文の予備審査が行えるようにする。予備審査の結果に基づき、学位審査に値する学位論文に結実するようにさらに指導を行う。

1. 精神医学的な病態と治療（身体的療法と心理療法）に関する基本的な知識と検討
2. 精神医学的・臨床心理学的に、現代においてトピックスとなっている諸問題に関する検討と考察。
3. 精神病理学的方法論および治療論に関する検討と考察
4. 各自の選択した研究テーマに関する研究方法および文献に関する検討と考察

【評価方法】

レポート提出による（主として治療論に関する問題）。研究レポートの提出その他により評価する

【テキスト】

とくに指定はしない。その都度適当な文献をあげる。

臨床心理学特殊研究 2

江口昇勇

1～3年 通年 選択 4単位

【授業の概要】

心理療法の本質的機能を、クライアントに内在する自己治療能力の活性化にあるとし、そこに至る方法の重要な方法論のひとつとして筆者は「夢分析」を位置づけている。さらに、夢に登場する自己治療のためのシンボルをクライアントとサイコセラピストが二人して、共同で育て上げることに専念することが心理療法であると理解している。筆者はこうした夢やイメージの中に登場するシンボルを、さらに徹底して味わうこと、体験し尽くすことの重要性に注目している。それはユングが開発したアクティブ・イメージネーション（能動的想像）と呼ぶものの一種であるが、筆者は球体の中でそのイメージネーションを味わう方法論を開発中で、筆者はそれを「球体アクティブ・イメージネーション体験」と名付けている。この方法論による基礎実験の積み重ねと、臨床場面での応用研究を進めたい。

夢分析や、イメージを扱った心理療法を概括し、そこでのシンボルの現れ方、そしてシンボルの扱い方を考究する。そして、「球体アクティブ・イメージネーション体験」の危険性の予知、安全な臨床適用の工夫、そして、その効果を明らかにしていくこととしたい。球体アクティブ・イメージネーション体験と同時進行で、パーズンの「シンボル・セントラード描画法」によるシンボルの表現方法との相互比較も考究していきたい。

【授業計画】

内外の文献の収集と整理といった基礎的学習と、実験・臨床への適用実績を積み重ねていくことになる。参加者は各々の問題意識と照らし合わせて、相互の関連性を模索しながら、進めていくことになる。高度の専門性と臨床の実力を要求されるものとなる。

【評価方法】

授業への参加態度、討論への積極的関与の姿勢、発言の内容を成績評価の重要な視点とする。特にレポートは課さないが、その代わりに平常点を厳しく査定する。自分なりの意見のまとめ方、表現方法、内容の深さ、他の人の意見への対応など、細かく評価するつもりである。

【テキスト】

授業中にその都度、提示する。

異文化接触特殊研究 1

義井 博

1～3年 通年 選択 4単位

【授業の概要】

第1年次においては、ヨーロッパにおける戦争の発生・拡大並びに日本の第二次世界大戦への参戦の経緯を史料的に解明するとともに、終戦外交における日本の国際関係を史的に究明する。

第2年次においては、各自の選んだ個別のテーマについて、研究方法および文献資料等について指導を行い、学年末には中間発表が出来るよう、研究指導を行う。

第3年次においては、中間発表を踏まえ、更に研究方法の問題点及び改善すべき点について、より研究を深化するよう指導し、後期には学位論文予備審査が行えるようにする。予備審査の結果に基づき、学位審査に値する学位論文に結実するように更に指導を行う。

<前期>

序 二つの国際秩序と日本

1. 中国の世界秩序
2. 西方国家体系

I 明治日本の発展をめぐる外交と軍事

3. 日清戦争論
4. Pax Britannicaと日英同盟
5. 日露戦争の意義

<後期>

II 太平洋戦争への道

6. ワシントン体制下の日本
7. 日独伊三国同盟締結をめぐる日本の指導者の誤断
8. 対米開戦の決定過程

異文化接触特殊研究 2

明石陽至

1～3年 通年 選択 4単位

【授業の概要】

東南アジアの華人問題を政治・経済・社会・文化など多角的に考察し、少数民族として異文化社会における動態を分析する。

【授業計画】

前半の6週間は華人社会の問題点について講義を中心として授業を進める。後半の6週間は各自に毎週研究発表を行ってもらう。

【評価方法】

クラスでの積極的討論参加と期末に提出する書評と研究論文を総合的に評価する。

【参考文献・資料】

概説華人経済（渡辺利夫・今井理之編）有斐閣

現代南洋華僑の動態分析（市川信愛 九州大学出版会）

華僑（斯波義信著 岩波書店）

異文化教育特殊研究 1

霜田一敏

1～3年 通年 選択 4単位

【授業の概要】

3年間の大学での研究で博士論文が作成できるように個別指導を行う。

学生各自の3年間の研究計画に基づいた研究に対する指導

【授業計画】

第1年次においては、自分の研究の異文化コミ・異文化教育の全体のなかでの位置付けと意義を確認し、教育学の観点から明確にし、人間形成上の問題を考究する。

第2年次においては、各自の選んだ個別のテーマについて、研究方法及び文献資料等について指導を行う。学期末には中間発表が出来るよう、研究指導を行う。

第3年次においては、中間発表を踏まえ、更に研究方法の問題点及び改善すべき点について、より研究を深化するよう指導し、後期には学位論文予備審査が行えるようにする。予備審査の結果に基づき、学位審査に値する学位論文に結実するように更に指導を行う。

【評価方法】

学位論文作成の進度に応じて評価を行い、論文審査に合格することを最終評価とする。

【テキスト】

学位論文作成上の各種文献

異文化教育特殊研究 2

渡辺かよ子

1～3年 通年 選択 4単位

【授業の概要】

教養と高等教育

第1年次においては、Cultureとしての教養および高等教育論が、近現代の日本および外国において、どのように異文化思想を選択的に受容しながら形成されてきたのかを考察し、その今日的意義を考究する。

第2年次においては、各自の選んだ個別のテーマについて、研究方法および文献資料等について指導を行い、学年末には中間発表ができるように研究指導を行う。

第3年次においては、中間発表を踏まえ、更に研究方法の問題点および改善すべき点について、より研究を深化するよう指導し、後期には学位論文予備試験が行えるようにする。予備審査の結果を踏まえ、充実した学位論文に結実するよう更に指導する。

【授業計画】

個別指導。

【評価方法】

論文の進捗度。

【テキスト】

使用せず。

言語コミュニケーション特殊研究1

B. サン・ジャック

1～3年 通年 選択 4単位

【Course Content】

人間がコミュニケーションを自己の文化の中で行うことを「intracultural communication (文化内コミュニケーション)」といい、他の文化に対しては「intercultural communication (異文化コミュニケーション)」と定義している。現代、いろいろな国々や地域が経済的な目的から共同体を形成する動きが活発になっているし、国々を行き来する人の流れがビジネス関係や移民などの要因から増加しているうえに、マスメディアが世界を「global village」としている。このような時代だからこそ、異文化コミュニケーションは普遍的なものではないだろうか。日本にとっても、異文化精神・異文化能力・異文化コミュニケーションを育てることが将来のために重要なことである。この授業の中では、①コミュニケーションについての学説、②異文化コミュニケーションについての学説、③異文化精神を育成するためのカウンセリングについての学説、を考察する。

・異文化コミュニケーション学：基礎概念と研究領域、異文化コミュニケーションの研究のための言語学、社会学、心理学、人類学に関連する学問についての考察、個人と異文化コミュニケーション、日本人と国際化、異文化交渉と外国語、異文化コミュニケーション competence (能力)、国際ビジネスコミュニケーション、文化的名ステレオタイプと偏見、国際社会の意義と方法、個人の文化的なアイデンティティ、研究の性格と動向。

・異文化コミュニケーションの能力と精神を養う方法とカウンセリングの学説

前期に取り扱ったテーマの中から、大学院生の個別のテーマに絞って研究を深める。

大学院生自身が選んだテーマについて研究して注釈文献 (annotated bibliography) を作成し論文を書いて研究発表 (presentation) をする。

【Assessment】

Presentationとレポート。

【Textbooks】

使用せず。

言語コミュニケーション特殊研究2

トマー・トドロヴィック

1～3年 通年 選択 4単位

【授業の概要】

翻訳するには優れた外国語力と翻訳技術が不可欠である。本講では英語、フランス語、日本語の背景にある文化にもふれつつ、翻訳技術を多様な文献の種類を利用して講義する。

第1年次においてさまざまな分野の翻訳において確かな意味を伝えるには、その言語の背景にある文化の知識と高度な翻訳技術が不可欠である。本講では主に英語、仏語、日本語の多様な文献を利用して、翻訳の理論と技術に関するさまざまな問題点を究明する。

第2年次においては、各自の選んだ個別のテーマについて、研究方法および文献資料等について指導を行い、学年末には中間発表が出来るよう、研究指導を行う。

第3年次においては、中間発表を踏まえ、更に研究方法の問題点及び改善すべき点について、より研究を深化するように指導し、後期には学位論文予備審査が行えるようにする。予備審査の結果に基づき、学位審査に値する学位論文に結実するように更に指導を行う。

【評価方法】

レポートによって評価。

言語コミュニケーション特殊研究3

松本青也

1～3年 通年 選択 4単位

【授業の概要】

応用言語学（英語教育）

第二言語習得理論と日英対照言語学を中心に、最近の主な研究について考察すると共に、日本の外国語教育への研究成果の応用を検討する。

【授業計画】

いくつかのトピックについて、内外の研究成果に批判的考察を加えながら、独自の理論を構築する。

【評価方法】

発表内容と論文の評価。

【テキスト】

未定。

言語コミュニケーション特殊研究4

山内啓介

1～3年 通年 選択 4単位

【授業の概要】

日本語教育、日本語学の研究

経済と企業のグローバル化は日本語教育に新たな局面を見せている。いま、日本文化の理解と異文化の理解をもとに広い視野にたった、コミュニケーションを核とした日本語知識をもつ教師が求められるようになった。

新しい要請にこたえる日本語学、日本語教育文法学、日本語教育方法、日本語コミュニケーション、またマルチメディアを用いた教育と学習法について、それぞれの理論を構築し実践についての考察を行う。

【授業計画】

1年次では、日本語教育をめぐる状況についてとりあげ、日本語が必要とされる要因を分析する。あわせて、日本語による発想、日本語の文化がもたらすコミュニケーションの問題を議論し解決を得る。

2年次では、各自の選ぶテーマをもとに研究立場、研究手法を設定し、方法論、文献探索についての指導を行う。研究発表など、プレゼンテーションの機会を得て自らの論点を深化させる。

3年次では、自らの論考の関連テーマについて論を展開し、研究を進める。学位論文に結実するよう、指導を行う。

以上について個別指導する。また、受講生の希望を取り入れ、日本語教育の実践的教授方法の追求を行いたい。

【評価方法】

論文作成のための課題レポート、また議論の参加など、平常の態度。

【テキスト】

使用せず。

研究技法Ⅰ（データ解析）

太田浩司

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

この講義では調査によって収集されたデータをSPSSという統計パッケージを利用して解析する手法を紹介する。扱う統計手法は記述統計、ピアソン積率相関、T-検定、分散分析、重回帰分析を予定している。特にデータ分析の結果の読み方と解釈の仕方に焦点を置く。講義の詳しい内容は最初の授業で知らせる。

【評価方法】

テーマ毎の課題と学期末ペーパー。

【テキスト】

未定

研究技法Ⅱ（統計分析）

根本二郎

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

推測統計学の理論と手法について講義します。あわせて手法についての理解を助けるため、実際のデータを用いたデータ解析実習も行います。

【授業計画】

1. 標本
2. 母集団
3. 標本統計量と確率分布
4. 推定
5. 検定

【評価方法】

期末試験と出席状況で評価します。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

適宜指示します。

研究技法Ⅲ（質問紙調査法）

榊原國城

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

この授業の主題は、現代社会における様々な問題に対し、科学的な視点に基づいて対処できる基本的な技能を身につけることである。具体的には、担当者が長年学んできた心理学において用いられてきた、科学的資料の収集法としての質問紙調査法の体得である。すなわち、受講学生自身が、質問紙調査法の基礎的な考え方を理解し、その実際を段階的に体験することにより、科学的方法の適用能力を身につけることをねらいとしている。

多くの人々に共通する問題の発見や解決を図る際に、それらの人々に共通する行動の仕方や考え方、興味・関心の方向などを的確にとらえることが必要になる。研究方法としての質問紙調査法の意義はまさにこの点にある。すなわち、多人数を対象として同一質問に対する回答を求め、それらを分類し、分析する手法が質問紙調査法である。

授業内容は、受講学生の設定したテーマに基づく調査票の作成・調査実施・回収・集計・分析・報告書作成までの全過程の演習を中心とする。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 調査計画立案
3. 調査票作成と調査実施
4. 調査結果の分析
5. 報告書の作成

【評価方法】

調査報告書の内容によって評価する。なお、演習への参加態度の逐次評価も行う。

【テキスト】

授業中に指示する。

研究技法Ⅳ（経済分析）

太田聡一

1・2年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現在、日本経済は非常に厳しい状況にある。また、日本を取り巻く世界経済も、通貨危機、環境問題、経済摩擦など様々な問題をかかえている。これらの問題の所在を理解し、対策を講じるためには、経済理論の理解が不可欠である。本講義では、そのための基礎的なフレームワークを提供する。このフレームワークを身につけることで、現代経済が抱える諸問題についての理解を深めたい。

ミクロ・マクロ経済学の基礎を講義するとともに、それらの現実経済への応用を紹介する。とりわけ、ミクロ経済学ではゲーム理論のアプローチを、マクロ経済学では国際マクロ経済分析に重点をおいて論じる。ただし、理論の細部を叙述するよりもむしろ、理論の背後にある考え方を強調する。その上で、理論的な分析を現実問題に適用してゆく。

【授業計画】

講義を中心にするが、適宜学生によるプレゼンテーションを組み込む。

【評価方法】

出席と講義のトピックに関わるチーム・ペーパーで評価を行う。

【テキスト】

使用せず。

地域社会特別講義Ⅰ（地域問題論）

谷口 茂

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

名古屋・東海地域には自動車をはじめ、陶磁器、毛織、工作機械、航空機など多数の産業が立地し、日本の生産基地と呼ばれている。これら産業の現状を把握し、その課題を多角的・実証的視点から分析・検討し、活性化のための方策を追求したい。そのさい、地域社会との関連を重視することを、講義の特徴とする。なお、福祉産業、医療産業、環境産業にも触れたいと考えている。

【授業計画】

講義と並行して、受講生が地域社会が直面する諸問題について研究発表を行い、全員で討論する方法を採用する。

【評価方法】

出席、討論への参加、研究発表などにもとづき、総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。資料を適宜、配布する。

地域社会特別講義Ⅱ（地域交通論）

辻 紘良

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

交通は地域の産業活動とともに地域の生産活動を支える主要な基盤をなしている。講義では地域交通体に焦点を当て、その実態、問題の所在を明らかにし、将来の地域作りに向けてその整備の在り方を展望する。

【授業計画】

地域交通の現状と実態分析を基礎とし、情報化社会における地域作りに向け、地域交通はどのような視点で整備を進めていくとよいかを議論する。

1. 地域交通体系の現状と課題
 - ・大都市圏交通、地域圏交通の交通の現状と課題
2. 大都市の地域交通体系
 - ・都市交通とハイモビリティネットワークの形成
3. 地方圏の交通体系
 - ・地方中核都市の交通機関連活性化、地方都市の道路混雑解消

この他、交通運用計画（TDM）、交通の高度情報化（ITS）などから適宜テーマを選択し解説する。

講義と並行に最近の関連論文を読解し地域交通システムの実例や実験例を相互に提示し理解を深める。

【評価方法】

論文読解力や発表内容、課題提出の結果を総合し成績を評価する。

【テキスト】

使用せず。プリント配布

【参考文献・資料】

自動車交通の地域分析（奥井正俊 大明堂）他

地域社会特別講義Ⅲ（地域開発論）

竹村 弘

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

中央都市と地方との地域格差を是正し、国土の均衡ある開発を目指すため、国土計画及び各地の地域計画をいかに策定すべきかを検討すると共に、地域の主体的な政策の立案・実行能力の涵養方策を考察する。

1. 「国土計画」「地域計画」は、それぞれ国づくり、地域づくりの根幹をなすもので、今後の中部圏の産業経済の発展、または中部圏の地域づくりを論ずる上で、その考察が不可欠である。国土計画、地域計画で描かれている21世紀中部圏ビジョンについて考察する。

2. 従来の「地方開発」が果たした歴史的役割を評価し、現在の「地域開発」の課題を検討する。「水俣病」等の公害問題は、高度経済成長期の地方開発の影であった。今日のゴミやダイオキシン等の環境問題は、暮らしやすい豊かな地域を築く上で暗い影を落す。「自分達の地域は自分で守らなければならない」のは、歴史的教訓である。

3. 新しい地域開発の課題は、地域の自立である。従来のような中央の行政指導・補助金に依存する体制から脱却し、地域の自立を実現するためには、地方分権の推進と共に、その受け皿となる地方行政の意識改革、主体的な政策立案及び実行能力の涵養が必要であるので、その方策を研究する。

【授業計画】

講義主体であるが、院生各自の研究計画に従い、研究の進捗状況に応じた報告と討議を行う。

【評価方法】

研究進捗度、報告内容、討論参加度などを総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて適宜使用する。

地域社会特別講義Ⅳ（地域文化論）

谷沢 明

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

テーマは「地域文化振興への取り組みとその系譜～歴史的文化的遺産の継承を中心に～」。

地域社会における物質文化と精神文化の意義を、人々の暮らしの側面から具体的かつ分析的に把握し、その継承・創生を含めて将来の地域文化の在り方について考察する。

【授業計画】

1. 地域文化とは～地域文化の概念～
2. 地域文化と地域振興～文化財保護行政～
3. 街道の文化～妻籠宿の町並み保存～
4. 街道の文化～奈良井宿の祭礼～
5. 旅の文化史～お伊勢まいり～
6. 名古屋の文化～熱田神宮の特殊神事～
7. 奥三河の郷土芸能～鳳来寺田楽～
8. 地域社会の変容～国土総合開発の影響～
9. 歴史的文化的遺産の継承(1)～歴史的風土の保全～
10. 歴史的文化的遺産の継承(2)～まちづくり～
11. 宮本常一の地域文化論～師から学んだもの～

【評価方法】

平生の授業態度により評価する。

【テキスト】

『フィールドワークで探る民俗と地域文化』

国際社会特別講義Ⅰ（国際社会発展論）

藤瀬浩司

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

近現代において各国が辿った経済発展や工業化の特徴を比較するとともに、全体としての世界システムの構造変化を検討し、現代の国際問題の性格を明らかにする。

最初に世界経済を構成する要素について理論的に考察し、次に世界経済が辿った長期の歴史過程と各この工業化の諸例を分析し、最後に20世紀の世界経済の展開と現代の状況について述べる。

【授業計画】

講義形式であるが、質問や討議の時間を適宜とりたい。

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

藤瀬浩司著『欧米経済史』放送大学教育振興会

国際社会特別講義Ⅱ（国際経済システム論）

秦 忠夫

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

国際間の経済取引は経常取引（財・サービスの貿易取引）と資本取引に大別されるが、いずれの面でも取引の自由化が進み、世界経済は相互依存関係を深めている。しかし、発展段階の異なる多くの国からなる世界経済においては、取引の自由化には不断の政策努力が必要であり、一方で国際取引の進展に伴って発生する諸問題は市場メカニズムに委ねるだけでは解決できず、国際的な政策対応が不可欠である。戦後の世界経済がどのような制度的枠組みのなかで発展し、どのように問題解決への取り組みがなされてきたか検討し、将来に向けての課題について考える。

戦後の国際経済システムを担ってきた三つの主要国際機関、すなわち国際通貨基金、世銀グループおよび世界貿易機関（その前身としてのガット）が果たしてきた役割をレビューし、それぞれが抱える今日の課題を検討する形で主題テーマに迫る。

【授業計画】

講義が主体となるが質疑応答の時間を十分取り入れたい。積極的に議論に参加してもらいたい。

【評価方法】

授業への取り組み姿勢と期末レポートで評価。

【テキスト】

プリントを配付。

【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介。

国際社会特別講義Ⅲ (国際関係論)

清水 洋

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

国境を越えた人口移動は、経済だけでなく、社会、文化、政治を含めて現実の国際関係を形成する基本的な要因である。現代アジアを中心に、日本人・華人・南アジア人などの移民の歴史や特徴、民族問題、各国の移民政策、移民受け入れ国・送り出し国への経済的インパクトなどを総合的に検討する。

【授業計画】

講義を主体とするが、研究発表、討議を適宜行う。

- 1) 国際労働力移動—理論と歴史
- 2) ~3) 世界の華僑移民
- 4) ~5) 世界の南アジア人移民
- 6) ~8) 植民地期東南アジアにおけるアジア系移民と民族問題：華僑、印僑、日本人
- 9) ~11) 戦後の東南アジアにおける民族問題と社会経済発展
- 12) ~13) アジアにおける華人資本

【評価方法】

討議への参加度、レポートなどによる評価。

【参考文献・資料】

からゆきさんと経済進出—世界経済のなかのシンガポール・日本関係史 (清水洋・平川均共著、コモンズ 1998年)。
日本移民の地理学的研究 (石川友紀著 榕樹書林 1997年)。
華僑 (斯波義信著 岩波新書 1995年)。
国家のなかの民族—東南アジアのエスニシティ (綾部恒雄編 明石書店 1996年)。
国際移動の歴史社会学—近代タミル移民研究 (重松伸司著 名古屋大学出版会 1999年)。
アジアの大都市〔3〕クアラルンプル・シンガポール (生田真人・松澤俊雄編 日本評論社 2000年)。
H. Shimizu and H. Hirakawa, *Japan and Singapore in the World Economy*, Routledge, London and New York, 1999.

国際社会特別講義Ⅳ (比較教育文化論)

江藤恭二

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

世界における比較・国際教育学研究の最近の水準に即しながら、人間形成の比較・国際的接近を試みる。そのさい、文化史的背景に、とくに注目する。

- 1) 「真の意味での近代化」としての産業革命時代の教育と文化
- 2) 世界における「新教育運動」の展開
- 3) 第二次世界大戦後の教育改革の展望
- 4) 近代欧米教育文化と近代日本教育文化との関連と課題

【授業計画】

参加者へレポートを課しながら講義を進めていく。

【評価方法】

平素のレポートを対象にする。

【テキスト】

西洋近代教育史 (江藤他編 学文社 2,300円)、『教育史学会紀要』および『日本比較教育学会紀要』を用いる。紀要論文はコピーして配布。

国際社会特別講義V (比較政治論)

西尾林太郎

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

東アジアにおける国際体系の変化と中国、韓国、日本の近代史は深く連動しながら展開した。この点を考慮しつつ、政治的近代化論を軸として、中・韓・日3国の近代史と現代の政治システムについて比較分析することを、本講義の目的とする。また、その結果をふまえて、“アジア的国家”と西欧近代国家との比較も試みたい。

【授業計画】

- 1 政治的近代化とは？
- 2 伝統的東アジアの国際秩序
- 3 科挙官僚制と中国の近代化
- 4 両班（ヤンパン）と李氏朝鮮の近代化
- 5 徳川幕藩体制と日本の近代化
- 6 アメリカの発展と太平洋進出
- 7 “アジア的国家”とは何か？
- 8 イギリス、ドイツ、フランスにおける政治的近代化
- 9 stateとnation
- 10 1950年代～80年代における中国、韓国の政治と社会

【評価方法】

出席状況とレポートとによる。

【テキスト】

特に定めない。随時、資料を配布する。

【参考文献・資料】

1. *Asian Power and Politics: The Cultural Dimensions of Authority* (Lucian W.Pye Harvard Univ. Prees)
2. ステイトとネイション——近代国民国家と世界経済の政治経済学——（佐々木隆生 『経済学研究』VOL.47～50、北海道大学経済学部、1997～2000年、に連載）

メディアプロデュース特別講義I (映像制作論)

坂元 多

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

映像で作品を作るということ、特にドキュメンタリーやニュース映像、レポート作品のメッセージとは何かを、メディアリテラシーの観点から批判的に考えてみる。記録され作品となる映像の恣意性や映像を記録するということのそもそもの意味を問いなおす。

【授業計画】

具体的な映像作品にそって、切りとられた映像や使用される音楽によって表現されるイデオロギー性の抽出を試みる。映像作品にひそむさまざまな事実からのズレ、真実からのバイアスの発見の訓練とする。

【評価方法】

レポート提出によって評価する。

【テキスト】

特になし。

メディアプロデュース特別講義Ⅱ（情報科学論）

親松和浩

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

近年の急速なIT（情報通信技術）革命の進展によって、情報科学ぬきに21世紀のメディアを語ることはできなくなった。この講義ではマルチメディアに焦点を当て、その原理と応用について“マルチメディアを使う立場から”考察する。また、マルチメディアと基礎科学との関係についても検証し、夢の技術として基礎研究段階にある量子コンピュータ等の紹介も行う。

【授業計画】

- 1) マルチメディア情報とは
- 2) マルチメディア情報の処理技術
- 3) マルチメディア情報システムと通信技術
- 4) マルチメディアの応用と将来

【評価方法】

出席状況とレポート等で評価する。

【参考文献・資料】

岩波講座マルチメディア情報学（岩波書店）

メディアプロデュース特別講義Ⅲ（レトリック批評論）

五島幸一

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

レトリック批評とメディア研究との関わりあいについて考察する。とくにメディアを媒介としたメッセージを分析することにより、レトリック批評の理論的枠組を明らかにし、そのメディア分析の有効性について論じる。

レトリック批評理論に関する論文を講読し、その理論的枠組を考察する。また、メッセージ分析に関する実践的研究について考察し、その特質について検討する。

【評価方法】

授業への参加度、および学期末に提出する研究論文にて評価する。

【テキスト】

Rhetorical Criticism: Exploration & Practice (Sonja K. Foss, Waveland Press, Inc.)

メディアプロデュース特別講義Ⅳ（番組開発論）

大西 誠

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

映像をベースにした放送番組の成り立ちを歴史的に振り返りながら、番組をどのように企画し、一つの作品として作り上げていくかを理論と実習を通じて明らかにする。

【授業計画】

近年、市民が番組を制作する機会が多くなっている。取材（ロケ）映像とスタジオ映像とは、それぞれどのような特徴があり、どのように作られていくのか。また、それらを効果的に組み合わせて市民に資する番組を制作するには、どうしたら良いか。基本的なモデルを教育番組に求める。

プロの制作者のノウハウを探りながら、番組はどのように開発し、制作していけば良いのかをメディアリテラシーの視点から試作を通じて理解研究する。

本講では、実際に放送された教育・教養番組をモデルに番組形式や内容を分析するとともに、グループ・ワークで実際に番組を制作する。

【評価方法】

授業への参加度、期末の課題と作品で評価する。

【テキスト】

未定

都市環境デザイン特別講義Ⅰ（居住環境管理論）

吉澤 晋

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

都市における居住の身体的、精神的健康への影響の把握を始めとして、都市環境の構成機構の解明、人間生活との係わり合い、住宅や機器類などのハードとの係わり合いの解明を通じて、計画、管理、改善のための方策を論じる。

1. 健康概念と居住環境
2. 都市居住環境と健康影響
3. 居住環境条件の構成機構
4. 建設と管理・居住の関連
5. 環境的責任の分担
6. 行政・教育・居住者・建設者の課題

【授業計画】

プリントを中心に講義を行う。

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

未定。

都市環境デザイン特別講義II (建築保存再生論)

河辺泰宏

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

西洋と日本を中心に、都市と建築の歴史的遺産について理解を深めるとともに、それらの保存・修復・復原や都市資産としての利活用の方法について論じる。

【授業計画】

授業は主に講義形式で進めるが、テーマによって担当者を決め、報告会を行うことがある。

- 1) 破壊との闘い
人類の蛮行と遺産保護への執念
- 2) 変りゆく保存の概念
文化遺産保存活動の歴史とユネスコの世界遺産条約
- 3) 開発・建設の時代から維持・再生の時代へ
建築におけるサステナビリティ
- 4) 文化財保存の論理
日本における文化財保護の歴史
- 5) 文化財保存の事例研究
日本・イタリア・トルコ・シリア etc.
- 6) 町並み保存の論理
日本における町並み保存の歴史
- 7) 町並み保存事例研究
ポローニャ・妻籠・長浜・倉敷 etc.
- 8) 近代建築保存の論理
近代建築および近代化遺産の保存・再生の歴史
- 9) 近代建築保存・再生の技法
保存・再生の基本理念と具体的方法
- 10) 近代建築保存・再生の事例研究
神戸・横浜・大阪・京都 etc.

【評価方法】

授業や見学会への参加状況とレポート、課題発表の内容等によって決める。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

都市環境デザイン特別講義III (情報化建築論)

吉田邦彦

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現在の都市・建築は、マルチメディア化とネットワーク化により著しく進展した情報化（高度情報化）によって、大きな変革が進みつつある。情報化の観点から、生活空間の変化の方向を探り、それらが今後の都市・建築のあり方およびそこの生活にどのような影響を与えるかを論じる。

情報化の進展によって大きな変化を受けつつある住居とオフィスを取り上げ、インテリジェント化、マルチメディア化、ネットワーク化によって、建物の機能や構成要素がどのように変化してきたか、今後どのように変化するかを考察する。また、建築の設計や生産の方法に対しても情報化は大きな影響を与え、建築生産情報の統合化が急務となっている。その動向を概観し、今後の方向を探る。

【授業計画】

講義によるオーバービューと併せて、下記のテキストを各自が読解し、ディスカッション形式で理解が深まるように講義を進める。

【評価方法】

分担部分の発表内容・形式、討議への参加、および課題に対するレポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

シティ・オブ・ビットー情報革命は都市・建築をどうかえるかー (ウィリアム・J・ミッチェル著 掛井秀一他訳 彰国社)

都市環境デザイン特別講義Ⅳ（都市空間デザイン論）

日色真帆

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

場面のデザインという視点から、望ましい都市空間のデザインを、多様な社会、文化、芸術的文脈の中で実現してゆく方法を学ぶ。特に、生活の場面をデザインすることに焦点をあて、スペースブロックとイベントピクトグラムという手法を用いて、具体的な提案に結びつける。

【授業計画】

- ・場面のデザインという視点から、様々なデザイン分野の比較分析。
- ・スペースブロックによる空間表記。
- ・イベントピクトグラムによる行為や出来事の記号化。
- ・居住環境の様々なデザイン手法の学習。
- ・具体的な生活の場面についての分析とデザイン。

（講義と議論をふまえて、具体的な生活の場面について分析レポートとデザイン的な提案を作成しプレゼンテーションを行う。）

【評価方法】

分析レポートとプレゼンテーションによって評価する。

【テキスト】

特になし。

地域社会プロジェクトⅢ a・b

谷沢 明

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

テーマは「歴史的文化遺産を活用した地域づくり」及び「民家の保存・再生からまちづくりへ」。

河辺泰宏教授担当の都市環境デザインプロジェクトⅣ a・bと連携して実施する。

【授業計画】

「概要」に記されたテーマに基づくフィールドワークの実施とその成果の発表。

各種事例を、それぞれ手分けして調査し、レポートを作成し、その報告を行う。（10月14日に成果発表会及びパネル展示を予定している）

【評価方法】

プロジェクトへの参加の度合、及び展示パネル・成果発表等のプレゼンテーションにより評価。

【テキスト】

田村明『まちづくりの実践』（岩波新書）

21世紀の国土のランドデザイン（国土庁編）

地域社会プロジェクトIVa・b

石田好江

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

前期

少子化に長寿化が重なり年少人口は漸減、老年人口は急増しており、2016年には年少人口は老年人口の半分になるものと見込まれている。少子化や人口減少問題の原因や評価をめぐっては様々な議論がある。前期は、そうした原因、評価、影響等についての議論を整理し、それを踏まえて、マクロ・ミクロのそれぞれの視点から21世紀型の社会のあり方について考えてみたい。

後期

現在、地域コミュニティのもつ基礎集団としての役割や機能が改めて見直されてようとしている。そうした流れをふまえ、今年度は生活とビジネスを結ぶ広義のコミュニティ・ビジネスに注目し、そこにおけるコンセプト、マーケティング、働き方等について調査・研究し、そこから閉塞する地域を切り拓く方途を提言する。

【授業計画】

講義と討論の後、一定のテーマにもとづいた調査・分析を課し、レポートとしてまとめる。

【評価方法】

プレゼンテーションと課題レポートによって評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず、適宜、資料を配布するとともに、参考文献についても授業の中で紹介する。

国際社会プロジェクトIa・b

藤瀬浩司

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

工業化の理論的実証的研究。

1. 工業化に関する理論を検討する。
2. イギリス産業革命から現代までの歴史過程に現れた工業化の分析。
 - (i) イギリス産業革命
 - (ii) 西ヨーロッパとUSA
 - (iii) ロシア、イタリア、日本
 - (iv) 社会主義工業化
 - (v) 発展途上国の工業化

【授業計画】

レクチャーと参加者の報告・討論を組合せる。

【評価方法】

授業への参加状況とレポートで評価する。

国際社会プロジェクトⅣa・b

アンドリュー・J. ムーディー

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【Course Content】

This class will explore that challenges and the rewards offered to the countries of Asian & the Pacific from cultural contact. Because one basic assumption of this class is that cultural contact is a universal phenomenon, students will be asked to view with skepticism any claims that a country is mono-cultural, or that it has no cultural diversity. Instead, students will be asked to carefully examine Asian & Pacific countries' history, customs, people, and society to find evidence of cultural contact. In addition, this class will explore the experiences that Asian & Pacific countries have in encouraging or resisting cultural contact.

【Schedule】

Each student of the class will be asked to choose a country of Asia & the Pacific (i.e. Korea, China, Thailand, Malaysia, Singapore, etc.) and report on how cultural contact has influenced the international relations and development of that country. In particular, students will be asked to draw cultural comparison with Japan and speculate on the cultural challenges offered from contact between Japan and the country they choose. Special emphasis will be placed upon using the internet to gather information about the countries of Asia & the Pacific.

【Assessment】

homework 25%
weekly journal 25%
oral report 25%
written report 25%

【Textbooks】

The text for this class will be a series of articles and readings supplied by the professor at the first meeting.

メディアプロデュースプロジェクトⅡa・b

大西 誠

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

映像メディアは、フィルム、ビデオ、デジタル画像といった収録媒体の特質を生かしつつニュース、ドキュメンタリー、ドラマ、フィクションなどの形式で、情報・メッセージを伝えている。しかし単に、表現されたものを表面的に捉えただけでは、メディアの本質が見えてこない。本講は文化のおよび社会的文脈（コンテキスト）に視点をおきながら、各自の目指すテーマについて、発表し、討議を通じて映像メディアの現状を分析・検討していく。

【授業計画】

19世紀以降のメディア史や理論の系譜に目を向けつつ、IT革命にふりまわされるメディア状況をアクチュアルに捉え、現代社会とメディアの関係を考察する。映像メディアとデジタルに関連した課題の調査・分析を下記のキーワードと関連づけて行う。

- ・デジタルウォーズの勝敗
- ・コンテンツビジネスの虚実
- ・バーチャル・リアリティの功罪
- ・メディアとしての身体
- ・アナログの逆襲

など。

上記のキーワードの変更もありうる。

【評価方法】

授業への参加度、期末の課題で評価する。

【テキスト】

未定

メディアプロデュースプロジェクトⅣa・b

石田米和

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

大量に生産され流通する、画像を中心とした様々な形態の情報内容（コンテンツ）の多面的な分析を通して、主に以下の点を論議していきたい。（1）観察可能な情報内容や社会的事象の、意味論的・記号論的・認知理論的分析の方法論・手法の検討と応用、（2）情報内容と表現方法、それらと社会的文化的文脈との関連性、（3）双方向性とネットワーク化による意識・感覚の共有、暗黙知の形成、（4）メディア文化のパラダイム、その他

【授業計画】

概要は以下の通りである。

- ・情報の表現と社会的認知
- ・社会的認知と社会的文化的文脈
- ・メディアのグローバル化とローカル化
- ・メディアのネットワーク化と情報共有
- ・その他

【評価方法】

- ・出席状況、受講態度
- ・レポート
- ・定期試験

【テキスト】

未定。英文も使用する予定である。

【参考文献・資料】

未定。適宜、紹介する。

都市環境デザインプロジェクトⅠa・b

日色真帆

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

都市環境をわかりやすく魅力あるものとする方策を、空間認知研究の成果をふまえて具体的に探る。名古屋の中の複雑な都市空間を対象とし、調査と分析を行い、さらにデザイン的な提案をまとめ、プレゼンテーションをまとめる。一連のプロセスを経験することで、都市環境の改善活動について具体的に学習する。

【授業計画】

- ・都市環境を対象とした空間認知についての講義。
- ・複雑な都市空間についての事例収集。
- ・都市空間のデザイン手法についての学習。
- ・対象とする都市空間の調査と資料収集。
- ・分析結果の中間発表と教員による講評。
- ・環境改善についての提案の作成。
- ・プレゼンテーション手法についての学習。
- ・プレゼンテーションの作成。
- ・最終講評会におけるプレゼンテーションと講評。

※対象とする都市空間は授業の中で発表する。

【評価方法】

提出された作品と、講評会におけるプレゼンテーションによって行う。

【テキスト】

特になし。

都市環境デザインプロジェクトⅢa・b

太田 裕

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

都市環境デザインの切り口は多様であるが、その一つに安全の観点から都市を捉え、調査・診断し、都市の安全環境改善をデザインする研究分野がある。都市防災のシステム学ともいわれる分野である。当該授業はこの分野の基礎学力涵養を支援すべく、学習期間を通年として、前期-後期を一貫した形で学習内容を構成する。すなわち、前期は資料解析を含むシステム学的諸手法を幅広く学習し、後期に予定される課題研究の推進技法として体得することに主眼をおく。後期はモデル地域を具体的に選定し、現地調査の実施・資料分析を含む、体験的学習に主力をおく。対象モデルは世帯一近隣コミュニティー市町村という地域がもつ一連の構成単位毎に段階的に選定し、実地調査を計画・実施する。これによって地域・都市がもつ災害危険環境を計量し、安全環境改善を計ること、地域問題解決学の基礎体力を増強する。学習成果をレポートに結実する。

【授業計画】

前期	第1回	年間計画概説
	第2～4回	システム学通覧
	第5～8回	システム情報・資料調査法（仮想実習）
	第9～12回	システム情報・資料分析法（体験実習）
後期	第1回	後期計画概説
	第2～4回	災害別危険環境の通覧
	第5～7回	災害別危険環境の計量・解析法
	第8回	地域調査実施ガイダンス
	第9～12回	調査・解析の実施、レポート作成

【評価方法】

前期はシステム学的諸手法の事例解析（計算機処理）結果をレポートとして提出することを求める。後期は調査課題にもとづき、各自が実施した調査・分析の結果をレポートとして提出していただくこととなる。これに出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

授業中に適宜指示し、必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示し、必要に応じて資料を配布する。

都市環境デザインプロジェクトⅣa・b

河辺泰宏

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

文献講読やフィールドワーク等を通じて、歴史的建造物や伝統的町並みの保存と再生に関して体験的に学ぶことを目的とする。

（授業は谷澤明教授担当の「地域社会プロジェクトⅢ」と連携して行う。）

【授業計画】

- 1) 参考文献の輪読。
- 2) フィールドワークの実施とその成果発表。
- 3) 映像資料の視聴と討論。

フィールドワークにおいては、文献に記載された事例を訪ねたり、その他の事例を探して手分けして調査を行い、レポートを作成する。フィールドワークの対象は、授業の中で適宜相談して決めるが、一例として妻籠、奈良井、熊川、舞鶴、金沢などを考えている。とくに、本年度は名古屋近郊の古民家の再生事例について集中的に調査を行い、パネル展示等を行う予定である。

【評価方法】

プロジェクトへの参加の度合い、およびレポートとその発表により評価する。

【テキスト】

まちづくりの実践（田村明 岩波新書）
21世紀の国土のグランドデザイン（国土庁編）

地域社会特別研究 M- II a・b

谷口 茂

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

特別研究M-Ia・bの研究成果をさらに発展させ、論文作成について個別的指導を行う。

【授業計画】

学生ひとりひとりの能力に応じた個別的研究指導を行い、優れた研究成果を生みだしたい。

【評価方法】

出席、研究への熱意、研究の成果などにもとづき、総合的に評価する。

【テキスト】

とくに使用しない。

地域社会特別研究 M- II a・b

辻 紘良

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

地域の開発計画や交通問題等の中から今日的な個別問題を取り上げ、その実態や課題を明らかにするとともに、将来の地域づくりの在り方について方策を提言し、その効果を分析評価する。

【授業計画】

(個別問題の例)

(1) ネット通信を利用するカーシェアリング
インターネットにより簡易に不特定多数者間で対話型通信が可能なることを利用し、通勤・帰宅時に通信ネットワークを形成しカーシェアリングシステムを構築、運用する。このシステムの可能性について、名古屋市の代表的な地域を対象にシミュレーションモデルを構築し、分析を行い本システムの成立可能性評価を行う。

(2) 福祉ネットによる身障者向け経路誘導
身障者向けに福祉ネットを構築し、最寄り施設等への経路誘導情報の提供を行う。このシステムの可能性について、代表的な地域を対象に研究室内ネットシステムを構築し、本システムの成立可能性を検討する。

研究の実施過程において分析方法や技法を教示するとともに、同時に学生の研究と論文作成に対する個別助言指導を行う。

前半(M-Ia・b)は交通需要の実態調査やシステム設計が主、後半(M-IIa・b)は具体地域を対象にモデルを作成し分析を行う。これに考察を加え修士論文にまとめる。

【評価方法】

研究計画や研究推進状況ならびに論文の出来映えを総合し成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考文献・資料】

Proceedings of 6th World Congress On Intelligent Transport Systems (ITS' 01), 他

地域社会特別研究 M- II a・b

竹村 弘

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

テーマ： 日本経済・地域開発

内 容： 未曾有の長期不況下でIT革命・少子高齢化・地球環境問題など歴史の変革期を迎えようとしている日本経済に関する問題、および、中部圏のビッグ・プロジェクトや各地の地域活性化プロジェクトなど地域開発に関する問題を広範に取り上げ、実証的に研究する。

【授業計画】

個別にスケジュールを作成し、院生の研究進捗度に応じた助言と指導を行い、研究論文を完成させる。

【評価方法】

研究論文。

【テキスト】

必要に応じて個別に使用する。

地域社会特別研究 M- II a・b

谷沢 明

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

地域文化の継承に関わる諸問題を取りあげ、その調査分析手法を教示するとともに、学生の研究と論文作成に対する個別的助言指導を行う。フィールドワークを中心とした地域研究を志向し、既往研究を踏まえて独自の調査研究を目指す人を対象とする。

【授業計画】

学生が定めたテーマの調査研究と論文作成に対する個別的助言指導を中心とする。定期的に進捗状況の報告を行う機会をもつように努める。

【評価方法】

平生の調査研究への取り組みにより評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず。参考文献については調査研究の進捗状況に応じて、適宜紹介する。

地域社会特別研究 M-Ⅱa・b

榊原國城

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

この授業の主題は、学生自身の個人研究活動を通じて判断力・理解力・総合能力を涵養し、問題に対する客観的、科学的態度を身につけ、研究能力を高めることにある。

受講学生は、担当者の指導を受けながら、自己のテーマについて積極的に学び、問題を発見し、問題の解決に向け、これまでに身につけた科学的方法を適用することによって実証していくという研究活動を行い、その成果を修士論文としてまとめる。

【授業計画】

毎回数名の発表者が、予め用意したレジュメに基づいて発表し、それらに対して他の参加者がコメントするという方式。発表者、およびコメンテータは事前に指定しておく。

【評価方法】

参加態度および期末に提出される研究論文の内容によって評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

地域社会特別研究 M-Ⅱa・b

石田好江

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

消費、家族、労働、地域福祉などライフスタイルに関するテーマを取り上げ、研究の方法を教示するとともに、受講学生の研究と論文作成に対する個別的な指導を行う。

【授業計画】

個別指導を行う。

【評価方法】

中間報告と論文により評価する。

【テキスト】

使用せず。

国際社会特別研究 M-Ⅱa・b

藤瀬浩司

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

世界経済の構造と発展：20世紀の世界経済の発展を主要テーマとして、研究方法を指導するとともに、学生の論文作成に対し助言を与える。

【授業計画】

各学生が論文作成の進捗状況及び問題点について報告し、教員が助言を与える。時間配当については、相談のうえ決定する。

【評価方法】

参加状況と個別研究の進み方で評価する。

【テキスト】

なし。

国際社会特別研究 M-Ⅱa・b

秦 忠夫

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

国際経済・金融問題

国際経済・金融問題を取り上げ、研究の方法を教授するとともに、個々の学生の研究に対する助言を行い論文作成を指導する。

【授業計画】

個別指導を行う。

【評価方法】

研究ならびに論文の進展具合いで評価。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介。

国際社会特別研究 M- II a・b

清水 洋

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

授業担当者の専門領域はアジア経済論、日本・アジア経済関係史、および国際労働移動論である。院生が選定した研究テーマを取り上げ、討議を通じて基礎理論の充実と進化をはかり、分析の方法を教示し、論文作成の指導をする。また、統計資料の読み方、英文資料の使い方、インターネットを通じての資料収集の方法、その他基礎的な研究技法も適宜教示する。

【授業計画】

個別指導を行う。

【評価方法】

中間報告と論文による評価。

【テキスト】

使用せず。

国際社会特別研究 M- II a・b

江藤 恭二

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

教育に関わる諸問題を取りあげ、その究明の方法を教示するとともに、学生の研究と論文作成に対して個別的指導・助言を行う。

【授業計画】

学生各自の研究の進め方に対して、個別的指導・助言を行いつつ、各自の研究の進行状況に応じての報告を求める。

【評価方法】

平素の研究への取りくみ状況、報告内容により評価する。

【テキスト】

特定のものを使用しない。適宜指示をする。

国際社会特別研究 M-Ⅱa・b

西尾林太郎

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

修士論文作成の指導を行う。各自のテーマに従って、文献・資料講読とレポート発表を毎週交互に実施する。前期は講読、後期はレポートにそれぞれウェイトを置く。

【授業計画】

- 前期 a 修士論文のテーマに関する文献リストの作成
b 主要な先行業績に関するチェック
c カード作成ならびに整理
d テーマに関するデータベースの作成とそのチェック
- 後期 a 論文の構成チェック
b 各章ごとに逐一レポート
c 修士論文の全体チェック
d 脚注チェック

【評価方法】

出席状況とレポートの内容による。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

その都度指示する。

国際社会特別研究 M-Ⅱa・b

小木曾通男

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

特別研究M-Ⅰa・bで学習した中から、各自が関心と興味をもった人物を選び、その人物を通して日本の近代化の過程を教育に視座をおき、解明することを目的とする。

【授業計画】

前期
各自の文書発表資料をもとに、討議を通じて、その人物の活躍する背景としての日本の近代化の過程を理解するとともに、今後の研究の発展に必要な基礎的な理論の構築及び文献の選定、分析の方法などの研究技法を指導する。

後期

日本の近代化に貢献した人物像を鮮明に描くことにより、日本の近代化の過程を解明することを目指して、研究内容が充実するよう指導する。

【評価方法】

出席状況と平素のレポートによる

【参考文献・資料】

その都度、必要文献を紹介する

メディアプロデュース特別研究 M-IIa・b

坂元 多

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

テレビ、映画など映像メディアを取り上げ、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的な助言を行ない、論文作成又は研究成果の結実を指導する。一つの映像メディアからどのような研究テーマが抽出できるか、さまざまなケースを例示し研究の分野、方向をさぐる。

【授業計画】

キーとなる先行の論文の読み合わせをベースに質疑など、討議法を加えた進め方をとりたい。

【評価方法】

レポート提出によって評価

【テキスト】

特になし

メディアプロデュース特別研究 M-IIa・b

親松和浩

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

特別研究M-Iの成果を深め修士論文にまとめるために必要な助言と指導を行う。

【授業計画】

テーマごとの個別指導を行う。研究の進展の度合いに応じて、各種学会での成果発表も視野に入れる。

【評価方法】

出席状況と報告レポート等で評価する。

メディアプロデュース特別研究 M-II a・b

五島幸一

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

メディアを媒介としたメッセージをレトリック批評の観点から取り上げ、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的助言をおこない、論文作成を指導する。

【授業計画】

研究テーマの設定、問題設定、論文の書き方などを学生との討論を通して指導する。

【評価方法】

論文の進捗状況によって評価する。

【テキスト】

とくになし。

メディアプロデュース特別研究 M-II a・b

大西 誠

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

M-I a・bを継続しながら、メディアの役割・機能に関する理論、受容理論などを研究するとともに、現代社会におけるメディアの問題点を明らかにする。課題に対し、分析的、批判的なアプローチを試みることにより、具体的な研究目的に沿った研究を実践する。その成果を論文あるいは制作にまとめる。

【授業計画】

個別指導により、各自の研究計画を実現する。前期は、スケジュールと研究方法を明らかにし、内容の詳細を確定する。後期は、成果物の作成に当たる。

【評価方法】

研究論文または制作で総合的に評価する。

【テキスト】

特になし

メディアプロデュース特別研究 M-IIa・b

太田浩司

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

特別研究 I a, b を基礎とし研究論文を作成する。前期は論文のプロポーザル、後期にはデータの分析と書き上げをする。

【授業計画】

詳しい授業予定は学期の最初に説明する。

【評価方法】

論文プロポーザルと論文

【テキスト】

未定

メディアプロデュース特別研究 M-IIa・b

石田米和

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

メディアのグローバル化を念頭に置き、認知科学および比較文化論等の視点から、特に映像メディアのコンテンツの普遍性等について、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的な助言を行い、論文作成又は研究成果の結実を指導する。

【授業計画】

概要は以下の通りである。

- ・コンテンツに係わる諸問題の抽出
- ・表現方法と社会的認知－普遍性・個別性と認知
- ・社会的認知と社会的文化的文脈－認知ギャップの要因
- ・メディアのグローバル化と情報内容・表現方法－表現の自由とルール
- ・その他

【評価方法】

- ・出席状況、受講態度
- ・レポート
- ・定期試験

【テキスト】

未定。英文も使用する予定である。

【参考文献・資料】

未定。

都市環境デザイン特別研究 M-II a・b

吉澤 晋

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

都市における生活環境の改善を主要テーマとして、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別の助言を行い、論文作成又は研究成果の結実を指導する。内容的な例として次のようなものが考えられる。

1. 都市環境における住宅環境の諸問題
2. 住宅及び室内空間における環境改善の技術

【授業計画】

参加する学生の希望と、教員側の指導上の可能性からテーマと研究方法を決定する。

【評価方法】

研究過程及び論文作成段階・成果のそれぞれについて評価指導する。

【テキスト】

未定

都市環境デザイン特別研究 M-II a・b

河辺泰宏

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

西洋建築の歴史と歴史的建造物の保存と再生を柱として、文献講読を中心に授業を進める。

授業は、参加者の興味と担当者の専門性を考慮して、半期ごとに異なった文献を選びながら進める予定である。また、本演習は修士論文の研究指導を兼ねているので、資料収集の方法や論文の読み方、書き方にも重点を置く。

【授業計画】

- 1) 西洋建築史および歴史的建造物の保存と再生に関する論文や書籍を持ち寄り、その中から適切な主題をあつかったものを選び、読み合わせる。
- 2) 読み合わせには、分担を決めてあらかじめ資料を用意し、理解の助けとする。
- 3) 論文のまとめ方を指導する。

【評価方法】

参加の状況によって判断する。

【テキスト】

未定。必要に応じて選択し、必要な資料は配付する。

都市環境デザイン特別研究 M-II a・b

吉田邦彦

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

高度情報社会における都市・建築のあり方、建築設計の方法に関する諸問題の解明、あるいは問題解決のための方法の提案を主要テーマとする。

上記テーマをもとにして、今日の都市・建築の設計におけるさまざまな問題を取り上げて、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的な助言を行い、論文作成または研究成果の結実を指導する。

【授業計画】

学生との討論を通して、問題点を明らかにするとともに、学生による修士論文の進行にあわせて、その折々での調査・検討の結果について共同で議論し、指導する。

調査・検討の実施とその考察、論文としての構成等についても議論し、論文の完成を目指す。

【評価方法】

提出された論文の内容、形式の水準と、学生の授業中の議論に対する積極性によって評価する。

【テキスト】

使用しない。

都市環境デザイン特別研究 M-II a・b

日色真帆

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

建築や都市空間のデザインに関連して、それぞれのテーマについて論文を作成するための指導をする。

【授業計画】

個別指導。

【評価方法】

論文による評価。

【テキスト】

特になし。

都市環境デザイン特別研究 M-Ⅱa・b

垂井洋蔵

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

都市環境デザイン特別研究M-Ⅰと同じ。原則として研究科課程2年間継続して行う。

1年次に設定し、資料を収集し、考察を行った、題材とする事象をもとにその建築論的な解釈を行い、論文としてまとめる。

【授業計画】

個別に論文の進捗にあわせた指導を行い、前後期継続して、修士論文として纏め上げるための助言を与える。

【評価方法】

論文の内容で評価する。

【テキスト】

適宜テーマの進捗に沿って参考文献を提示する。

都市環境デザイン特別研究 M-Ⅱa・b

仁科浩二郎

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

当年度は、環境アセスメントに就いて考察を進める。現在、さまざまな開発計画に関連してアセスメントが行われているが、その実施例を参考に、この社会的作業のあるべき形態を探る。すなわち現在の大型開発計画に関連した環境評価が、有効に機能しているか、という反省から試みる検討である。

【授業計画】

修士論文を目指した学習、検討である。年間の予定を冒頭に確認したあと、大型プロジェクトにおけるアセスメント評価書の公告、縦覧など、アセスメント制度の実務を理解し、本来の意図が活かされているかを検討する。

【評価方法】

修士論文への各学期末の積み上げとまとめて評価する。

【テキスト】

使用しない。必要資料は適宜、学生が入手するか、指導側が指示する。

【参考文献・資料】

前項と同じ。

都市環境デザイン特別研究 M-II a・b

太田 裕

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

「異常自然現象と人間社会の共生」を大枠とする領域で研究課題の選定を行い、事例研究の推進を計る。モデル地区としては近郊の都市を選び、現地（実態、資料）調査を中心におく。その中で、問題発見－解決－報告に至る一連の研究技法を体得する。したがって、授業形態は必然セミナー形式となり、受講者が率先かつ自力で課題達成に努めることとなる。

【授業計画】

前期

1. 基礎知見学習
2. 既往研究の体系的把握
3. 課題の予備的实施

後期

1. 課題解決実行プログラムの作成
2. 現地・実（資料）調査の実施
3. レポートの作成

【テキスト】

特になし。随時、読解すべき論文・専門書を指示する。

【参考文献・資料】

同上。

- (注) 都市環境デザイン特別研究M-I a, bとの併行学習は許容するが、その場合は「研究課題」を大きく変えたものとする。

海外実地研修特論

秦 忠夫 西尾林太郎 清水 洋

集中 1・2年 通年 選択 4単位

【授業の概要】

今年度は、「多民族国家シンガポール・マレーシアの社会経済発展と日本の役割」をテーマとして、進出日系企業、日本の官公庁出先機関、高等教育機関、戦史・民族博物館、回教・ヒンドゥー・仏教寺院などを訪れ、聴き取り調査・資料収集を行い、日本国内で学んだことを現地で確認する。帰国後、研修先で集めたデータなどを基にシンガポール・マレーシアの社会経済発展の現状・問題点、民族問題、日本との結びつき、日系企業の活動状況などを分析し、研究を深める。

【授業計画】

- (1) シンガポール・マレーシアでの実地研修の前に国内で事前研修を随時実施する（シンガポール・マレーシアの政治・経済・歴史・進出日系企業などに関する講義、研究発表、研修旅行に関するガイダンスなど）。なお、日時については年度初めに受講希望者と相談したい。
- (2) シンガポール・マレーシアでの研修：9月に約1週間実施する（時期については受講希望者と相談したい）。
- (3) 帰国後に研修報告会を実施する。

【評価方法】

事前研修での発表、研修旅行での活動状況、帰国後の報告・レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

事前研修の際に指示する。

【参考文献・資料】

事前研修の際に指示する。

主題講義Ⅱ

谷口 茂 竹村 弘 石田好江

集中 1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

少子化に長寿化が重なり年少人口比率は漸減、高齢人口比率は急増しており、2016年には年少人口は老年人口の半になるものと見込まれている。こうした少子化はすでに人々の生活に広汎な影響を及ぼしているばかりでなく、高負担や労働力不足など将来の人々の生活やわが国の未来に大きなインパクトを与えることになろう。しかし、この問題の原因や評価をめぐっては様々な議論があり、その影響についても必ずしもデメリットだけでなく、豊かな生活の享受が可能であると人口減少社会のメリットを指摘する意見もある。いずれにせよ、少子化、高齢化、人口減少は21世紀型社会のあり方を変える契機になることは確かである。

本講では、わが国が直面している重大問題のひとつである少子化、高齢化、人口減少問題について、何が原因か、この問題をどう考えるべきか等を、この分野の専門家である外部講師を交えて議論したい。

【授業計画】

数人の講師による集中講義の形式をとり、その全体を4つの分野で構成する。

1. 人口減少とは何かについて考える
第1回 学生による研究発表
第2回 外部の講師による講義
第3回 ディスカッション
2. 少子化の原因は何かについて考える
第4回 学生による研究発表
第5回 外部の講師による講義
第6回 ディスカッション
3. 少子化のメリット、デメリットについて考える
第7回 学生による研究発表
第8回 外部の講師による講義
第9回 ディスカッション
4. フィールドワーク (第10～12回)
関連施設の見学

【評価方法】

研究発表とレポートによって評価する。

【テキスト】

使用しない。参考文献・参考資料等については、研究発表の個別指導の中で紹介する。

国際理解教育Ⅱ

小木曾通男

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

第2次世界大戦による日本の孤立から、敗戦によるアメリカ軍の日本占領政策としての日本教育の民主化の導入が、日本経済の発展にどのような影響を与えたかを考察するとともに、世界の経済大国となった日本の国際理解教育の現状を分析し、今後の望ましいあり方を求めることを主眼とする。

【授業計画】

1. 日本の民主化政策としての教育改革
(1) 戦後の民主教育への革命的な移行
(2) 男女共学、単線型教育制度等の導入の教育的意味
(3) 高等教育機関の充実(新制大学)と日本の飛躍
(4) 教育内容の変化
2. 日本における国際理解教育の発展と現状
(1) 海外留学制度の変遷と拡充
ガリシア・エロア、フルブライト、各国政府招致留学生の果たした意義
在外研究、AFS、YFU、提携校、企業・私費留学等の現状と課題
(2) 中学・高校における国際理解教育の現状と課題
社会・地歴・公民科、英語科、学校行事、特別活動における国際理解教育
(3) 中学・高校における外国人教員の現状と課題
(4) 外国人留学生の受け入れの現状と課題

【評価方法】

発表及びレポートによる。

【テキスト】

国際理解教育論講義概要 200円

【参考文献・資料】

特に指定しないが参考文献は授業において指示する。

地域社会プロジェクト I a

谷口 茂

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

地域社会は、現在、さまざまな課題に直面しているが、最も重要な課題は福祉と環境問題であろう。高齢化の進行に伴い、高齢者を取り巻く状況は厳しさを増す一方である。また、工業化と技術進歩により、住民生活の環境は悪化の一途をたどっている。この意味で、このプロジェクトでは、福祉と環境の問題を研究する。

【授業計画】

受講生の希望を参考にして、福祉と環境のなかから、1つのテーマを選び、全員で協力して、現状の把握、問題点の分析・検討に努め、さいごには対応策の樹立まで行いたい。肝要なのは、全員による共同研究である。なお、前年は「名古屋市のごみ問題」と取り組んだ。

【評価方法】

さいごにレポートを提出させ、これに基づいて評価する。

【テキスト】

使用しない。資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の際に、紹介する。

地域社会プロジェクト I b

榊原國城

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

組織心理学およびコミュニティ心理学の研究を中心に、隣接する領域の心理学的研究の諸論文を精読し、その意義や問題点等について討論を行う。その際、研究の基本的な枠組みや科学的研究方法についての解説を行い、受講者の理解を深める。また、後半ではテーマごとに受講者に課題を与え、発表討論を行う。受講者は、積極的かつ主体的に討論に参加してほしい。論文の選択は当初担当者が行うが、演習を進めていく過程において、受講者の関心、理解度に応じて柔軟に変更を加えていきたい。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 論文講読
3. 発表討論

【評価方法】

演習中の課題へのレポート内容およびプレゼンテーションのすべてを包括的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

地域社会プロジェクトⅡa・b

竹村 弘 辻 紘良

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

21世紀の情報化、国際化および環境・生活者優先の時代に向けて、それぞれの地域特性に則した地域計画および地域交通のビジョンを提案し可能性を研究する。

【授業計画】

〈Ⅱa：竹村 弘教授〉産業技術都市として先端的研究開発機能の集積を高めると同時に、生活環境に優れ暮らしやすい豊かな地域を形成するための方策を解明する。

(1) 名古屋圏の誇る産業集積を背景に、世界的な創造産業・技術の開発拠点および産業・情報交流拠点となることを目指して、「産業・技術中枢機能都市」づくりが進められている。

(2) 一方で、地域開発の究極の目標は、地域住民が自信と誇りを持てるような暮らしの豊かな地域をつくることである。人々の関心が「もの」から「ところ」に移り、産業社会の開発より環境保護や生活者の利益を優先する時代を迎え、これからの地域開発のあるべき方策を研究する。

〈Ⅱb：辻 紘良教授〉地域の交通実態を分析し、その特徴と問題点を抽出するとともに、その地域に相応しい新しい交通システムを提案し実証的にその可能性と効果を考察する。

(1) 地域の街区構造の成り立ちと交通流動との関連について実態分析を加え、問題点と課題を把握する。

(2) 交通施設整備の現況を把握するとともに、今後の整備の在り方を考察する。

(3) 上記問題点を解決するために自動車の高度情報化技術 (ITS) を活用した新しいシステムを提案するとともに導入の可能性を実証的に研究する。

【評価方法】

発表内容や課題の提出状況を総合し成績を評価する。

【参考文献・資料】

交通工学研究会編「ITS インテリジェント交通システム」丸善

“Proceedings of Intelligent Transport Systems '99”

国際社会プロジェクトⅠa・b

清水 洋

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

イギリスと日本の工業化の特徴を考察したうえで、第二次世界大戦後にアジア諸国が「産業革命」を経験せずに急速な経済発展を遂げた背景を明らかにする。また、アジア諸国の工業化において日本の果たした役割を検討する。

【授業計画】

レクチャー、課題発表、討議によって授業を進める。

I a：イギリス、日本、アジア諸国の工業化

I b：アジア諸国の工業化における日本の役割

【評価方法】

討議への参加度、レポート、課題発表の内容などを総合的に評価する。

【参考文献・資料】

世界経済史入門—欧米とアジア (長岡新吉・他編、ミネルヴァ書房)

国際経済の成長1820～1960 (A.G.ケンウッド、A.L.ロッキード、文眞堂)

西ヨーロッパ工業史 (D.S.ランデス、みすず書房)

東南アジアの経済 (鈴木峻、御茶の水書房)

東アジア経済の軌跡 (上村泰夫ほか編、青木書店)

アジアにおける日系企業の経営 (鈴木滋著、税務経理協会)

中堅企業の海外進出 (吉原英樹著、東洋経済新報社)

メイド・イン・チャイナ (黒田篤郎、東洋経済新報社)

国際社会プロジェクトⅡa

江藤恭二

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

教育近代化の過程を、世界教育史上の人物をとり上げることによって明らかにしていく。たとえば、コメニウス、ロック、ルソー、ペスタロッチー、フレーベルなどの名を挙げうるであろう。彼らが教育史上、どのような実践と思想の軌跡を残しているかを刻明に探っていきたい。

【授業計画】

1. コメニウス 「大教授学」
2. ロック 「教育論」
3. ルソー 「エミール」
4. ペスタロッチー 「隠者の夕暮」
5. フレーベル 「人間教育」

これらの古典を読みつつ、著者たちの生涯を明らかにする。

【評価方法】

出席状況と平素のレポートによる。

【参考文献・資料】

1. 西洋教育史叙説 (江藤 恭二 福村出版)
 2. 西洋教育史 (長尾 十三二 東大出版会)
- その他、西洋教育古典シリーズ (明治図書) を用いる。

国際社会プロジェクトⅡb

西尾林太郎

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

Max Weberの著作 (日本語訳のもの) やウェーバーの学説に関する著作物を丁寧に輪読する。続いて日本人研究者による国家論に関する著作を味読しつつ、ウェーバーへの理解を深めたい。政治文化、エートス、リーダーシップ、官僚制、宗教、経済、ナショナリズム等をキー・ワードとしつつ、アジア社会や現代の日本社会についての理解を深め、比較史的視点の構築を目指すと共に、社会科学の専門書にも習熟したい。

【授業計画】

- 1 Max Weber、丸山真男、大塚久雄について
- 2～8 M. ウェーバー『社会と経済』の一節 (特にカリスマ、官僚制、権力に関する部分)、大塚久雄によるウェーバーに関する著作を輪読
- 9～12 近代国家論に関する論文を輪読
- 13 まとめとディスカッション
キーワードによる現代社会、現代国家の分析をめぐってフリーディスカッションを実施

【評価方法】

出席状況および平常点による。輪読の際、各自の担当部分について簡単なレジュメを作成してもらう。

【テキスト】

授業中にその都度指示する。

【参考文献・資料】

授業中にその都度指示する。

国際社会プロジェクトⅢa・b

清水 洋 秦 忠夫

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

Ⅲaでは、英文資料（新聞・雑誌記事、学術論文等）を用いて、アジア社会の諸問題を政治・経済・文化・教育などの視点から多面的に考察し、討議を通じて知識を深める。Ⅲbでは、国際資本が生み出す現代国際金融の問題点と解決策を、各種国際機関や海外の研究機関のレポート（英文）を参考資料として検討する。

【授業計画】

- 第1回～13回 アジア社会をテーマとした英文資料を和訳し、討議を行う。
- 第14回～26回 現代国際金融の問題点と解決策に関する英文資料を和訳し、討議を行う。

【評価方法】

授業への参加状況とレポートで評価する。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する。

メディアプロデュースプロジェクトⅠa・b

坂元 多

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

ことばだけでは表現できない思想やアイデアを映像作家は番組やアートで表現してきた。今までのすぐれた映像表現の先駆者たちをとらえて、具体的な作品にそってその表現の形式や手法、考え方を学ぶ。

【授業計画】

映像や資料の提示解説の後、その受けとめ方についての討議をとおして理解を深めたい。

【評価方法】

各回の各自の受けとめ方や自主的研究の深め方を見て常時評価する。毎回ショートレポートの提出を求めることがある。

【テキスト】

特になし

メディアプロデュースプロジェクトⅢa・b

五島幸一

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

メディアから出てくる情報には受け手を説得しようとする戦略が組み込まれている。国内の数多くの例証を引きながら、表現レトリックを抽出し、その背後の送り手の意図を探り出し、表現形式と意図との関係を考察する。

新聞や雑誌などの活字メディア、テレビや映画などの映像メディア、またインターネットなどのニューメディアを対象にして、そこで表現される内容の特徴を実際に調べていく。

【授業計画】

問題設定とその解決策をグループによる検討を中心に進める。

【評価方法】

授業への参加度およびレポートにて評価する。

【テキスト】

別途指示する。

メディアプロデュースプロジェクトⅤa・b

親松和浩

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

今や身近な道具となったパソコンとインターネットの組み合わせという新しいメディアの特性を分析し、マルチメディア教材開発の可能性を研究する。このプロジェクトでは分析研究だけでなく、教育番組制作への応用を視野に入れ教材を設計（試作）することにより実践的に学ぶ。

【授業計画】

講義、討論、レポート報告、制作演習を組み合わせた形で進める。レポート報告や課題制作の成果を討論で受講生全員にフィードバックして理解を深めていく。

講義では、パソコンとその周辺機器及びインターネットの技術的側面について概説する。その後、メディアとしての特性について討論し、マルチメディア教材制作の可能性についての理解を深め、教材設計（試作）の構想を練る。教材の試作はグループで行い、なるべく複数の教材設計（試作）に関わり多面的な体験をできるようにする。

特に、目に見えないもの（放射線等）、見えても変化が分かりにくいもの（植物の成長等）を映像化、音響化する教材の開発にも積極的に取り組む。その際には、インターネットを活用して学外機関（名古屋大学、理化学研究所、原子力研究所等）の最新の研究成果を積極的に活用する。

また、機動性に優れたノートパソコンとインターネットを組み合わせたモバイル環境を活用して、野外学習用の教材開発や、環境の有限性を体感させる教材の開発の可能性についても探っていく。

【評価方法】

レポート報告、課題制作を主たる評価の対象とし、討論への参加度などを加味する。

【テキスト】

使用せず。資料を適宜配付する。

都市環境デザインプロジェクトⅡa・b

吉田邦彦 仁科浩二郎

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

都市・建築における具体的な生活空間、例えば住宅やオフィスを取り上げ、サステナブル（持続可能）な設計・建設・運用の可能性について調査・検討する。建築の企画から設計、建設、運用、維持保全に至る一連のライフサイクルにおいて、ライフスタイルの変化を含めて、環境型社会の建築を形成していくための具体的な方策を探る。（吉田）

もう一つの観点は、現代都市の成立が膨大なエネルギー供給に支えられていることである。熱及び電力供給が市街のビルディング単位で行われる一方、個々の家庭は冷暖房、照明、熱源のために電力・都市ガスの供給を受けている。そのシステムは、社会基盤として整備され、便利で無意識な消費形態を実現した。これは環境・資源の観点から、持続可能であろうか。一家庭の消費・廃棄形態が世界的課題につながる現在を意識しながら、定量的にこの問題を探る。（仁科）

【授業計画】

学生との討論を通して、問題点を明らかにするとともに、学生による調査・検討の結果について討議し、新しい提案を考える。

【評価方法】

学生の授業に対する積極性とレポートの内容により評価する。

【テキスト】

なし。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

- (1) 暮らしと地球環境（犬飼英吉 丸善（株）2000年）
- (2) 放射線のABC（日本アイソトープ協会 1995年）

都市環境デザインプロジェクトⅤa・b

垂井洋蔵

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

経済発展の中で、日本中の都市で画一化が進行した。自立した地方の時代の到来と、生産人口の減少が現実の問題となった今、都市間競争に勝ち残る為の個性化の必要性が叫ばれているが、多くの都市ではその方法を見出せていない。我々人間がなにかを「計画」しようとする「場所」には、そこに固有の形態（トポグラフィ）と意味（歴史的時間性と文化）が刻印されている。所謂「風景」や「風土」という言葉で表されるものであろう。現代の都市施設計画における手法が、こうしたその、そこに根ざした「場所性」から目をそらした、抽象的普遍的な形態操作術に拠ってきた結果がこうした「景観」と呼ばれる類型的な都市の視覚的世界を作り出したといえる。

具体的な都市と場所を題材にしてこのような視点から、意味の発見とそれに基づく施設計画とプロジェクトの提案を行う。

【授業計画】

建築における、「空間論」「場所論」に関する諸思潮の紹介と批判。

具体的な都市の選定、問題点の把握とその都市の読解。場所性を支えるものの発見と、それに基づく具体的な建築あるいは都市施設の提案。

以上のプロセスを、全員参加による議論の深化に基づいて解答を見出しながら進める。

【評価方法】

プロジェクトへの参加と、問題理解の深度を総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。参考文献を適宜紹介する。

地域社会特別研究 M-I a・b

谷口 茂

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

産業・企業と地域社会との共存・共生という問題を取り上げ、その分析方法や技法を教示するとともに、学生の研究と論文作成に対する個別的助言指導を行う。

【授業計画】

学生ひとりひとりの能力に応じた個別的研究指導を行い、その成果を段階的に積み上げていきたい。

【評価方法】

出席、研究への熱意、研究の成果などにもとづき、総合的に評価する。

【テキスト】

とくに使用しない。

地域社会特別研究 M-I a・b

辻 紘良

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

地域の開発計画や交通問題等の中から今日的な個別問題を取り上げ、その実態や課題を明らかにするとともに、将来の地域づくりの在り方について方策を提言し、その効果を分析評価する。

【授業計画】

(個別問題の例)

(1) ネット通信を利用するカーシェアリング
インターネットにより簡易に不特定多数者間で対話型通信が可能なことを利用し、通勤・帰宅時に通信ネットワークを形成しカーシェアリングシステムを構築、運用する。このシステムの可能性について、名古屋市の代表的な地域を対象にシミュレーションモデルを構築し、分析を行い本システムの成立可能性評価を行う。

(2) 福祉ネットによる身障者向け経路誘導
身障者向けに福祉ネットを構築し、最寄り施設等への経路誘導情報の提供を行う。このシステムの可能性について、代表的な地域を対象に研究室内ネットシステムを構築し、本システムの成立可能性を検討する。

研究の実施過程において分析方法や技法を教示するとともに、同時に学生の研究と論文作成に対する個別助言指導を行う。

前半(M-I a・b)は交通需要の実態調査やシステム設計が主、後半(M-II a・b)は具体地域を対象にモデルを作成し分析を行う。これに考察を加え修士論文にまとめる。

【評価方法】

研究計画や研究推進状況ならびに論文の出来映えを総合し成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考文献・資料】

Proceedings of 6th World Congress On Intelligent Transport Systems (ITS'01), 他

地域社会特別研究 M- I a・b

竹村 弘

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

テーマ： 日本経済・地域開発

内容： 未曾有の長期不況下でIT革命・少子高齢化・地球環境問題など歴史の変革期を迎えようとしている日本経済に関する問題、および、中部圏のビッグ・プロジェクトや各地の地域活性化プロジェクトなど地域開発に関する問題を広範に取り上げ、実証的に研究する。

【授業計画】

個別にスケジュールを作成し、院生の研究進捗度に応じた助言と指導を行い、研究論文の作成を進める。

【評価方法】

研究への取り組み姿勢と研究の進捗度。

【テキスト】

必要に応じて個別に使用する。

地域社会特別研究 M- I a・b

谷沢 明

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

地域文化の継承に関わる諸問題を取りあげ、その調査分析手法を教示するとともに、学生の研究と論文作成に対する個別的助言指導を行う。フィールドワークを中心とした地域研究を志向し、既往研究を踏まえて独創的調査研究を目指す人を対象とする。

【授業計画】

学生が定めたテーマの調査研究と論文作成に対する個別的助言指導を中心とする。定期的に進捗状況の報告を行う機会をもつように努める。

【評価方法】

平生の調査研究への取り組みにより評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず。参考文献については調査研究の進捗状況に応じて、適宜紹介する。

地域社会特別研究 M- I a・b

榊原國城

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

この授業の主題は、学生自身の個人研究活動を通じて判断力・理解力・総合能力を涵養し、問題に対する客観的、科学的態度を身につけ、研究能力を高めることにある。

受講学生は、担当者の指導を受けながら、自己のテーマについて積極的に学び、問題を発見し、問題の解決に向け、これまでに身につけた科学的方法を適用することによって実証していくという研究活動を行い、その成果を修士論文としてまとめる。

【授業計画】

毎回数名の発表者が、予め用意したレジュメに基づいて発表し、それらに対して他の参加者がコメントするという方式。発表者、およびコメンテータは事前に指定しておく。

【評価方法】

参加態度および期末に提出される研究論文の内容によって評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

地域社会特別研究 M- I a・b

石田好江

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

消費、家族、労働、地域福祉などライフスタイルに関するテーマを取り上げ、研究の方法を教示するとともに、受講学生の研究と論文作成に対する個別的な指導を行う。

【授業計画】

個別指導を行う。

【評価方法】

中間報告と論文により評価する。

【テキスト】

使用せず。

国際社会特別研究 M- I a・b

藤瀬浩司

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

世界経済の構造と発展—20世紀の世界経済の発展を主要テーマとして、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的な助言を行い、論文作成のための準備作業を指導する。

【授業計画】

各学生が自己テーマについて研究の進捗状況を適宜発表し、指導をうける。

時間については相談のうえ決定する。

【評価方法】

参加状況と個別研究の進み方で評価する。

【テキスト】

なし。

国際社会特別研究 M- I a・b

秦 忠夫

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

国際経済・金融問題

国際経済・金融問題を取り上げ、研究の方法を教授するとともに、個々の学生の研究に対する助言を行い論文作成を指導する。

【授業計画】

個別指導を行う。

【評価方法】

研究ならびに論文の進展具合いで評価。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介。

国際社会特別研究 M- I a・b

清水 洋

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

授業担当者の専門領域はアジア経済論、日本・アジア経済関係史、および国際労働移動論である。院生が選定した研究テーマを取り上げ、討議を通じて基礎理論の充実と進化をはかり、分析の方法を教示し、論文作成の指導をする。また、統計資料の読み方、英文資料の使い方、インターネットを通じての資料収集の方法、その他基礎的な研究技法も適宜教示する。

【授業計画】

個別指導を行う。

【評価方法】

中間報告と論文による評価。

【テキスト】

使用せず。

国際社会特別研究 M- I a・b

江藤恭二

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

教育に関わる諸問題を取りあげ、その究明の方法を教示するとともに、学生の研究と論文作成に対して個別的指導・助言を行う。

【授業計画】

学生各自の研究の進め方に対して、個別的指導・助言を行いつつ、各自の研究の進行状況に応じての報告を求める。

【評価方法】

平素の研究への取りくみ状況、報告内容により評価する。

【テキスト】

特定のものを使用しない。適宜指示をする。

国際社会特別研究 M- I a・b

西尾林太郎

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

修士論文作成のための基本文献の講読と論文指導を行う。その文献は各自テーマによって異なるので、個別に選定するが、前期はできるだけ最大公約数的な基本文献を全員で読み、後期はグループ別又は個別に読んで行きたい。そして随時、修士論文の章または節にあたる部分あるいはそれらに関連するテーマについてレポートを作成し、報告をしてもらう。特に後期はレポート報告が中心となる。

【授業計画】

- 前期 a テーマ別文献リスト作成
b テーマ別データベース作成
c 基本文献講読
d 各自のテーマによるレポート
- 後期 a 各自のテーマによるレポート
b 修士論文の構成
c テーマ別データベースのチェック

【評価方法】

出席状況とレポートおよびいろいろな成果を総合して評価する。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

その都度、指示する。

国際社会特別研究 M- I a・b

小木曾通男

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

江戸時代の長い鎖国から日本が開国し、急速な構造改革、文明開化を進め近代先進国家となった過程を教育に視座をおき、授業計画に示す4視点から解明することを目的とする。

【授業計画】

1. 海外視察から
 - ①江戸幕府使節団の派遣
 - ②明治政府の海外視察団の派遣
 - ③岩倉使節団の派遣
2. お雇い外国人から
 - ①軍事を中心とした伝習所のお雇い外国人
 - ②陸海軍の近代化とお雇い外国人
 - ③高等教育とお雇い外国人
 - ④産業育成とお雇い外国人
3. 外国語教育から
 - ①蘭学から洋学への転換の過程
 - ②明治初期の外国語教育
 - ③貢進生制度
4. 海外留学生の派遣から
 - ①江戸時代の海外留学生
 - ②明治時代の海外留学生制度の変遷

【評価方法】

出席状況と平素のレポートによる

【参考文献・資料】

その都度、紹介する

メディアプロデュース特別研究 M-Ia・b

坂元 多

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

テレビ、映画など映像メディアを取り上げ、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的な助言を行ない、論文作成又は研究成果の結実を指導する。一つの映像メディアからどのような研究テーマが抽出できるか、さまざまなケースを例示し研究の分野、方向をさぐる。

【授業計画】

キーとなる先行の論文の読み合わせをベースに質疑など、討議法を加えた進め方をとりたい。

【評価方法】

レポート提出によって評価

【テキスト】

特になし

メディアプロデュース特別研究 M-Ia・b

親松和浩

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

ITを用いたメディアの可能性を探究する。特に、パソコンや携帯端末（電話を含む）とインターネットの利用に重点を置く。研究方法の教示と助言を行い、研究論文作成の指導を行う。研究テーマにはプロトタイプ的なシステム設計／試作を行うものも含める。

【授業計画】

個人またはグループのテーマごとの個別指導を行う。また、学部学生との関係も考慮に入れる。

【評価方法】

出席状況と報告レポート等で評価する。

メディアプロデュース特別研究 M-Ia・b

五島幸一

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

メディアを媒介としたメッセージをレトリック批評の観点から取り上げ、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的助言をおこない、論文作成を指導する。

【授業計画】

研究テーマの設定、問題設定、論文の書き方などを学生との討論を通して指導する。

【評価方法】

論文の進捗状況によって評価する。

【テキスト】

とくになし。

メディアプロデュース特別研究 M-Ia・b

大西 誠

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

メディアは情報やメッセージを伝える媒体でありながら、メディアの形態そのものがメッセージを発信するというマクルーハンが指摘した現象が顕著になっている。理論のよりどころとなるアクチュアルな現実を直接経験することを重視しながら「現代」をプロデュースする感覚・感性を研ぎすます。さらに各自が研究テーマを発掘し、仮説を立て、調査、分析し、検証する。

【授業計画】

個別指導により、以下の目標を達成する。

- ・メディアの現状と個別の研究テーマを関連づけ、各自のプロデュース感覚を養う。
- ・焦点化した調査、資料の収集と目標との関連性、仮説の設定あるいは企画立案など実証的アプローチを明確にし、計画性を明確にする。
- ・院生相互あるいは学部学生との連携などによって、論文あるいは制作の構成の批評・検討をすすめる。

【評価方法】

先行研究のまとめなど調査研究のレポート、口頭発表と討論などで、総合的に評価する。

【テキスト】

特になし

メディアプロデュース特別研究 M-I a・b

太田浩司

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

様々なコミュニケーションメディアを通して繰り広げられるグループ間、異文化間のコミュニケーションを研究する。特にテレビ、インターネット、新聞などで繰り広げられる様々なコミュニケーション上の問題を取り上げて理論的に分析、また新しい理論展開を試みたい。

【授業計画】

詳しい授業予定は学期の最初に説明する。

【評価方法】

学期末ペーパー

【テキスト】

未定

メディアプロデュース特別研究 M-I a・b

石田米和

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

メディアのグローバル化を念頭に置き、認知科学および比較文化論等の視点から、特に映像メディアのコンテンツの普遍性等について、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的な助言を行い、論文作成又は研究成果の結実を指導する。

【授業計画】

概要は以下の通りである。

- ・コンテンツに係わる諸問題の抽出
- ・表現方法と社会的認知－普遍性・個性性と認知
- ・社会的認知と社会的文化的文脈－認知ギャップの要因
- ・メディアのグローバル化と情報内容・表現方法－表現の自由とルール
- ・その他

【評価方法】

- ・出席状況、受講態度
- ・レポート
- ・定期試験

【テキスト】

未定。英文も使用する予定である。

【参考文献・資料】

未定。

都市環境デザイン特別研究 M-I a・b

河辺泰宏

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

西洋建築の歴史と歴史的建造物の保存と再生を柱として、文献講読を中心に授業を進める。

授業は、参加者の興味と担当者の専門性を考慮して、半期ごとに異なった文献を選びながら進める予定である。また、本演習は修士論文の研究指導を兼ねているので、資料収集の方法や論文の読み方、書き方にも重点を置く。

【授業計画】

- 1) 西洋建築史および歴史的建造物の保存と再生に関する論文や書籍を持ち寄り、その中から適切な主題をあつかったものを選び、読み合わせる。
- 2) 読み合わせには、分担を決めてあらかじめ資料を用意し、理解の助けとする。
- 3) 論文のまとめ方を指導する。

【評価方法】

参加の状況によって判断する。

【テキスト】

未定。必要に応じて選択し、必要な資料は配付する。

都市環境デザイン特別研究 M-I a・b

吉田邦彦

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

高度情報社会における都市・建築のあり方、建築設計の方法に関する諸問題の解明、あるいは問題解決のための方法の提案を主要テーマとする。

上記テーマをもとにして、今日の都市・建築の設計におけるさまざまな問題を取り上げて、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別な助言を行い、論文作成または研究成果の結実を指導する。

【授業計画】

学生との討論を通して、問題点を明らかにするとともに、学生による修士論文の進行にあわせて、その折々での調査・検討の結果について共同で議論し、指導する。

文献収集、既往の論文の検討、研究テーマに対するアプローチの方法など、研究テーマに関する基本的な事項を中心に指導する。

【評価方法】

提出された論文の内容、形式の水準と、学生の授業中での議論に対する積極性によって評価する。

【テキスト】

使用しない。

都市環境デザイン特別研究 M-I a・b

日色真帆

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

建築や都市空間について、既になされたデザインについての分析と、新しいデザイン方法の開発を大きなテーマとして、学生がそれぞれにテーマを絞り込み研究をすすめるための指導をする。

【授業計画】

個別指導。

【評価方法】

レポートによる評価。

【テキスト】

特になし。

なお、以下の本は論文をまとめる参考になる。文化系の人にも推薦できる。

理科系の作文技術（木下是雄 中公新書）

レポートの組み立て方（木下是雄 ちくま学芸文庫）

都市環境デザイン特別研究 M-I a・b

垂井洋蔵

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

都市、建築にかかわる種々の事象や具体的な建築作品あるいは建築家を題材として、空間や場所に関わる現象、あるいは建築作品の制作に関わる諸思潮の理解と建築論的解釈をおこなう。題材とする事象は、学生の主体的な志向性に期待するがいくつかの例をあげれば、

- 1) 歴史上あるいは現代の建築家を題材にその作品と思潮を解明する作家論
 - 2) 具体的な建築を題材にその成立、歴史的意味、空間の独自性等を論ずる作品論
 - 3) 建築作品や集落の空間構造、や諸要素の構成等を論ずる形態論
 - 4) 建築空間や場所に関わる儀礼や祭礼を題材にして建築的な現象を読み取る意味論
- などが考えられる。

【授業計画】

テーマの選定への助言と、考察のための基礎となる方法論を提示する。個別に論文の進捗にあわせた指導を行い、前後期継続して、2年次に修士論文として纏め上げるための基礎となるフィールドを作る。

【評価方法】

視点の新しさ、推論の論理性、分析の正確さなどを総合的に評価する。

【テキスト】

適宜テーマに沿って参考文献を提示する。

都市環境デザイン特別研究 M-I a・b

仁科浩二郎

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

学部における都市環境評価論で学習した一般的事項を展望しながら、都市および国際的スケールでの、より実地的、現実的な資源環境問題を扱う。国際的規模で考察する典型的課題としては、

- (1) 温暖化問題に関する1997年京都会議以後の国際的な実効の動向
- (2) ドイツのエネルギー事情と、原子力発電に関してなされた最近の決断の意味
- (3) 循環型都市社会の構築に向けた努力の過程で浮上した困難
- (4) 個別消費材が環境に及ぼす負荷をより系統的に評価する手法の検討
- (5) 世帯単位のエネルギー消費の実態などがある。

【授業計画】

環境庁、通産省、電力会社、関連学術誌、自治体の資料、ホームページ、および国内・国際報道を参考として調査を続け、定期的な検討・討論を行う。同時に、関連施設の見学を適宜行う。

【評価方法】

以上の検討における積極性、調査能力とそのまとめの力、期末レポートで評価する。

【テキスト】

固定的なものではなく、進行に応じて必要資料を配付。

【参考文献・資料】

環境庁ホームページの中の「気候変動枠組み条約」関連ページ、環境白書、循環型社会白書
NHK環境番組ビデオ
The Economist 誌

都市環境デザイン特別研究 M-I a・b

太田 裕

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

「異常自然現象と人間社会の共生」を大枠とする領域で研究課題の選定を行い、事例研究の推進を計る。モデル地区としては近郊の都市を選び、現地（実態、資料）調査を中心におく。その中で、問題発見—解決—報告に至る一連の研究技法を体得する。したがって、授業形態は必然セミナー形式となり、受講者が率先かつ自力で課題達成に努めることとなる。

【授業計画】

前期

1. 基礎知見学習
2. 既往研究の体系的把握
3. 課題の予備的実施

後期

1. 課題解決実行プログラムの作成
2. 現地・実（資料）調査の実施
3. レポートの作成

【テキスト】

特になし。随時、読解すべき論文・専門書を指示する。

【参考文献・資料】

同上。

(注) 都市環境デザイン特別研究M-II a, bとの併行学習は許容するが、その場合は「研究課題」を大きく変えたものとする。

主題講義 I

大西 誠 五島幸一

集中 1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会におけるメディアプロデュースとは何かを、映像プロデュースやイベントプロデュースなど実践事例を基に検討し、メディアの生産から流通、消費について現状と課題を明らかにする。

本講では、特に生産者であるメディアのプロ（送り手）と消費者である受け手との相互関係を今日の課題でもあるメディア・リテラシーの観点から概観してみたい。

【授業計画】

数人の講師による集中講義の形式をとる。初回は、講義概要と現状報告を行なう。以降は、専門的な立場から講義を行ない、最終回に質疑・討論と総括で終える。詳細は別途、決定次第公表する。

【評価方法】

レポート提出による。

【テキスト】

使用しない。参考文献は講義中に紹介するとともに、適宜、資料を配布する。

国際理解教育 I

小木曾通男

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

開国の実現によって鎖国時代の閉鎖社会から、急速かつ広範な外国文明の積極的な受容社会への変換によって、近代日本の発展がはじまった。

幕末から明治維新にかけて、西洋の進んだ技術文明がどのような教育的経路をたどって日本に導入されたかを視点から学習する。

1. 幕府の日本近代化政策と日本近代化に及ぼした教育的な効果について次の点を中心にして学習する。

- (1) 幕府の海外使節団派遣
- (2) 幕府派遣、各藩派遣、密航留学生
- (3) 洋学、技術伝習

2. 明治新政府発足と外国文明の積極的な受容のための教育政策について次の点を中心にして学習する。

- (1) 岩倉米欧使節団をはじめとする海外視察団の派遣
- (2) 大学南校の貢進生制度と外国語教育
- (3) 高等教育機関の設置とお雇い外国人教員の雇用
- (4) 明治期の海外留学制度の整備と日本の教育の発展
- (5) 明治期における技術導入と伝習生の海外派遣

【評価方法】

発表及び課題レポートによる。

【テキスト】

国際理解教育論講義概要 200円

【参考文献・資料】

特に指定しないが参考文献は授業において指示する。

地域社会特別研究D I (地域産業論)

谷口 茂

1～3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

いずれの産業（企業）も、それが立地する地域の特性の影響を受けざるをえない。この点を明らかにするのが、本授業の目的である。名古屋市を中核とする東海地域を研究対象に取り上げ、同地域の産業の現状を分析し、その課題の解明に努め、活性化のための方策を探究する。そのさい、産業と地域との相互関係の分析を最も重視し、また実証的調査にも重点をおき、さらに地域の労働力の量と質も視野に入れたい。授業では、研究発表・討論の活用を通じて、学生が自主的・自発的研究姿勢を習得するように配慮する。また論文指導にあたっては、学生の個性や資質に応じた個別的指導助言を行い、優れた研究者を育成することを狙いとする。

地域社会特別研究D II (地域交通論)

辻 紘良

1～3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

現在移动通信技術や情報技術の著しい進展を背景に、いわゆるITS (Intelligent Transport Systems) と総称される自動車交通に関する新たな技術・システムの開発および普及が急速に進められている。この授業では、ITSの地域交通への展開を取り上げ、現在この分野で注目されている中心的なテーマ、技術開発動向等に関し検討し、問題の解決方法を研究する。この過程で学生の優れた問題意識と高度な分析能力を育成する。これとともに、参加学生に対して、授業内での発表・討論、あるいは個別的な助言を通じて、学位論文の作成過程を指導する。博士後期課程を3年で終了しようとする場合、第1年次で文献・資料調査にもとづく研究テーマの設定、研究方法の把握に主眼を置き、第2年次でデータ収集、システム構築、問題解析等によって独自の研究成果をうることに集中し、第3年次で論文の完成に向かうよう指導する。

地域社会特別研究DⅢ（地域文化論）

谷沢 明

1～3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

地域社会における物質文化と精神文化の両面を対象とし、人間が自然に対峙し共存しながら築いてきた生活様式と内容を取り上げる。主な指導内容は、(1)新しい文化と生活様式を創造する機能を有した多様性のある地域作りの研究、(2)歴史や風土、文化的蓄積等の地域特性を生かした自立的な地域づくりの研究、(3)個性と伝統のある地域文化の保存と活用、および歴史的環境の保全を図りつつ行う地域づくりの研究等である。また、参加学生の学位論文作成を指導する。博士後期課程を3年間で修了しようとする場合、第1年次で研究テーマの設定、既往研究の把握、文献・資料の確認、野外調査の指導に主眼を置き、第2年次で、野外調査の実施、および文献資料の分析によって独自の研究成果をうることに集中し、第3年次で論文の完成に向かうよう指導する。

国際社会特別研究DⅠ（国際社会発展論）

藤瀬浩司

1～3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

近現代において各国が辿った社会経済発展、および世界システムの構造変化を取り上げ、現在この分野で問題とされている中心的なテーマ、研究方法、論争点、文献・資料を開示し、優れた問題意識と高度な分析能力を育成する。これとともに、参加学生に対して、授業内での発表・討論、あるいは個別的な助言を通じて、学位論文の作成過程を指導する。博士後期課程を3年間で修了しようとする場合、第1年次で、研究テーマの設定、研究史の把握、文献・資料の確認に主眼を置き、第2年次で、文献資料の分析によって独自の研究成果をうることに集中し、第3年次で論文の完成に向かうよう指導する。

国際社会特別研究DⅡ（国際教育交流論）

江藤恭二

1～3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

日本の教育や文化について解明するのに日本のみを考察の対象にしていたのでは相対的な実相が浮かび上がってこない。より広い視野の中で、対象に迫っていくべきであろう。そのため、この領域における中心的テーマ、研究方法、文献資料等を示し、参加者の問題意識の深化と、方法論の明確化を図る。また、参加者に対して個別的レポート、相互の討論を行わせ、それらへの助言を通じて、論文作成への取組みを指導する。

国際社会特別研究DⅢ（国際労働移動論）

清水 洋

1～3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

近現代アジアを中心に、華人・日本人・インド人などの労働力移動を取り上げ、その実態、各国の移民政策、民族問題、移民受け入れ国・送り出し国に対する社会・経済的インパクトなどを、1次資料・2次文献を基に深く掘り下げて考察し、独創力を養い、高度な分析能力を育成する。また、授業内での研究発表・討論、あるいは個別的な助言を通じて、学位論文の作成過程を指導する。博士後期課程を3年間で終了しようとする場合、第1年次で、研究テーマの設定、移民史・基礎理論の把握、文献・資料の確認に主眼を置き、第2年次で、文献資料の分析によって独自の研究成果をうることに集中し、第3年次で論文の完成に向かうよう指導する。

国際社会特別研究DⅣ（日本政治・比較政治論）

西尾林太郎

1～3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

近代日本の政治・外交・社会等の分野の近代化とその特質について、中国、韓国等のアジア諸国や欧米諸国との比較検討を通じて考察する。日本を含め各国の近現代史に関する文献をはじめ、比較近代化論や比較政治に関する文献の講読と各種の歴史資料の解説・分析を通じ、優れた問題意識と高度な分析能力を育成する。同時に、授業内における発表・討論や個別的な助言により、学位論文の作成を指導する。なお、博士後期課程を3年間で修了しようとする場合、第1年次で研究テーマの設定、内外の研究史の把握、文献・資料の収集とその内容の検討、第2年次で文献・資料の分析についてそれぞれ指導する。そして第3年次では、学位論文の作成について指導し、その完成を期したい。

メディアプロデュース特別研究DⅠ（映像表現論）

坂元 多

1～3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

メディアスタディーズに関わる内外の中心的な論文の読み合わせを行う。論文の内容把握が一つの狙いであると同時に、その論理の組み立て方、資料の使い方、結論への導き方、用語や、概念の定義の仕方など論文執筆のための枠組みも学びとらせる。論文のジャンルとしては、映像番組制作に重点をおき、番組分析の基本となるエンコーディング、デコーディングに関する論文、番組制作の基本となる映像編集やナレーションに関する論文、具体的な番組論としてのケーススタディなどを扱い、進度、年次によって個別にアサインメントを考える。

メディアプロデュース特別研究DⅡ（メディア文化史論）

山田登世子

1～3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

現代的メディアの生産と需要を歴史的に把握することを目的とするメディア文化史は優れて学際的な学問領域であり、幅広い知識が要求される。第1年次では、複製技術論、読書論等々、広領域にわたる基礎文献の習得を徹底させるとともに、研究対象をいかなるメディアに焦点化するか、テーマ選択を指導する。つづく第2、3年次では、選択した研究テーマに従って、文献資料の探索・分析、ならびに実際のメディア体験の理論的分析を課題とし、その成果を逐次授業で報告させつつ、学位論文にまとめさせる。

メディアプロデュース特別研究DⅢ（メディア環境論）

大西 誠

1～3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

現代の映像文化を教育の視座から、放送メディアとの関係に注目し、研究文献や作品を通じてメディア環境を縮約的に理解し、各自の課題の発見と解決のプロセスを明らかにする。あわせて、現在の高度情報化社会の映像文化の特質やテクノロジーのディテールを取り上げ、メディア環境の個別的課題を社会的・文化的文脈の中で分析する手法を開発・養成していく。具体的には、各自の課題レポートの発表・討論などを通じて、研究方法や分析方法、ひいては論文作成を個別的に指導する。年次を追うごとに課題発見から調査研究、分析と論文作成を段階的に指導する。

メディアプロデュース特別研究DⅣ（レトリック評価論）

五島幸一

1～3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

古代ギリシャ・ローマ時代からの流れを受け継ぐレトリック批評は、元来スピーチ批評として発達してきた。しかしながら、現代のメディアの発達に伴い、様々なメディア（テレビ、映画、広告など）の中身（コンテンツ）も分析するようになり、その分析対象は言語のみならず非言語にも及ぶようになった。このレトリック批評の流れを把握し、その理論を現実の問題の解決に応用できうる知識を養う。

第1年次では、レトリック批評理論の歴史的な流れに焦点を当てて、その特徴を考察する。つづく第2、3年次では、現代レトリック批評を視座の中心とし、文献資料の探索・分析、ならびに実際のメディアのメッセージを理論的に分析することを課題とし、その成果を授業で報告させ、学位論文にまとめさせる。

都市環境デザイン特別研究DⅠ（情報化建築論）

吉田邦彦

1～3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

最近の情報通信技術（IT）の進歩は著しく、建築のあらゆる領域に大きな影響を与えつつある。建築とITとの関わりにおける問題を取り上げ、その中心的なテーマ、研究方法、論争点、文献・資料等を開示し、優れた問題意識と高度な分析能力を育成する。

第1年次では、修士論文で扱った問題を中心に各自が関心をもつテーマを設定し、既往の研究の確認、研究方法などを中心におき、第2年次では、新たな研究調査を実施させ、独自の研究成果を得ることに集中し、中間発表ができるように指導し、第3年次では、2年次で実施した結果をもとに研究をさらに深化させ、学位論文として完成するように指導する。

都市環境デザイン特別研究DⅡ（都市エネルギー論）

仁科浩二郎

1～3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

授業では、エネルギー源の確保と、その消費に伴う環境悪化の抑止という現在の都市が持つ両立困難な長期的二課題に焦点をすえる。エネルギー消費に伴うCO₂ガスその他の排気は、温暖化問題はもとより複雑な環境問題の原因とされ、近年、オフィス街大型消費よりも、市民生活の小口消費に基づく増加が著しい。その上、一般生活廃棄物の累積は、循環型社会の早期実現を迫っている。参加学生に対しては、博士課程の3年間は現存データの科学的咀嚼とオリジナル資料取得の努力を通じて、これら現都市的課題の実像を自身の言葉で把握させ、その上で解決策を探る態度を教授する。指導は学生の調査・発表と、授業内の討論・助言で行い、論文作成に向けた明確な事実データの蓄積集約と、論理的表現法の訓練を指導する。

都市環境デザイン特別研究DⅢ（建築保存再生論）

西沢泰彦

1～3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

古代から近代にわたる西洋建築および明治以降の日本の近代建築について、様式史的・建設技術史的観点あるいは保存・修復論的観点から今日的なテーマを取り上げ、研究方法や文献資料などを示し、的確な問題意識と高度な分析能力を養う。

学生には年次ごとに各論的テーマを与え、学習段階に応じて適宜、調査研究成果の発表・報告を義務づけるとともに個別的な助言を通じて学位論文の作成を指導する。

都市環境デザイン特別研究DIV (建築・都市空間デザイン論)

日色真帆

1～3年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

建築・都市空間のデザインに関して、環境行動研究、人間環境系の計画理論、設計方法論などの成果を踏まえて倫理的考察を進める。その一方で、都市居住に関わる現代都市の具体的問題を対象に行う調査分析と、様々な共同作業を支援する新しい設計手法の開発とを実践的課題として掲げる。これらの研究分野について指導し、それを受けて学生は、教員および他の学生と協力して研究を進める。学生との論議を重ねて個別の学位研究テーマを絞り込むよう指導する。調査分析、研究発表、学位論文の作成等に関する技法上の指導も併せて行う。

学校経営と学校図書館

小木曾通男

集中 全学年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功事例を紹介し学習する。

【授業計画】

1. 学校図書館の管理運営組織
 - (1) 生徒の利用時間の設定
 - (2) 生徒への図書等の貸し出し方法
 - (3) 長期休業期間中の開館状況
2. 魅力ある学校図書館について
 - (1) 生徒が親しみやすい雰囲気のある学校図書館
 - (2) 学校図書館の図書・資料等の整備拡充
 - (3) 生徒が利用しやすい学校図書館経営
3. 学校図書館と生徒会活動の連携
 - (1) 生徒会図書委員会の組織と活動
 - (2) 読書週間、読書コンクール、図書館日より
 - (3) 学校図書館の利用PR活動
4. 学校図書館の充実
 - (1) PTA組織を活用した寄贈図書等
 - (2) 地域社会への呼びかけによる寄贈図書等
 - (3) 関係機関への呼びかけによる寄贈図書等

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

学校図書館メディアの構成

中村和夫

集中 全学年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

【授業計画】

1. 児童生徒が喜んで利用するメディア構成
 - (1) 現在の学校図書館のメディア構成の実態の分析
 - (2) 児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の蔵書選定
 - (3) 児童生徒の学校図書館に期待するものは何か
2. 教育課程にマッチしたメディア構成
 - (1) 教養中心から教科学習に必要なメディアの収集
 - (2) 「総合学習の時間の学習」の視点からのメディア構成
 - (3) 「情報」「オーラル英語」等の新しい教科科目の教材
3. 情報化時代にふさわしいメディアの特質の理解
 - (1) ビデオ、DVD、CD等の視聴覚的メディア
 - (2) CDRom、マイクロフィルム等の活字メディアに代わるもの
4. 学校図書館の資料分類と目録
 - (1) 分類の意義と必要性、分類表の構造、日本十進分類表の使い方
 - (2) 目録の意義と種類、目録規則、目録作業の基本

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

学習指導と学校図書館

加納篤憲

集中 全学年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

学校図書館は、児童生徒の豊かな人間性の育成に貢献することが必要であるのは論をまたないところであるが、同時に、学校における学習指導に深くかかわるものであることを看過してはならない。学習指導に効果的な学校図書館のあり方やその活用方法について、教育実践例に基づいて、次の視点に立って学習する。

【授業計画】

1. 学習活動を促進する学校図書館
 - (1) 利用しやすい本や資料の配架の工夫
 - (2) 教科・科目別の配架、コーナーの設定
 - (3) 教科・科目に関係のある本や資料の充実
2. 学習指導と学校図書館の利用
 - (1) 各教科・科目の課題学習と学校図書館の利用
 - (2) 学校図書館を利用した共同研究・グループ研究
3. 各教科・科目の学習指導
 - (1) 学校図書館を利用する各教科・科目の課題学習
 - (2) 学校図書館を利用する各教科・科目の予習課題
4. 新設された「情報」の学習指導
 - (1) 「情報」における学校図書館の活用方法
5. 新設された「総合的な学習の時間」
 - (1) 「総合的な学習の時間」における学校図書館の役割
 - (2) 学校図書館を利用した「総合的な学習の時間」におけるテーマ別学習、課題学習、グループ学習の展開

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

読書と豊かな人間性

梅田卓夫

集中 全学年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な実例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

【授業計画】

1. 読書のよろこび
 - (1) 人はどのようにして読書の楽しみと出会うのか
 - (2) 代表的な先人の読書経験から学ぶもの
 - (3) 受講者自身の学校図書館での本との出会い
2. 人間形成と読書
 - (1) 幼児期における読み聞かせの教育的意味
 - (2) 少年期の決定的・運命的な読書との出会い
 - (3) 読書における、内省、思索の意義
3. 学校教育における読書指導
 - (1) 教員による本の紹介、読み聞かせ
 - (2) 「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4. 読書と仲間作り
 - (1) 家庭での読書についての親子の対話
 - (2) 友達同士の読書グループ、読書会
 - (3) 学区図書館を利用した共同研究
5. 読書の技術
 - (1) 情報化時代の読書のあり方
 - (2) 愛読書、好きな作家

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

情報メディアの活用

東浦信博

集中 全学年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

【授業計画】

1. 学校図書館と情報機器
 - (1)学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
 - (2)学校図書館に設置する情報機器
2. 学校図書館とコンピュータとの関わり
 - (1)図書検索とコンピュータ (OPAC)
 - (2)インターネットを使用する資料の収集
3. 学校図書館の情報メディアの活用
 - (1)視覚メディアとしてのVTR等
 - (2)聴覚メディアとしてのDVD、CD等
 - (3)活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

Intensive English 2002 A

ベヴァリー・F. M. カレン ポール・ルイス

全学年 前期 選択 2単位

【Course Content】

This course will offer motivated students a chance to further develop their English skills by intensive practice. In each class, students will be expected to speak English only, and participate actively in activities designed to promote greater fluency and accuracy of expression, enhance listening comprehension, improve vocabulary, and develop each student's confidence in his or her ability to communicate effectively in English. A variety of media, including video, will be used in the course.

【Schedule】

The course will begin with a listening focus, in which students will be encouraged to actively control their aural understanding through the use of simple but effective strategies to clarify and confirm understanding. In the following weeks, classes will combine speaking and listening practice in entertaining but challenging activities which use authentic video materials as models for speaking. There will be an interview at the end of the term.

【Assessment】

Assessment is ongoing and based on attendance, effort, willingness to speak English exclusively in class, and active participation in all activities.

【Textbooks】

TBA

Intensive English 2002 B

ベヴァリー・F. M. カレン ポール・ルイス

全学年 後期 選択 2単位

【Course Content】

This course will continue to offer motivated students a chance to further develop their English skills by intensive practice. In each class, students will be expected to speak English only, and participate actively in activities designed to promote greater fluency and accuracy of expression, enhance listening comprehension, improve vocabulary, and develop each student's confidence in his or her ability to communicate effectively in English. A variety of media, including video, will be used in the course.

【Schedule】

As in the first semester, this course will begin with a listening focus, in which students will be encouraged to actively control their aural understanding through the use of simple but effective strategies to clarify and confirm understanding. In the following weeks, classes will combine speaking and listening practice in entertaining but challenging activities which use authentic video materials as models for speaking. There will be an interview at the end of the term.

【Assessment】

Assessment is ongoing and based on attendance, effort, willingness to speak English exclusively in class, and active participation in all activities.

【Textbooks】

TBA

TOEFL・TOEIC トレーニング I

ティビッド・C、ダイカス ジョナサン・E、ロング ハリー・T、リス ジョアン・M、ウヅマン
ジェームス・A、ジョラー 野口朋香 鈴木哲至

全学年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

TOEFL (1)

高校時代の英語学習単位数、ネイティブの授業経験の有無、英語の学力等の点からみて、英語の聞き取り及び表現の基礎的能力のトレーニングを必要とする者を対象とする。授業では、TOEFL や TOEIC などの試験を目標として、各自の学習歴及び学力によりクラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の基礎的運用能力を強化する。

TOEFL means "Test Of English as a Foreign Language".

Students who have never done a TOEFL test or who have a score of less than 345 should consider doing this course.

This is an introductory level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
 - A. Short conversations
 - B. Long conversations
 - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
 - A. Structure
 - B. Written expression
3. Reading comprehension
 - A. Reading comprehension
 - B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL I (1) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

TOEFL・TOEIC トレーニング I

ティビッド・C、ダイカス ジョナサン・E、ロング ハリー・T、リス ジョアン・M、ウヅマン
ジェームス・A、ジョラー 野口朋香 鈴木哲至

全学年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

TOEIC (1)

高校時代の英語学習単位数、ネイティブの授業経験の有無、英語の学力等の点からみて、英語の聞き取り及び表現の基礎的能力のトレーニングを必要とする者を対象とする。授業では、TOEFL や TOEIC などの試験を目標として、各自の学習歴及び学力によりクラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の基礎的運用能力を強化する。

TOEIC means "Test Of English for International Communication".

This is an introductory level course for preparation for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

Students who have never done a TOEIC test or who have a score of less than 250 should consider doing this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
 1. Sentences about photographs.
 2. Questions / responses
 3. Dialogues
 4. Short talks
- B. Reading comprehension
 5. Sentence completion
 6. Error identification
 7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC I (1) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングⅡ

テイボ・C、ダイカス、ジョサン・E、ログ、バルー・T、リス、ジョン・M、ウホマン、ジェームス・A、ジョー
シレル・A、ラインガマ、テイボ・P、レヴィ、アラン・テグイス、鈴木哲至

全学年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

TOEFL (2)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 500点、TOEIC 640点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

TOEFL means "Test Of English as a Foreign Language".

Students who have completed TOEFL I or who have a score of less than 370 should consider doing this course.

This is a basic level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
 - A. Short conversations
 - B. Long conversations
 - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
 - A. Structure
 - B. Written expression
3. Reading comprehension
 - A. Reading comprehension
 - B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL II (2) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングⅡ

テイボ・C、ダイカス、ジョサン・E、ログ、バルー・T、リス、ジョン・M、ウホマン、ジェームス・A、ジョー
シレル・A、ラインガマ、テイボ・P、レヴィ、アラン・テグイス、鈴木哲至

全学年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

TOEIC (2)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 500点、TOEIC 640点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is a basic level course for preparation for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

Students who have completed TOEIC I or have a TOEIC score of less than 300 should consider doing this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
 1. Sentences about photographs.
 2. Questions / responses
 3. Dialogues
 4. Short talks
- B. Reading comprehension
 5. Sentence completion.
 6. Error identification
 7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC II (2) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングⅢ

ジョアン・M. ウッドマン ジェームス・A. ジョリー
アラン・デーヴィス

全学年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

TOEFL (3)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅣの授業につなげる。

Students who have completed TOEFL I or II, or who have a score of more than 370 should consider doing this course.

This is a high-beginner level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
 - A. Short conversations
 - B. Long conversations
 - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
 - A. Structure
 - B. Written expression
3. Reading comprehension
 - A. Reading comprehension
 - B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL III (3) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングⅢ

ジョアン・M. ウッドマン ジェームス・A. ジョリー
アラン・デーヴィス

全学年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

TOEIC (3)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅣの授業につなげる。

This is a high - beginner course for the TOEIC test. TOEIC test - like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 300 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

A. Listening comprehension

1. Sentences about photographs.
2. Questions / responses
3. Dialogues
4. Short talks

B. Reading comprehension

5. Sentence completion
6. Error identification
7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC III (3) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングⅣ

ジョアン・M. ウッドマン ジェームス・A. ジョリー
ジャクリン・ノリス

全学年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

TOEFL (4)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 550点、TOEIC 720点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

Students who have completed TOEFL I or II , or who have a score of more than 370 should consider doing this course.

This is a pre -intermediate level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test -like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
 - A. Short conversations
 - B. Long conversations
 - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
 - A. Structure
 - B. Written expression
3. Reading comprehension
 - A. Reading comprehension
 - B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL IV (4) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングⅣ

ジョアン・M. ウッドマン ジェームス・A. ジョリー
ジャクリン・ノリス

全学年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

TOEIC (4)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 550点、TOEIC 720点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is a pre -intermediate course for the TOEIC test. TOEIC test -like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II , or have a TOEIC score higher than 300 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
 1. Sentences about photographs.
 2. Questions / responses
 3. Dialogues
 4. Short talks
- B. Reading comprehension
 5. Sentence completion
 6. Error identification
 7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC IV (4) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングV

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームス・A. ジョリー

全学年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

TOEFL (5)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこからより自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、学力差に対応したキメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングVIの授業につなげる。

Students who have completed TOEFL I or II, or who have a score of more than 370 should consider doing this course.

This is an intermediate level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
 - A. Short conversations
 - B. Long conversations
 - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
 - A. Structure
 - B. Written expression
3. Reading comprehension
 - A. Reading comprehension
 - B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL V(5) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングV

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームス・A. ジョリー

全学年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

TOEIC (5)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこからより自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、学力差に対応したキメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングVIの授業につなげる。

This is an intermediate course for the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 300 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
 1. Sentences about photographs.
 2. Questions / responses
 3. Dialogues
 4. Short talks
- B. Reading comprehension
 5. Sentence completion
 6. Error identification
 7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC V(5) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングⅥ

ジョアン・M. ウッドマン ジェームス・A. ジョリー
ジャクリーン・ノリス

全学年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

TOEFL (6)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 600点、TOEIC 860点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

Students who have completed TOEFL I or II, or who have a score of more than 370 should consider doing this course.

This is an advanced level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
 - A. Short conversations
 - B. Long conversations
 - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
 - A. Structure
 - B. Written expression
3. Reading comprehension
 - A. Reading comprehension
 - B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL VI(6) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングⅥ

ジョアン・M. ウッドマン ジェームス・A. ジョリー
ジャクリーン・ノリス

全学年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

TOEIC (6)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 600点、TOEIC 860点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is an advanced course for the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

Students who have completed TOEIC I or II, or have a TOEIC score higher than 300 should consider taking this course.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
 1. Sentences about photographs.
 2. Questions / responses
 3. Dialogues
 4. Short talks
- B. Reading comprehension
 5. Sentence completion
 6. Error identification
 7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC VI(6) will be based on the students attendance, participation, classwork and homework.

【Textbooks】

To be announced.

米国NPOインターンシッププログラム

榎田勝利

集中 全学年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるポイント・オブ・ライト財団との共同プログラムとして実施する。米国の民間非営利組織（NPO）でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を定める。実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

（活動可能な分野）老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。
（米国側協力団体）ポイント・オブ・ライト財団（Points of Light Foundation）

【授業計画】

（事前研修）・インターンシップの活動分野の決定

- ・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習
- ・日本のNPO、ボランティア団体へフィールドワーク
- ・英会話のトレーニング

（現地プログラム）・オリエンテーション合宿

- ・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン
- ・1日特別研修プログラム
- ・インターンシップの体験報告書の作成と提出
- ・評価会、修了式、さよならパーティ

（事後研修）・フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価（受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書）を考慮し全体評価を行う。

上級英語セミナー2002A

ジョアン・M. ウッドマン

全学年 前期 選択

【Course Content】

週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。（1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。）

This is a new and exciting course designed for higher level students who are keen to further improve their English skills. Candidates will be selected on the basis of their TOEIC IP test scores, and since all students will be required to take another TOEIC IP test at the end of each semester, part of the final grade will include a component of "TOEIC IP test score improvement".

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

- a) teacher presented materials - (ie. NHK and world news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)
- b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article about Japan for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article).
- c) TOEIC vocabulary texts / materials

The course will deal with contemporary issues within Japan, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of current affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask and answer questions about it.

【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

【Assessment】

Assessment will include the following components:-

- 1) Vocabulary tests - 3 types
- 2) Preparation for (and participation in) class discussions
- 3) Listening comprehension activities
- 4) TOEIC IP test score improvement
- 5) Attendance

「上級英語セミナー2002A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生（木曜日4限）、ティビッド・レヴィ先生（金曜日5限）の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2002A

ディビッド・P. レヴィ

全学年 前期 選択

[Course Content]

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

This course is designed for higher level students who are keen to improve their English skills. Candidates will be selected on the basis of their TOEIC IP test score.

One of the foundations of good translation/interpretation/communication is an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a significant improvement in their vocabulary. It is also hoped that during the course students will achieve a TOEIC IP test score improvement.

Vocabulary lists/tests will be generated from:

- a) teacher presented materials, and
- b) student research. Students will be required to prepare newspaper articles for discussion in class, including providing vocabulary lists.

The course will deal with contemporary issues throughout the world, and there will be an emphasis on students developing their knowledge of world affairs. Students will also need to "think on their feet" as reflected in their ability to ask & answer questions during presentations.

[Schedule]

The aim of the course is to discuss up-to-date issues, & so it will be current events which will determine the schedule. However, students should expect to address social, economic, environmental, political, religious, medical, moral & issues.

[Assessment]

Assessment will include

- vocabulary tests
- preparation for, & participation in, class discussion
- listening comprehension activities
- attendance

[Textbooks]

To be advised

「上級英語セミナー2002A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生(木曜日4限)、ディビッド・レヴィ先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2002B

ジョアン・M. ウッドマン

全学年 後期 選択

[Course Content]

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。

This is a new and exciting course designed for higher level students who are keen to further improve their English skills. Candidates will be selected on the basis of their TOEIC IP test scores, and since all students will be required to take another TOEIC IP test at the end of each semester, part of the final grade will include a component of "TOEIC IP test score improvement".

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

- a) teacher presented materials - (ie. NHK and world news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)
- b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article about Japan for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article).
- c) TOEIC vocabulary texts / materials

The course will deal with contemporary issues within Japan, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of current affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask and answer questions about it.

[Schedule]

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

[Assessment]

Assessment will include the following components:-

- 1) Vocabulary tests - 3 types
- 2) Preparation for (and participation in) class discussions
- 3) Listening comprehension activities
- 4) TOEIC IP test score improvement
- 5) Attendance

「上級英語セミナー2002B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生(木曜日4限)、ディビッド・レヴィ先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2002B

ディビッド・P. レヴィ

全学年 後期 選択

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。

This course is designed for higher level students who are keen to improve their English skills. Candidates will be selected on the basis of their TOEIC IP test score.

One of the foundations of good translation/interpretation/communication is an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a significant improvement in their vocabulary. It is also hoped that during the course students will achieve a TOEIC IP test score improvement.

Vocabulary lists/tests will be generated from:

- teacher presented materials, and
- student research. Students will be required to prepare newspaper articles for discussion in class, including providing vocabulary lists.

The course will deal with contemporary issues throughout the world, and there will be an emphasis on students developing their knowledge of world affairs. Students will also need to "think on their feet" as reflected in their ability to ask & answer questions during presentations.

【Schedule】

The aim of the course is to discuss up-to-date issues, & so it will be current events which will determine the schedule. However, students should expect to address social, economic, environmental, political, religious, medical, moral & issues.

【Assessment】

Assessment will include

- vocabulary tests
- preparation for, & participation in, class discussion
- listening comprehension activities
- attendance

【Textbooks】

To be advised

「上級英語セミナー2002B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生(木曜日4限)、ディビッド・レヴィ先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2002C

横山綾子

全学年 前期 選択

【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。

それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。

このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。

最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Times からの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2002C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日4限)、ジョナサン・ロング先生(水曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2002C

ジョナサン・E. ロング

全学年 前期 選択

【Course Content】

週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。（1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。）

In this course the students will use all for language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures.

【Schedule】

Not yet determined.

【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

【Textbooks】

To be announced.

【Reference】

To be announced.

「上級英語セミナー2002C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生（火曜日4限）、ジョナサン・ロング先生（水曜日5限）の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2002D

横山綾子

全学年 後期 選択

【授業の概要】

週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。
4年間続けて履修できる。

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。

それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。

このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO（First in First out）の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。

最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回
通訳一般概論 Sight translation
第二～十回
The Student Times からの記事使用（テープ）
Shadowing Sight translation メモ取り
逐次通訳演習
同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2002D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生（火曜日4限）、ジョナサン・ロング先生（水曜日5限）の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2002D

ジョナサン・E. ロング

全学年 後期 選択

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。

In this course the students will use all for language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures.

【Schedule】

Not yet determined.

【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

【Textbooks】

To be announced.

【Reference】

To be announced.

「上級英語セミナー2002D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日4限)、ジョナサン・ロング先生(水曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2002E

ジョアン・M. ウッドマン

全学年 前期 選択

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

This is a new and exciting course designed for higher level students who are keen to further improve their English skills. Candidates will be selected on the basis of their TOEIC IP test scores, and since all students will be required to take another TOEIC IP test at the end of each semester, part of the final grade will include a component of "TOEIC IP test score improvement".

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

- a) teacher presented materials - (ie. CNN and BBC news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)
- b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article).
- c) TOEIC vocabulary text / materials

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask and answer questions about it.

【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

【Assessment】

Assessment will include the following components:

- 1) Vocabulary tests - 3 types
- 2) Preparation for (and participation in) class discussions
- 3) Listening comprehension activities
- 4) TOEIC IP test score improvement
- 5) Attendance

「上級英語セミナー2002E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生(火曜日5限)、横山先生(水曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2002E

横山綾子

全学年 前期 選択

【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。

それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。

このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。

最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Times からの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2002E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生(火曜日5限)、横山先生(水曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2002F

ジョアン・M. ウッドマン

全学年 後期 選択

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。
4年間続けて履修できる。

This is a new and exciting course designed for higher level students who are keen to further improve their English skills. Candidates will be selected on the basis of their TOEIC IP test scores, and since all students will be required to take another TOEIC IP test at the end of each semester, part of the final grade will include a component of "TOEIC IP test score improvement".

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

- a) teacher presented materials - (ie. CNN and BBC news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)
- b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article).
- c) TOEIC vocabulary text / materials

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask and answer questions about it.

【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

【Assessment】

Assessment will include the following components:-

- 1) Vocabulary tests - 3 types
- 2) Preparation for (and participation in) class discussions
- 3) Listening comprehension activities
- 4) TOEIC IP test score improvement
- 5) Attendance

「上級英語セミナー2002F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生(火曜日5限)、横山先生(水曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2002F

横山綾子

全学年 後期 選択

【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。

それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。

このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO (First in First out) の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。

最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Times からの記事使用 (テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2002F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生(火曜日5限)、横山先生(水曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

ASU TOEIC I A

天野純子 太田晶子

全学年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

TOEIC Dレベル(220-465)で400点以上の学生がTOEIC Cレベルに、TOEIC Cレベル(470-725)の学生がTOEIC Bレベルにそれぞれ到達するための講座。この講座は、文法・語彙問題、Reading、リスニングの基礎に重点を置いて学習するため、日本人教員が担当する。授業時間のみならず毎回豊富な量の宿題が課され、毎回チェックされる。非常にハードなコースであるため、中途半端な気持ちで受講しないでほしい。

【授業計画】

第1回 オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト

- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説(15分)
- ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説(15分)
- ・演習(文法問題・Reading・リスニング)(30分)
- ・問題解説(25分)

第15回 模擬テスト

*宿題 読解演習・文法問題(60分×7日) =

毎回7時間相当分

(合計 7時間×13回=91時間)

リスニング演習(60分×7日) =

毎回7時間相当分

(合計 7時間×13回=91時間)

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

『TOEICテスト730点クリア実践問題集』成美堂出版

『「とれる!」TOEICテスト730』マクミラン ランゲージハウス

ASU TOEIC I B

天野純子 太田晶子

全学年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

TOEICスコア400点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。

日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高週に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課される。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

詳細は、後日掲示にて連絡します。

ASU TOEIC II A

担当者未定

全学年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

TOEIC Dレベル（220-465）で400点以上の学生がTOEIC Cレベルに、TOEIC Cレベル（470-725）の学生がTOEIC Bレベルにそれぞれ到達するための講座。この講座は、リスニング、語彙問題、Readingの基礎に重点を置いて学習するため、ネイティブスピーカーの教員が担当する。授業時間のみならず毎回豊富な量の宿題が課され、毎回チェックされる。非常にハードなコースであるため、中途半端な気持ちで受講しないでほしい。

【授業計画】

第1回 オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト

- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
- ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
- ・演習（リスニング・Reading）（30分）
- ・問題解説（25分）

第15回 模擬テスト

*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝

毎回7時間相当分

（合計 7時間×13回＝91時間）

リスニング演習（60分×7日）＝

毎回7時間相当分

（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定

ASU TOEIC II B

担当者未定

全学年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

TOEICスコア400点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。

日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高週に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課される。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

詳細は、後日掲示にて連絡します。